

茨城県教育財団文化財調査報告第211集

ヲサル下遺跡
反子遺跡
大高田遺跡
前畠遺跡

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道
新設工事地内埋蔵文化財調査報告書

平成16年3月

国土交通省 常総国道事務所
財團法人 茨城県教育財団

ヲ
ソリ
反
おお
大
まえ
前
サル
子
こ
高
たか
田
だ
畑
はたけ
下
しした
遺跡
跡
跡
跡
跡
跡

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道
新設工事地内埋蔵文化財調査報告書

平成16年3月

国土交通省 常総国道事務所
財團法人 茨城県教育財團

序

首都圏中央連絡自動車道の建設は、首都圏の中核都市を相互に結ぶことにより地域の核となる都市群を形成し、さらにこれらの地域における交通の円滑化を図り、地域の自立性を高める拠点となる都市整備を目的として計画されたものであります。

この事業予定地内には埋蔵文化財包蔵地であるヲサル下遺跡・反子遺跡・大高田遺跡・前畠遺跡の4遺跡が所在しています。

財團法人茨城県教育財団は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所から埋蔵文化財の発掘調査についての委託を受け、平成14年4月から同年9月まで発掘調査を実施しました。

本書は、ヲサル下遺跡・反子遺跡・大高田遺跡・前畠遺跡の調査成果を収録したものです。本書が学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、ひいては教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

なお、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である国土交通省関東地方整備局常総国道事務所から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

また、茨城県教育委員会、牛久市教育委員会、阿見町教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し、衷心より感謝申しあげます。

平成16年3月

財團法人 茨城県教育財団

理事長 斎藤 佳郎

例　　言

1 本書は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所の委託により、財團法人茨城県教育財団が平成14年度に発掘調査を実施した、ヲサルド遺跡、反子遺跡、大高田遺跡及び前畠遺跡の発掘調査報告書である。

なお、4遺跡の所在地は以下のとおりである。

ヲサルド遺跡 茨城県牛久市大字下根町字ヲサル下1055番地ほか
反子遺跡 茨城県稲敷郡阿見町大字小池字反子39番地の11ほか
大高田遺跡 茨城県稲敷郡阿見町大字小池字岡見道22番地の19ほか
前畠遺跡 茨城県稲敷郡阿見町大字小池字下屋敷997番地ほか

2 4遺跡の発掘調査期間及び整理期間は、以下のとおりである。

調査

ヲサルド遺跡 平成14年4月1日～平成14年5月17日
反子遺跡 平成14年6月26日～平成14年9月13日
大高田遺跡 平成14年6月5日～平成14年6月25日
前畠遺跡 平成14年5月7日～平成14年8月9日

整理

ヲサルド遺跡 平成15年12月1日～平成15年12月31日
反子遺跡 平成16年1月1日～平成16年1月31日
大高田遺跡 平成16年2月1日～平成16年2月29日
前畠遺跡 平成15年9月1日～平成15年11月30日

3 4遺跡の発掘調査は、調査第一課長阿久津久のもとに行われた。担当は以下のとおりである。

ヲサルド遺跡 調査第一課首席調査員兼班長川津法伸、主任調査員飯島一生、同後藤孝行
反子遺跡 調査第一課首席調査員兼班長川津法伸、主任調査員飯島一生、同後藤孝行
大高田遺跡 調査第一課首席調査員兼班長川津法伸、主任調査員飯島一生、同後藤孝行
前畠遺跡 調査第一課首席調査員兼班長川津法伸、主任調査員長谷川聰、同石川義信

4 当遺跡の整理及び本書の執筆・編集は、整理第一課長瓦吹堅のもと、主任調査員後藤孝行、同綿引英樹が担当した。執筆は、第1～5章を後藤、第6章を綿引がそれぞれ担当した。

凡　例

1 ラサル下遺跡、反子遺跡、大高田遺跡、前畠遺跡の地区設定は、それぞれ日本平面直角座標第IX系座標に準拠した。

ラサル下遺跡はX軸 = -1,080m, Y = +30,440mの交点、反子遺跡はX軸 = -1,040m, Y = +31,440mの交点、大高田遺跡はX軸 = -1,040m, Y = +31,440mの交点、前畠遺跡はX軸 = -1,520m, Y = +35,480mの交点をそれぞれ基準点（A 1 a1）とした。4遺跡それぞれの基準点を基に、遺跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA, B, C…、西から東へ1, 2, 3…とし、「A 1 区」、「B 2 区」のように呼称した。大調査区内の小調査区は、北から南へa, b, c…j、西から東へ1, 2, 3…とし、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a1区」、「B 2 b2区」のように呼称した。

2 抄録の北緯及び東経の覧には、世界測地系に基づく緯度・経度を（ ）を付して併記した。

3 遺構・遺物・土層に使用した記号は、次のとおりである。

【遺構】 住居跡 - S I 挖立柱建物跡 - S B 土坑 - S K 溝跡 - S D 道路跡 - S F

柱穴 - P 不明遺構 - S X

【遺物】 拓本器 - T P 土製品 - D P 石器・石製品 - Q 金属製品 - M 木製品 - W
自然遺物 - N

【土層】 捣乱 - K

4 遺構及び遺物の実測図中の表示は次の通りである。

焼土・赤彩・漆・施釉 繊維土器・火床面

窟部材（粘土）・黒色処理

煤

● 土器 ○ 土製品 □ 石器・石製品 △ 金属製品 ★ 木製品 ----- 硬化面

5 土層観察と遺物における色調の判定には、「新版標準土色図」（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。

6 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は原則として200分の1、1,000分の1、遺構実測図は原則として60分の1に縮尺して掲載した。

(2) 遺物実測図は原則として3分の1の縮尺にした。種類や大きさにより異なる場合がある。

7 「主軸」は、竈を持つ堅穴住居跡については竈を通る軸線とし、他の遺構については長軸（径）を主軸とみなした。「主軸」及び「長軸」方向は、それぞれの軸が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N-10°-E, N-10°-W）。

8 遺物観察表における土器の計測値の単位はcmである。なお、現存値は（ ）で、推定値は〔 〕を付して示した。備考の欄は、残存率や写真図版番号等、その他必要と思われる事項を記した。

抄 錄

ふりがな	をさるしたいせき	そりこ	いせき	おおたかだ	いせき	まえばたけ	いせき	
書名	ラサル下道路 反子道路 大高田道路 前畠道路							
副書名	一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財調査報告書							
卷次	V							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告							
シリーズ番号	第211集							
著者名	後藤 孝行 編引 英樹							
編集機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2	TEL	029-225-6587					
発行機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2	TEL	029-225-6587					
発行日	2004年(平成16年)3月26日							
ふりがな 所収遺跡	所在地	コード	北緯	経度	標高	調査期間	調査面積	調査原因
ラサル下道路	茨城県牛久市大字下横 町字ラサル下1055番地 ほか	08219	35度	140度				一般国道468号 首都圏中央連絡自動車道事業(茨城県)に伴う事前調査
		-	59分	10分	22m	20030401	785m ²	
反子道路	茨城県稟敷郡阿見町 大字小池字反子39番 地の11ほか	08443	35度	140度				20030626 14.224m ²
		-	59分	10分	24m	20030913		
大高田道路	茨城県稟敷郡阿見町 大字小池字岡見道22 番地の19ほか	08443	35度	140度				20030605 3.566m ²
		-	59分	11分	20m	20030625		
前畠道路	茨城県稟敷郡阿見町 大字小池字下原敷 997番地ほか	08443	35度	140度				20030507 2.258m ²
		-	17秒	34秒	14m	20030809		

所 収 遺 跡 名	種 別	古 な 時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項
ヲサル下遺跡	遺物包含層	縄 文	遺物包含層	縄文土器片	
	その他	不 明	道路跡 1条	なし	
反子遺跡	集落跡	古 墳	堅穴住居跡 土 坑 2基	上師器(环・輪・甕・瓶) 土器、石器(砥石)、石製品 (紡錘車) 金屬製品(釘)	古墳時代後期の集落跡で、住居跡6軒が確認された。甕の掛け口に土師器の甕が掛けられた状態で出土している。
	その他	縄 文	なし	縄文土器片、石鐵	
		不 明	溝 1条 土 坑 2基	須恵器(环・高台付环)	
大高田遺跡	包蔵地	縄 文	なし	縄文土器片	
		不 明	溝 跡 2条	土師器片(环・甕)	
前畠遺跡	集落跡	中世・近世	掘立柱建物跡 3棟 井 戸 跡 5基 溝 跡 2条 方形堅穴遺構 1基 土 坑 57基	土師質土器(土鍋類・皿)、瓦質土器、陶磁器、石器、木製品(漆器・下駄・柱材)、古鏡	中世から近世にかけての集落跡及び墓地跡で、遺跡西側の溝跡からは大量の土鍋類や皿、木製品が出土している。
	その他	不 明	溝 跡 2条 方形堅穴遺構 1基 土 坑 162基 ピット群 2か所	土師質土器、木製品	

目 次

序	
例 言	
凡 例	
抄 錄	
日 次	
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	2
第2章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 ワサル下遺跡	9
第1節 遺跡の概要	9
第2節 基本層序	9
第3節 調査の成果	10
遺物包含層	10
道路跡	13
第4節 まとめ	14
第4章 反子遺跡	15
第1節 遺跡の概要	15
第2節 基本層序	15
第3節 調査の成果	17
1 古墳時代の遺構と遺物	17
(1) 穴住居跡	17
(2) 土坑	33
2 その他の遺構	35
(1) 溝跡	35
(2) 土坑	37
3 遺構外出土遺物	38
第4節 まとめ	39
第5章 大高田遺跡	41
第1節 遺跡の概要	41
第2節 基本層序	41
第3節 調査の成果	42

溝跡	42
遺構外出土遺物	44
第4節 まとめ	44
第6章 前畠遺跡	45
第1節 遺跡の概要	45
第2節 基本層序	45
第3節 調査の成果	46
1 中世・近世の遺構と遺物	46
(1) 挖立柱建物跡	46
(2) 井戸跡	51
(3) 溝跡	58
(4) 方形竪穴遺構	75
(5) 土坑	76
2 その他の遺構と遺物	92
(1) 溝跡	92
(2) 方形竪穴遺構	93
(3) 上坑	93
(4) ピット群	103
(5) 遺構外出土遺物	107
第4節 まとめ	109

写真図版

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

国土交通省は、首都圏全体の発展と交通の円滑化を図るために、一般国道468号首都圏中央連絡自動車道の建設を進めている。

平成12年6月5日、建設省（現国土交通省）関東地方整備局常総国道事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、一般国道468号首都圏中央連絡自動車道事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及び取り扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成12年6月12～13日にラサルド遺跡、反子遺跡、大高田遺跡、前畠遺跡の現地踏査を実施した。また、平成13年2月6～8日、13日にラサル下遺跡、同年2月13～14日、21～22日に反子遺跡、同年2月13～15日に大高田遺跡、同年6月11～12日に前畠遺跡の試掘調査をそれぞれ実施し、遺跡の所在を確認した。茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに、平成13年8月23日にラサル下遺跡、反子遺跡、大高田遺跡が事業地内に所在する旨を、平成14年1月17日に前畠遺跡が事業地内に所在する旨を回答した。

平成14年2月25日、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第57条の3第1項の規定に基づき、土木工事等のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。茨城県教育委員会教育長は、計画変更が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると判断し、同年2月26日、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

同年2月27日、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、一般国道468号首都圏中央連絡自動車道事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議した。同年2月28日、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに、ラサルド遺跡、反子遺跡、大高田遺跡、前畠遺跡について、発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として、財團法人茨城県教育財團を紹介した。

財團法人茨城県教育財團は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成14年4月1日～同年5月17日までラサル下遺跡（785m²）、同年6月26日～同年9月13日まで反子遺跡（14,224m²）、同年6月5日～同年6月25日まで大高田遺跡（3,566m²）、同年5月7日～同年8月9日まで前畠遺跡（2,258m²）の発掘調査を実施することとなった。

第2節 調査経過

ヲサル下遺跡、反子遺跡、大高田遺跡、前畠遺跡の4遺跡の調査は、平成14年4月1日から同年9月13日までそれぞれ実施した。

以下、調査の経過についての概要を表で記載する。

ヲサル下遺跡	4	5	6	7	8	9
準備・撤収	■					
試掘		■				
表土除去		■	■			
遺構調査		■				
洗浄・注記		■				

反子遺跡	4	5	6	7	8	9
準備・撤収		■	■	■		■
試掘			■			
表土除去						
遺構調査			■			
洗浄・注記		■	■			

大高田遺跡	4	5	6	7	8	9
準備・撤収			■	■		
試掘				■		
表土除去						
遺構調査						
洗浄・注記				■		

前畠遺跡	4	5	6	7	8	9
準備・撤収		■				■
試掘		■				
表土除去		■				
遺構調査			■	■	■	
洗浄・注記			■	■	■	

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

ヲサルド遺跡、反子遺跡、大高田遺跡、前畠遺跡の4遺跡は、茨城県牛久市の下根地区から茨城県稻敷郡阿見町の小池地区にかけて所在し、ヲサルド遺跡は牛久市大字下根字ヲサルド下1055番地ほか、反子遺跡は稻敷郡阿見町大字小池字反子39番地の11ほか、大高田遺跡は同町大字小池字岡見道22番地の19ほか、前畠遺跡は同町大字小池字下原敷997番地ほかに位置している。

これらの遺跡が所在する牛久市と阿見町の地形は、標高24~30mの洪積台地である稻敷台地と小野川や乙戸川、桂川水系の沖積低地とからなっている。稻敷台地は、新生代第四期洪積世に形成された層を基盤とし、その上に巣ヶ崎砂礫層、さらに常緑粘土層、関東ローム層が連続して堆積している¹⁾。この台地には、小野川や乙戸川、桂川とその支流が樹枝状に入り込み、台地は複雑な地形となっている。

ヲサルド遺跡は牛久市北西部、小野川左岸の標高約22mの台地縁辺部に所在し、支谷を北に臨んでいる。反子遺跡は阿見町南西部、乙戸川右岸の標高約24mの台地縁辺部に、大高田遺跡も同じく乙戸川右岸の標高約20mの緩やかな低位段丘上縁辺部に、前畠遺跡は乙戸川左岸の標高約14mの低位段丘上にそれぞれ所在している。各遺跡の調査前の現況は山林及び畑地である。

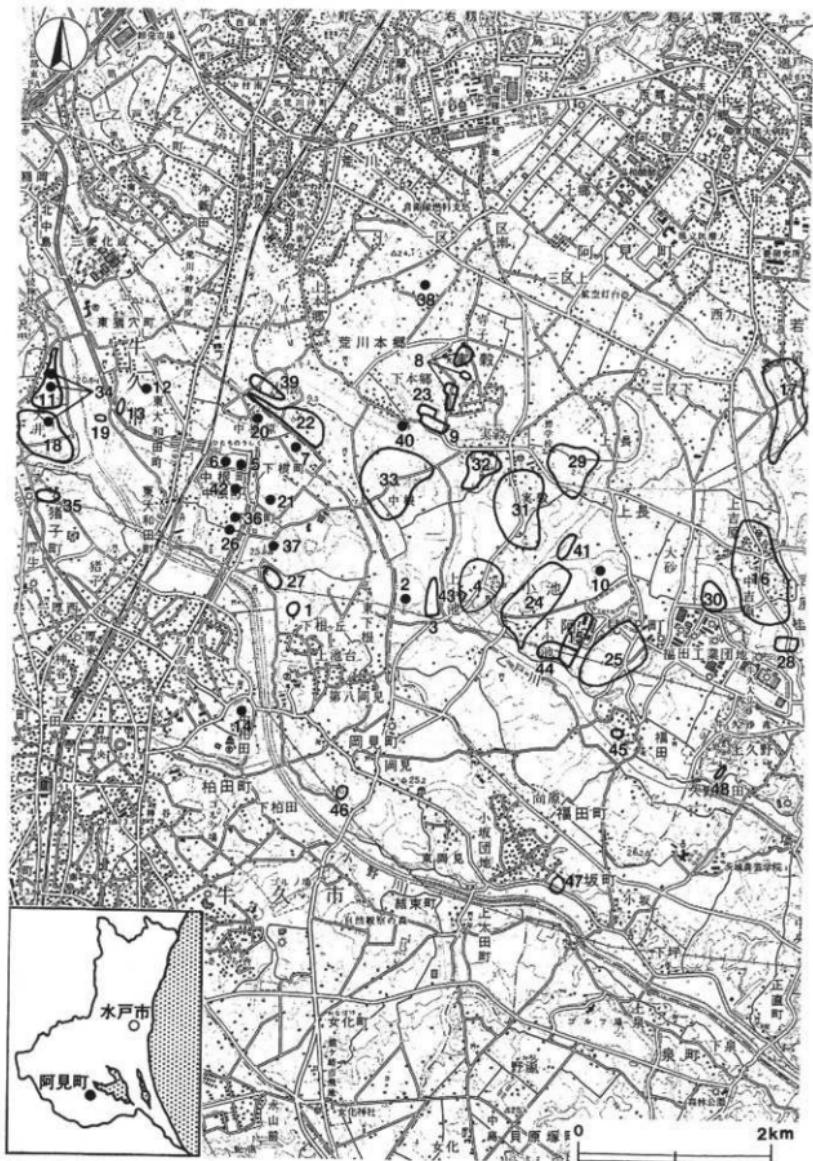
第2節 歴史的環境

当遺跡周辺の小野川、乙戸川流域の台地上には、旧石器時代から中世までの遺跡が数多く周知されている。旧石器時代の遺跡は、ヤツノ上遺跡(5)²⁾、中久喜遺跡(6)³⁾、西ノ原遺跡(7)⁴⁾、実穀寺子遺跡(8)⁵⁾などが知られ、これらの遺跡からはナイフ形石器、実穀古墳群(9)では細石刃が出土している。

縄文時代の遺跡は、小野川沿いの台地上に下大井遺跡(11)⁶⁾、ヤツノ上遺跡、東山A遺跡(12)⁷⁾、馬場遺跡(13)⁸⁾、ダシ山遺跡(14)が位置している。牛久市のヤツノ上遺跡からは、晩期の上器片とともに同時期の土偶が出土し、東山A遺跡では早期から中期の土器片が出土している。また馬場遺跡からも早期から前期の土器片が出土している。阿見町の乙戸川流域の実穀寺子遺跡では、早期から後期の土器片、下小池東遺跡(15)⁹⁾では早期から前期の土器片がそれぞれ出土している。

弥生時代の遺跡は、2軒の住居跡が検出された花房遺跡(16)、弥生土器片が出土した竹来遺跡¹⁰⁾や下原遺跡(17)¹¹⁾があり、その他には牛久市奥原町の天王峯遺跡で後期の集落跡が確認されている¹²⁾程度である。

古墳時代の遺跡は、小野川、乙戸川流域に多く分布している。小野川流域では、当財團の調査が実施された下大井遺跡、行人田遺跡(19)、馬場遺跡、東山A遺跡などが所在し、行人田遺跡は前期、東山A遺跡は中期、下大井遺跡、馬場遺跡は中期から後期の集落跡であることが確認された。また、小野川と乙戸川に挟まれた台地上にも、華人山遺跡(20)、西ノ原遺跡、中下根遺跡(21)、ヤツノ上遺跡、中久喜遺跡など中期を中心とする集落跡が確認されている。中根遺跡(22)は、隼人山遺跡、西ノ原遺跡と道路を挟んで隣接しており、同一集落の可能性も想定されている。さらに乙戸川下流の台地縁辺部には、実穀寺子遺跡、実穀寺子西遺跡(23)¹³⁾、下小池東遺跡(24)、下小池東遺跡、福田遺跡(25)が所在している。実穀寺子遺跡は5世紀中葉の集落であり、住居跡からは石製模造品が出土している。また、下小池東遺跡では、昭和53・56年の調査で中期の堅穴住居跡



第1図 周辺遺跡分布図

表1 ヲサル下遺跡、反子遺跡、大高田遺跡、前畠遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代					番号	遺跡名	時代					
		旧石器	繩文	弥生	古墳	奈世			旧石器	繩文	弥生	古墳	奈世	中世
1	ヲサル下遺跡	○	○				25	福田遺跡	○	○	○			
2	反子遺跡			○			26	梨の木遺跡			○			
3	大高田遺跡			○			27	水落下遺跡			○			
4	前畠遺跡			○	○		28	大日遺跡			○	○		
5	ヤツノ上遺跡	○	○	○	○	○	29	向辺田遺跡	○	○	○			
6	中久喜遺跡	○	○	○	○		30	手接遺跡			○	○		
7	西ノ原遺跡	○		○			31	実穀神田遺跡			○			
8	実穀寺子遺跡	○	○	○	○		32	上宿遺跡			○			
9	実穀古墳群	○		○			33	延戸遺跡	○	○	○			
10	谷ノ沢遺跡	○	○				34	下大井古墳群			○			
11	下大井遺跡	○		○	○	○	35	道山古墳群			○			
12	東山A遺跡	○		○			36	愛宕脇古墳			○			
13	馬場遺跡	○		○			37	琴塚古墳			○			
14	ダシ山遺跡	○		○			38	北古辺古墳			○			
15	下小池東遺跡	○		○			39	内記古墳群			○			
16	花房遺跡		○	○			40	だめき古墳			○			
17	下原遺跡	○	○	○			41	塙越古墳群			○			
18	大井遺跡	○		○	○	○	42	ヤツノ上古墳			○			
19	行人田遺跡	○		○			43	上小池城				○		
20	隼人山遺跡			○	○		44	下小池城				○		
21	中下根遺跡			○	○		45	福田城				○		
22	中根遺跡			○			46	岡見城				○		
23	実穀寺子西遺跡	○		○			47	小坂城				○		
24	下小池遺跡	○		○			48	久野城跡				○		

が13軒検出されている。このように、この時期は沖積低地を利用した農耕を中心に生活が営まれ、集落は沖積低地に面した台地縁辺部に立地することが多い。

また、古墳は集落の周辺部に位置しており、小野川沿いでは下大井古墳群（34）、道山古墳群（35）、愛宕脇古墳（36）、琴坂古墳（37）が分布し、乙戸川沿いでは北古辺古墳（38）、内記古墳群（39）、だめき古墳（40）、実穀古墳群、塙越古墳群（41）が分布している。実穀古墳群は5世紀末から6世紀後葉にかけて構築された古墳群であり、第4号墳から直刀が出土している。また、小野川と乙戸川の間にはヤツノ上古墳群（42）が分布している。

奈良・平安時代の遺跡は、小野川沿いでは行人田遺跡、隼人山遺跡、中下根遺跡、ヤツノ上遺跡、中久喜遺跡が調査されている。このうち、ヤツノ上遺跡では平安時代の堅穴住居跡8軒、掘立柱建物跡2棟が確認されている。

中世の阿見地域は信太荘と呼ばれ、遺跡は城館がほとんどである。乙戸川左岸には下小池城跡（43）、下小池城跡（44）¹⁶、福田城跡（45）、また小野川左岸には筒見城跡（46）、小坂城跡（47）が位置しており、阿見町小池に所在する下小池城跡は、戦国時代末期に土岐氏によって構築されたものと伝えられている。

近世は、土岐氏に代わって芦名氏が天正18年から約12年間支配したが、その後は、江戸や城下町に住む将軍や大名、あるいは旗本のような幕藩領主による支配となった。¹⁷

*文中の（ ）内の番号は、表1、第2図中の該当番号と同じである。

註

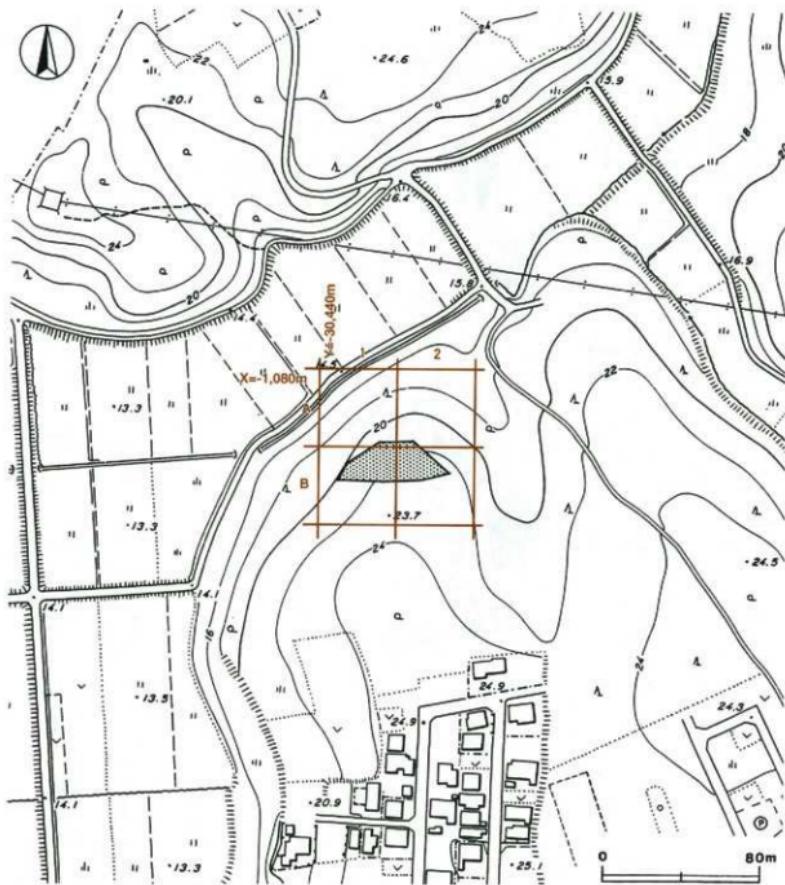
- 1) 日本の地質『関東地方』編集委員会 『日本の地質3 関東地方』共立出版 1986年10月
- 2) 小高五十二「牛久市北部特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（I） ヤツノ上遺跡」『茨城県教育財團文化財調査報告』第81集 1993年3月
- 3) 荒井保雄「牛久市北部特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（II） 中久喜遺跡」『茨城県教育財團文化財調査報告』第86集 1993年3月
- 4) 深谷憲二、柴田博行「牛久市下根特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 中下根遺跡、西ノ原遺跡、隼人山遺跡」『茨城県教育財團文化財調査報告』第113集 1996年6月
- 5) 茂野和久「荒川本郷地区特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（I） 実穀古墳群、実穀寺子遺跡1」『茨城県教育財團文化財調査報告』第144集 1999年3月
- 6) 川津法伸「一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財調査報告書 下大井遺跡」『茨城県教育財團文化財調査報告』第171集 2001年3月
- 7) 松浦敏「牛久市北部特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（II） 東山遺跡」『茨城県教育財團文化財調査報告』第101集 1995年9月
- 8) 白田正子「牛久市北部特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（IV） 馬場遺跡、行人田遺跡」『茨城県教育財團文化財調査報告』第106集 1996年3月
- 9) 池南南、他「下小池遺跡発掘調査報告書」阿見町教育委員会 1979年3月
- 10) 小川和博、大瀬淳志「鐵冶文庫『阿見町竹来遺跡発掘調査報告書（第二次調査）』」阿見町教育委員会 1992年3月
- 11) 小川和博、大瀬淳志「下根遺跡 茨城府相模郡阿見町所在の古代集落の調査」阿見町下原遺跡発掘調査会 1998年3月
- 12) 河野辰男解「大工塚遺跡報告書」大工塚遺跡発掘調査会 1984年9月
- 13) 宮崎修上、柴田博行「（仮称）荒川本郷地区上地川画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 実穀寺子西遺跡」『茨城県教育財團文化財調査報告』第156集 2000年3月
- 14) 河野辰男、他「下小池城跡保存調査報告書」阿見町教育委員会 1981年11月
- 15) 阿見町史編さん委員会『阿見町史』 1983年3月

参考文献

- ・茨城県教育厅文化課『茨城縣遺跡地図（地名表欄）』茨城県教育委員会 平成13年3月
- ・茨城県教育厅文化課『茨城縣遺跡地図（地図欄）』茨城県教育委員会 平成13年3月

第2図 着路位置図





第3図 ラサル下遺跡調査区設定図

第4章 ラサル下遺跡

第1節 遺跡の概要

ラサル下遺跡は、茨城県牛久市大字下根町字ラサル下1055番地ほかに所在し、牛久市北西部、小野川左岸の標高約22mの台地縁辺部に位置している。調査区は、小野川の支谷を北に望む緩やかな傾斜であり、調査前の現況は山林で、調査面積は785m²である。

今回の調査では、縄文時代早・前期の土器片を含む遺物包含層1か所が検出されている。また、時期は特定できないが、道路跡1条も検出されている。

遺物は、遺物収納コンテナ(60×40×20cm)で3箱が出土した。遺物の大多数が遺物包含層から出土したもので、縄文時代前期後半の土器片を主体に、縄文時代早期中葉・前期前半の土器片も出土している。

第2節 基本層序

調査区北部のA2j2区にテストピットを設定し、基本土層の堆積状況の観察を行った。テストピットの地表面の標高は22.3mで、地表から約2.2mほど掘り下げ、第4図のような堆積状況を確認した。

以下、テストピットの観察から層序を説明する。

第1層 厚さ40cm前後の黒色の表土で、粘性は弱く、しまりは普通である。

第2層 第1層よりも明るく、ローム粒子を中量含み、厚さ4~10cmの暗褐色の層であり、粘性、しまりともに普通である。表土からローム層への漸移層であり、遺物包含層である。

第3層 厚さ18~65cmの褐色のソフトローム層である。粘性、しまりとも普通である。

第4層 ロームブロックを中量含む厚さ1~36cmの明褐色のローム層である。粘性は普通で、しまりは強い。ガラス質の粒子が混じることから、AT層に相当すると考えられる。

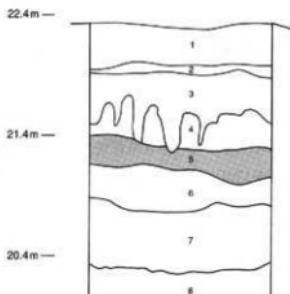
第5層 黒色粒子と白色粒子を少量含む厚さ15~28cmのやや暗い褐色のハードローム層である。粘性、しまりとも普通で、第II黒色帯に相当すると考えられる。

第6層 黒色粒子と白色粒子を少量、赤色粒子を微量含む褐色のハードローム層で、厚さは20~40cmである。粘性は普通で、しまりは強い。

第7層 白色粒子を少量含む、極暗褐色のハードローム層で、厚さは50~60cmである。粘性、しまりはともに強い。

第8層 細い黄色の粘土層で、層厚は未掘のため確認できなかったが、常緑粘土層と考えられる。

なお、ほとんどの遺物は、第2層から出土している。



第4図 基本土層図

第3節 調査の成果

今回の調査で、縄文時代早・前期の上器片を含む遺物包含層1か所と、時期不明の道路跡が確認された。遺物包含層は調査区全体に、道路跡は調査区中央部に位置している。主な遺物としては、縄文土器片が出土している。

以下、確認された遺構と主な遺物について記載する。

遺物包含層（第5・6図）

位置 調査区全体に及んでいる。

確認状況 調査区全体が傾斜地であること、縄文時代早・前期の遺物が採取できること、調査面積が少ないことなどの理由から、重機による表土除去は行わず、調査区界南端の長辺に対して平行に1本、そこから北側にほぼ直交する3本の土層観察用のトレンチを設定して調査を開始した。その際、表土である黒色土層（第1層）からソフトローム層（第3層）への漸移層である暗褐色の土層（第2層）を中心に縄文土器片が出土していることから、この第2層を遺物包含層としてとらえ、同層下面まで掘り下げた。その後、調査区界と平行及び直交するA 1区～C 12区の4m×4mグリッドを設定し、はじめに各グリッドの2分の1を交互に掘り下げ、次に残りの2分の1を掘り下げて、遺構の確認及び遺物の平面的な広がりを記録することに努めた。

重複関係 道路跡に掘り込まれている。

規模 調査区の南部と東部が高く、北部と西部にかけてそれぞれ傾斜している台地縁辺部に位置しているため、調査区外を含めた広範囲にわたっているものと考えられる。

土層 2層に分層される。第1層は腐植土を含む黒褐色の表土である。この層から地山であるソフトローム層への漸移層である暗褐色の第2層に大別できる。遺物の大半が第2層から出土しており、この層を遺物包含層としてとらえることができる。

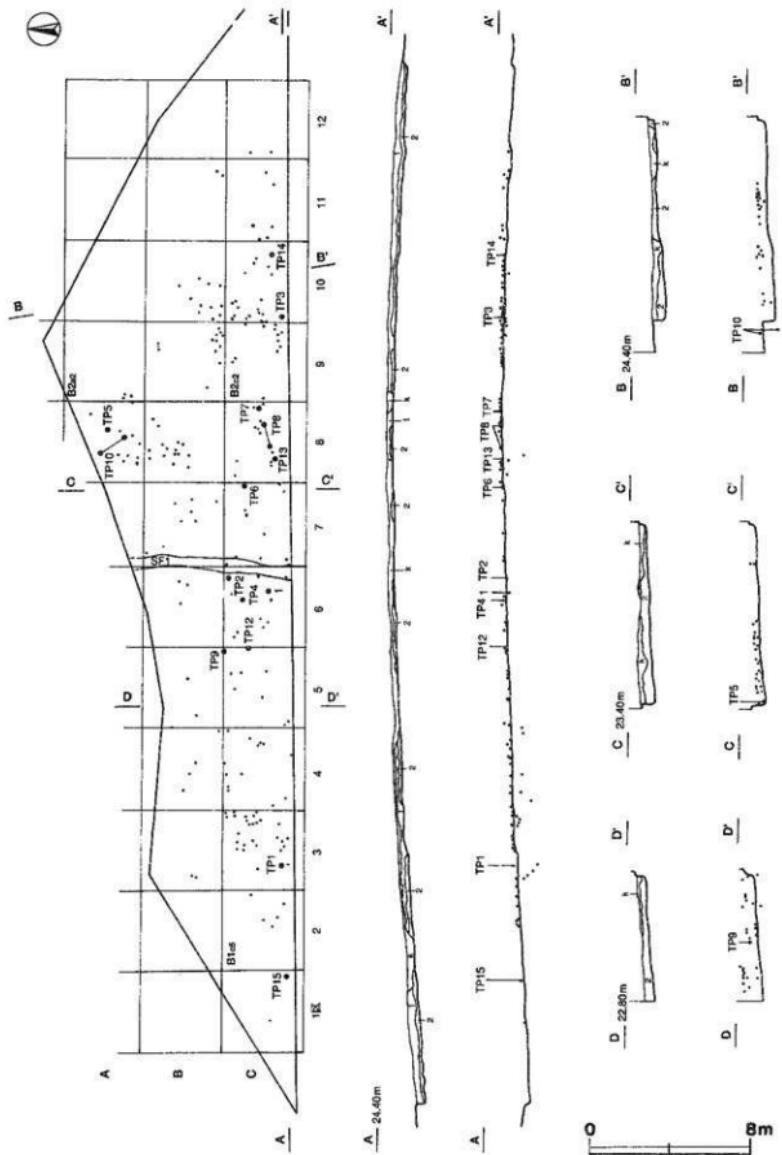
土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子微量

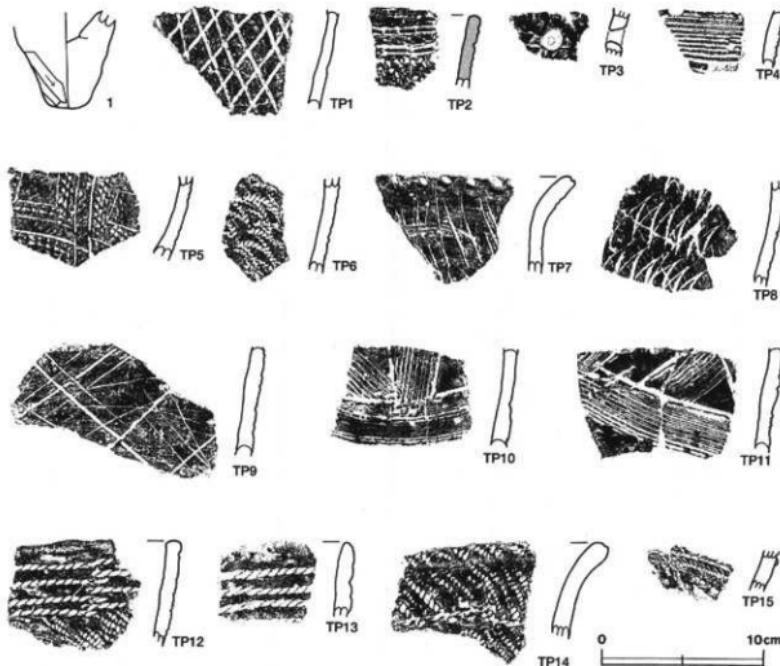
2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片1140点、土師器片10点、石器1点（砥石）、剥片1点、礫1点が出土している。縄文土器のほとんどは細片で、接合できたものはわずかであり、層位的には大半が第2層から出土している。平面的にはA 8～B 8区、C 3区、B 9・10区～C 9・10区の3か所に遺物が集中していた。出土した、1140点の縄文土器片は、縄文時代早期中葉である貝殻沈線文系の上器が2点、縄文時代前期前半である羽状縄文系の土器が13点、それ以外はすべて縄文時代前期後半である竹管文系土器や波状貝殻文、平行沈線文などが施された土器である。

所見 グリッドによっては、遺物がまとめて出土している範囲があり、焼跡やピットなどを想定して精査を行ったが、それらは検出できなかった。また、調査区が北及び西側に傾斜した台地の縁辺部であることから、出土遺物は流れ込んできたものと想定すると、調査区外である南側の台地上に集落が形成されていたものと推察されるが、明確ではない。



第5図 遺物包含層実測図



第6図 遺物包含層出土遺物実測図

遺物包含層出土遺物観察表（第6図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎上	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(6.1)	2.3	長石・石英・雲母 赤色粒子・微塵	にぶい橙	普通	尖底部、大晦の鼻状を呈する	B 1 c 9	早期中業
TP1	縄文土器	浅鉢	-	(6.0)	-	長石・石英・雲母・微塵	にぶい黄橙	普通	スラッシュ面による斜格子文	B 1 c 6	前期中業 PL 2
TP2	縄文土器	深鉢	-	(4.5)	-	長石・石英・雲母・微塵	にぶい黄橙	普通	口辺部に半截竹管による横位の 斜格子文、基部に半截楕円文	B 1 c 9	前期前業 PL 2
TP3	縄文土器	深鉢	-	(2.7)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	横位の沈線施文、縫修痕	B 2 c 3	前期後業 PL 2
TP4	縄文土器	深鉢	-	(3.8)	-	長石・石英・雲母・微塵	明赤褐	普通	平行する多条沈線文	B 1 e 9	前期後業 PL 2
TP5	縄文土器	深鉢	-	(5.2)	-	長石・石英・雲母・微塵	橙	普通	沈線区画内刺突文	B 2 a 1	前期後業 PL 2
TP6	縄文土器	深鉢	-	(6.0)	-	長石・石英・雲母・微塵	にぶい黄橙	普通	貝殻模様文	B 1 c 0	前期後業 PL 2
TP7	縄文土器	深鉢	-	(6.1)	-	長石・石英・雲母・微塵	橙	普通	口唇部押圧文、副部貝殻模様文	B 2 c 1	前期後業 PL 2
TP8	縄文土器	深鉢	-	(6.7)	-	長石・石英・雲母・微塵	灰褐	普通	貝殻模様文	B 2 c 1	前期後業 PL 2
TP9	縄文土器	深鉢	-	(6.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	複数半截竹管による斜格子文	B 1 c 8	前期後業 PL 2
TP10	縄文土器	深鉢	-	(6.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	沈線区画内に多条沈線充填	B 2 a 1	前期後業 PL 2
TP11	縄文土器	深鉢	-	(6.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	沈線区画内に多条沈線充填	B 2	前期後業 PL 2
TP12	縄文土器	深鉢	-	(6.5)	-	長石・石英・雲母・微塵	にぶい橙	普通	口辺部に縄文原体押圧、下部 に單節楕円文施文	B 1 c 8	前期後業 PL 2
TP13	縄文土器	深鉢	-	(4.6)	-	長石・石英・雲母・微塵	にぶい黄橙	普通	口辺部に縄文原体押圧	B 2 c 1	前期後業 PL 2
TP14	縄文土器	深鉢	-	(5.9)	-	長石・石英・雲母・微塵	にぶい黄橙	普通	口唇部単節縄文押圧文	B 2 c 3	前期後業 PL 2
TP15	縄文土器	深鉢	-	(2.4)	-	長石・石英・雲母・微塵	にぶい赤褐	普通	貝殻模様文後、刺みのある 微塵を含む	B 1 c 4	前期後業 PL 2

第1号道路跡（第7図）

位置 調査区中央部のB1a0～B1c9区に位置し、遺構確認面は北部と南部での高低差が約1mの傾斜地に立地している。

重複関係 遺物包含層を掘り込んでいる。

規模と形状 B1c9区から北方向（N - 6° - E）へ直線的に延び、さらに調査区域外へと延びている。確認できた規模は、長さ7.77m、幅40～65cm、覆土の厚さは約10cmである。路面は硬く踏みしめられており、断面形は皿状である。

覆土 2層に分層される。レンズ状に堆積していることから自然堆積である。

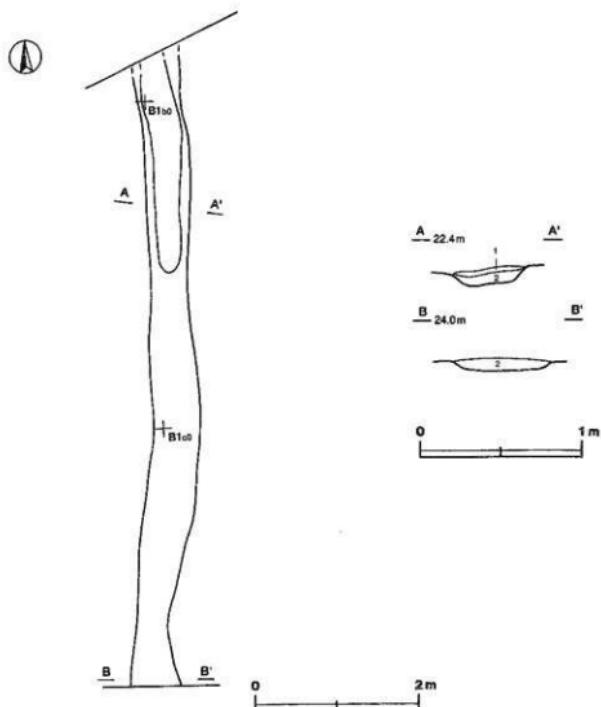
土層解説

1 隅 岩 色 ローム粒子少量

2 黒 色 ロームブロック少量、炭化粒子少量

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 調査区を南北に縱断し、調査区外に延びている。調査区域外の南側は台地中央部側であり、北側は小野川の支谷にあたることから、台地と谷を結ぶ道路と考えられるが、時期は不明である。



第7図 第1号道路跡遺構実測図

第4節 まとめ

今回の調査で、縄文時代早・前期の土器片を含む遺物包含層1か所と、時期不明の道路跡が確認された。

当遺跡は、小野川左岸の台地縁辺部に位置し、小野川の支谷を北に望む緩やかな傾斜地である。現在、調査区外の北側と西側には水田が広がり、調査区より標高の高い南側の台地上は、山林・畑地・宅地が広がっている。当初は、第2層を中心に縄文土器片が出土していることから、精査を行ったが、それらの遺構は検出できなかった。ここでは、今回の調査で確認された遺物包含層とそこから出土した遺物について概要を述べ、まとめとしたい。

この遺物包含層は調査区全体に及んでおり、調査区の南東部の標高が高く、北及び西側に傾斜した台地の縁辺部であることから、斜面に遺物が流れ込んだものと想定される。

縄文土器片は、1140点が出土している。早期中葉の貝殻沈線文系土器が全体の0.2%、前期前半の羽状縄文系土器が1.1%、前期後半である竹管文系土器や貝殻波状文、平行沈線文などを施した土器群が98.7%である。主体となる前期後半の土器は、関東地方北・西部、中部地方を中心に分布する竹管文系土器、関東地方東部の利根川下流域及び霞ヶ浦沿岸を中心に分布する貝殻波状文を多用するもの、同じく半截竹管による平行沈線文を主体とするもの、さらに東北地方南部を中心に分布する円辺部に横位の縄文原体圧痕を有するものなどに分類することができ、特に貝殻文系土器群が主体である。

当遺跡は、前述したように縄文時代前期後半の土器が主体であることから、これらの時期の活動領域の一部であったものと想定される。

参考文献

- ・戸沢光則編「縄文時代研究事典」 東京堂出版 1994年9月
- ・石橋知明「塙本跡也ほか「国道294号線改良工事に伴う発掘調査報告 鹿島臨道跡 追の床跡跡」「栃木県埋蔵文化財報告」第93集 栃木県文化振興事業団 1988年3月
- ・荒賀克一郎「塙谷津遺跡 霞ヶ浦湖北流域下水流小川幹線玉串ポンプ揚上木・建設工事事業地内埋蔵文化財調査報告書」「茨城県教育財團文化財調査報告」第207集 茨城県教育財團 2003年3月

第5章 反子遺跡

第1節 遺跡の概要

反子遺跡は、茨城県稲敷郡阿見町大字小池字反子39番地の11ほかに所在し、阿見町南西部の乙戸川右岸に位置し、標高24m前後の緩やかな台地縁辺部に位置している。調査面積は14,224m²で、調査前の現況は畠地及び山林である。

当遺跡は、縄文時代から古墳時代までの複合遺跡であり、今回の調査によって検出された遺構は、古墳時代後期の竪穴住居跡6軒、土坑2基のほか、時期が特定できない溝1条、土坑2基である。

遺物は、遺物収納コンテナ(60×40×20cm)で10箱が出土した。主な出土遺物は、縄文土器片、土師器(壺・椀・甕・瓶・手捏土器)、須恵器(壺・高台付壺)、石器(砥石)、石製品(鉋鍤車)、金属製品(釘)などである。

第2節 基本層序

調査区北部のC 8 b3区にテストピットを設定し、基本土層の堆積状況の観察を行った。テストピットの地表面の標高は22.6mで、地表から約2.6mほど掘り下げ、第8図のような堆積状況を確認した。

以下、テストピットの観察から層序を説明する。

第1層 ローム粒子を微量含む厚さ20~30cmの黒褐色の耕作土層である。粘性は普通であるが、しまりはやや弱い。

第2層 第1層よりも明るく、ローム粒子を中量含み、厚さ20~35cmの暗褐色の層であり、粘性、しまりとともにやや弱い。表土からローム層への漸移層である。

第3層 厚さ7~20cmの褐色のソフトローム層である。粘性は普通であるが、しまりはやや弱い。

第4層 厚さ10~26cmの明褐色のソフトローム層である。

黒色粒子を微量含み、粘性、しまりともに普通である。

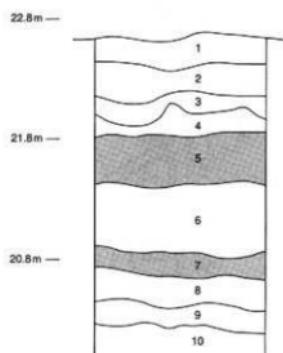
第5層 黒色粒子と白色粒子を少量含む厚さ40~50cmの暗褐色のハードローム層である。粘性は普通であるが、しまりは強く、第1黒色帯に相当すると考えられる。

第6層 黒色粒子を微量含み、やや明るい褐色のハードローム層で、厚さは53~65cmである。粘性、しまりはともに強く、AT層に相当すると考えられる。

第7層 黒色粒子と赤色粒子を中量、厚さ10~24cmの暗褐色のハードローム層である。粘性、しまりはともに強く、第II黒色帯に相当すると考えられる。

第8層 やや暗い褐色のハードローム層である。厚さは23~28cmで、粘性、しまりはともに強い。

第9層 黒色粒子と白色粘土粒子を少量、褐色粘土粒子を多量に含む厚さ11~23cmの極暗褐色のハードローム層であり、



第8図 基本土層図

粘性、しまりはともに強い。

第10層　褐灰色の粘土層で、層厚は未掘のため確認できなかったが、常緑粘土層と考えられる。

なお、遺情は、第2層上面で確認した。



第9図 反子遺跡調査区設定図

第3節 調査の成果

1 古墳時代の遺構と遺物

今回の調査で、古墳時代の堅穴住居跡は6軒、土坑2基が確認された。これらの遺構は、調査区の東部に位置している。主な遺物としては、土師器のほか、砥石・紡錘車が出土している。

以下、確認された遺構と主な遺物について記載する。

(1) 堅穴住居跡

第1号住居跡（第10・11図）

位置 調査区東部のB8i7区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と形状 一辺が5.15mほどの方形で、主軸方向はN-43°-Wである。堆高は65~78cmで、各壁ともやや外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり、出入り口ピット付近から竪の南側にかけて踏みしめられた面がある。壁溝は、全周している。

竪 北西壁中央部に付設されている。袖部と煙道部は砂質粘土にロームと小砂利を少量混ぜ、壁を26cmほど掘り込んで構築され、天井部の一部が残存していた。規模は、焚口部から煙道部まで100cm、袖部幅110cmである。煙道部は、火床面からやや外傾して立ち上がっている。火床部は住居の主軸方向に長い楕円形で、床面から10cmほど掘りくぼめられている。火床面と煙道部の境界付近に支脚が据えられており、袖部内面及び火床面は、被熱のため赤変硬化している。

竪土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量、焼上粒子微量	4 前赤褐色	焼上ブロック中量、炭化粒子少量
2 黒褐色	焼上粒子・炭化粒子・白色粘土粒子微量	5 緑赤褐色	焼土ブロック多量、炭化粒子微量
3 褐色	白色粘土粒子中量、焼上ブロック、炭化粒子少量	6 におい赤褐色	焼土粒子多量、白色粘土粒子中量

ピット 5か所。P1~P4は径35~60cmの円形で、深さは53~59cmである。配置や規模から主柱穴と考えられる。P5は径50cm、深さ27cmで南壁寄りの中央に位置し、その北側に床の硬化面が広がっていることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

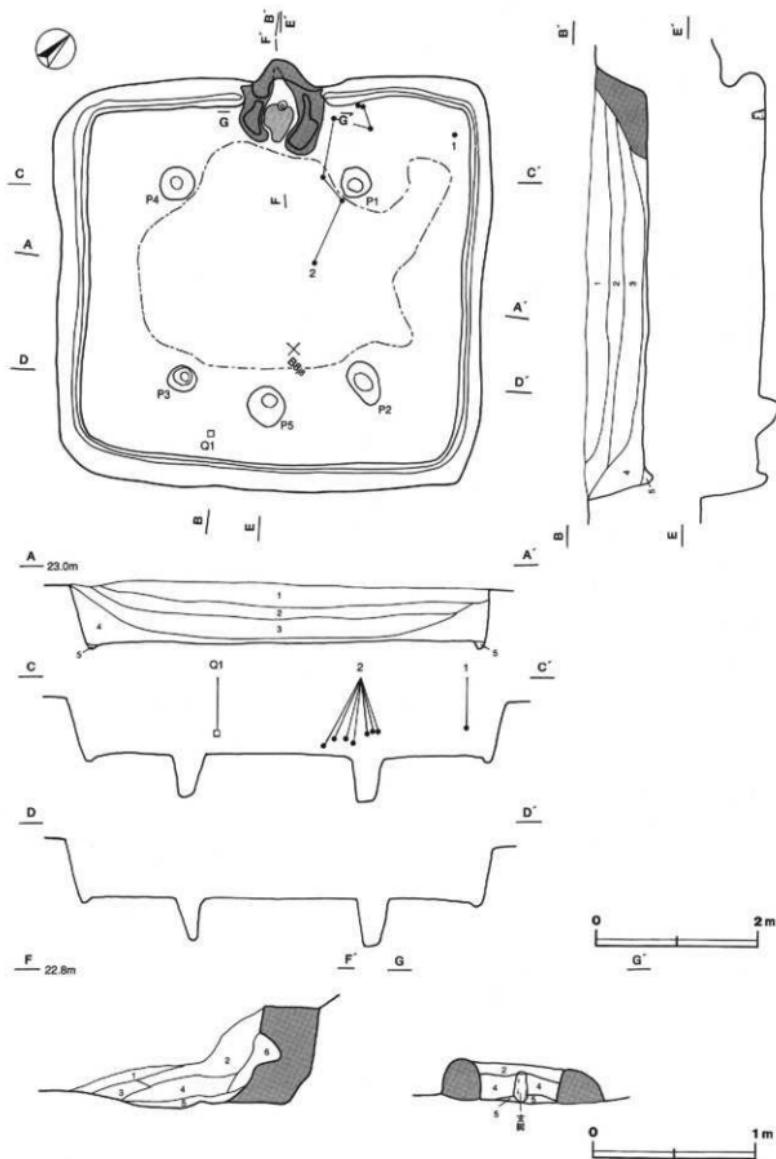
覆土 5層に分層される。ロームブロックや焼上粒子、炭化粒子を含み、レンズ状の堆積状況を示している自然堆積である。

土層解説

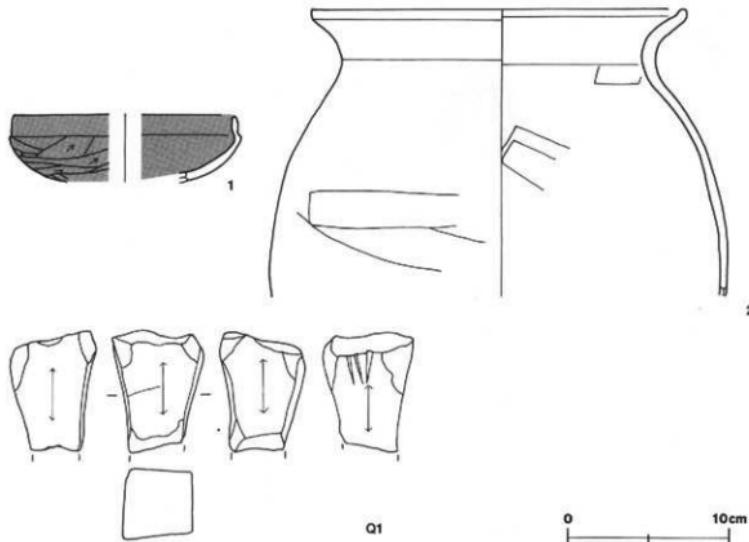
1 黒褐色	ローム粒子少量	4 前褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量
2 黒褐色	ロームブロック少量	5 褐色	ロームブロック中量
3 黒褐色	ロームブロック少量、焼上粒子微量		

遺物出土状況 土師器片317点（壺類41、甕類276）、石器1点（砥石）が出土している。1は北側コーナー部の覆土中層から出土し、2は中央部から竪右袖側にかけての覆土中層と下層の破片が接合したものである。また、Q1は南壁側中央部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期（7世紀前葉）と考えられる。



第10図 第1号住居跡実測図



第11図 第1号住居跡出土遺物実測図

第1号住居跡出土遺物観察表（第11図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土器器	壺	[13.6]	(4.2)	—	長石・石英・赤色 粒子	にい赤褐	普通	口辺部横ナデ、体部外側ヘラ 削り、内面ヘラナデ	北ヨーナー 中層	15%
2	土器器	甕	23.1	(17.6)	—	長石・石英・雲母	浅黄褐	普通	口辺部横ナデ、体部内・外面 ヘラナデ	竈手前下層	30% PL11

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	砥石	(7.4)	5.6	5.4	(247.8)	凝灰岩	4面使用、線条痕多数、片端折損	南壁中央部 下層	PL12

第2号住居跡（第12・13図）

位置 調査区北東部のB8h5区に位置し、台地の平坦部に立地している。

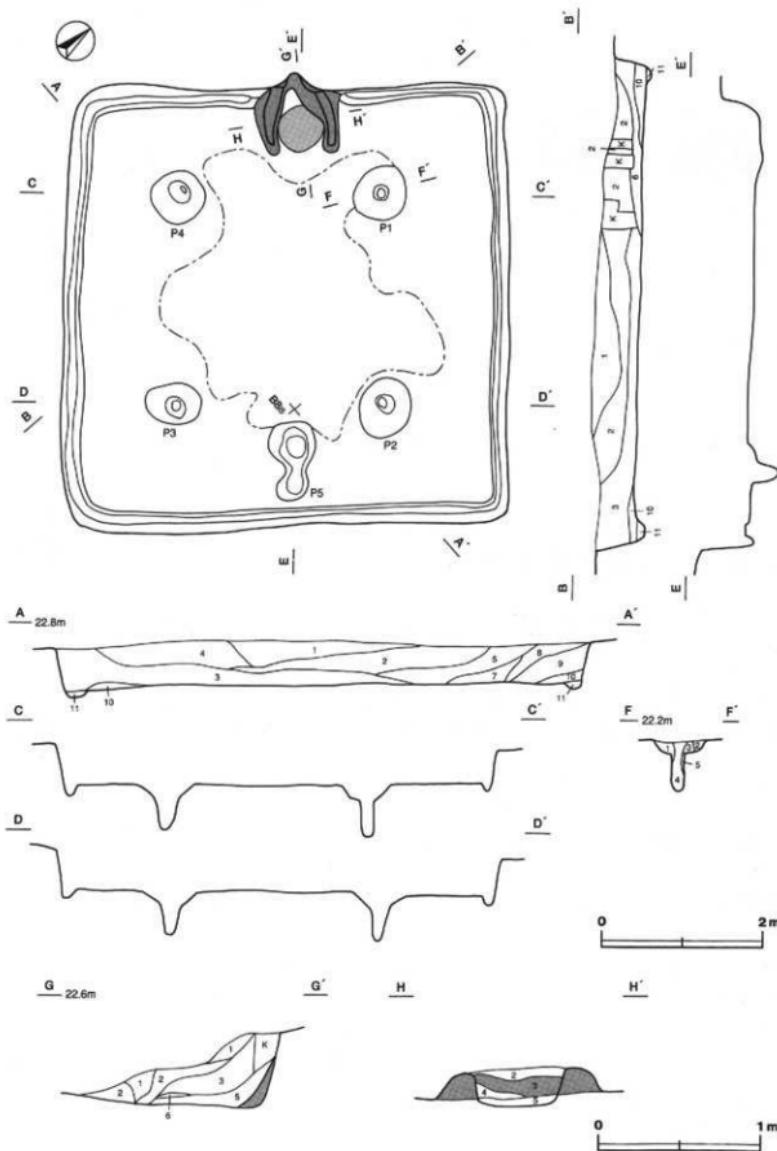
規模と形状 一辺が5.50mほどの方形で、主軸方向はN-49°-Wである。壁高は30~60cmで、各壁ともやや外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり、中央部から竈付近に踏みしめられた面がある。壁溝は、全周している。

竈 北西壁中央部に付設されている。袖部と煙道部は砂質粘土にロームと小砂利を少量混ぜ、壁を20cmほど掘り込んで構築され、竈土層の第3層が天井部にあたる。規模は、焚口部から煙道部まで100cm、袖部幅103cmである。煙道部は、火床面から外傾して立ち上がっている。火床部はほぼ円形で、床面から10cmほど掘りくぼめられている。袖部内面及び火床面は、被熱のため赤変硬化している。

竈土層解説

1 焚	色	ロームブロック少量	4 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子中量、ローム粒子少量
2 にい赤色		ローム粒子・白色粘土粒子少量	5 暗赤褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子少量
3 にい褐色		白色粘土粒子中量、ローム粒子少量	6 灰褐色	灰多量、焼土粒子・炭化粒子少量



第12図 第2号住居跡実測図

ピット 5か所。P1～P4は上部の径が70～80cmの円形で、深さは55cm～65cmである。配置や規模から主柱穴と考えられる。P1の土層を見ると、掘り方の上部を竈の構築材と同じ砂質粘土で補強し、柱を押さえるために利用していたことがうかがえる。竈に近いP4も同じように補強されていた。P5は長径100cm、短径20cmの双円形状で、深さは43cmである。南壁寄りの中央に位置し、その北側に床の硬化面が広がっていることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット1 土層解説

1 にぶい褐色	白色粘土粒子少量	ローム粒子・砂粒少量	4 暗褐色	ローム粒子多量	砂粒微量
2 褐色	ロームブロック・白色粘土粒子少量		5 暗褐色	ロームブロック中量	
3 褐色	ローム粒子多量	炭化粒子微量			

覆土 11層に分層される。第2層から第10層は、ロームブロック混じりの土が不規則に投げ込まれた人為堆積の層である。最後に第1層が自然堆積している。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量	6 暗褐色	ロームブロック中量	白色粘土粒子少量
2 細褐色	ロームブロック少量	7 暗褐色	ロームブロック中量	炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・砂質粘土少量	8 暗褐色	ロームブロック中量	
4 黒褐色	ロームブロック少量	9 暗褐色	ロームブロック少量	
5 褐色	ロームブロック中量	10 黑褐色	ローム粒子少量	
	炭化粒子微量	11 黑褐色	ロームブロック中量	

遺物出土状況 土師器片322点(壺類32、甕類290)が出土している。3・4・5は覆土中からそれぞれ出土している。出土遺物は細片が多く、接合できるものはわずかである。

所見 時期は、出土土器から後期(7世紀前葉)と考えられる。



第13図 第2号住居跡出土遺物実測図

第2号住居跡出土遺物観察表(第13図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3	土師器	壺	[14.2]	(4.1)	-	石英・雲母・赤色 粒子	灰褐	普通	口辺部横ナデ、体部外側ヘラ削り、内面ヘラナデ	覆土中	5%
4	土師器	壺	[12.6]	(2.5)	-	長石・石英	橙	普通	口辺部横ナデ、体部外側ヘラ削り、内面ヘラ削り	覆土中	5%
5	土師器	壺	[11.0]	(2.9)	-	長石・石英・赤色 粒子	にぶい黄褐色	普通	口辺部横ナデ、内面沈穢、体部外側ヘラ削り、内面ヘラナデ	覆土中	5%

第3号住居跡(第14・15図)

位置 調査区中央部のC8a4区に位置し、台地の平坦部に立地している。

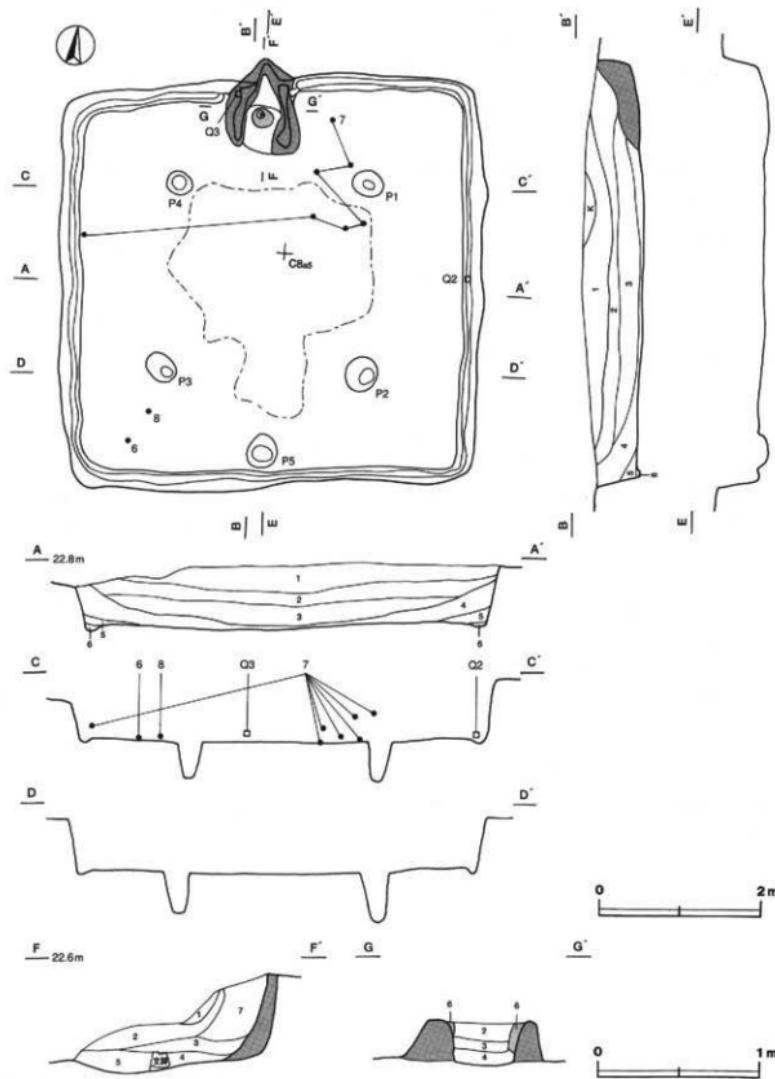
規模と形状 一辺が5.11mほどの方形で、主軸方向はN-7°-Wである。壁高は43～75cmで、各壁ともやや外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり、出入り口北側付近から竈手前にかけて、踏みしめられている。壁溝は全局している。

竈 北壁中央部に付設されている。袖部と煙道部は砂質粘土にロームと小砂利を少量混ぜ、壁を28cmほど掘り込んで構築されており、焚口部から煙道部まで97cm、袖部幅95cmである。煙道部は、火床面から外傾して立ち上がっている。火床部は円形で、床面から8cmほど掘りこまれている。火床面の煙道部寄りには支脚が据えられており、袖部内面は、被熱のため赤変硬化している。

土壤層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|--------|------------------|
| 1 暗褐色 | 白色粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・白色粘土粒子微量 | 6 赤褐色 | 白色粘土粒子中量、ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子微量 | 7 暗褐色 | 焼土ブロック中量、粘土粒子微量 |
| 4 極暗褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子微量 | | |



第14図 第3号住居跡実測図

ピット 5か所。P 1～P 4は径30～40cmの円形で、深さ44cm～63cmである。配置や規模から主柱穴と考えられる。P 5は径40cm、深さ17cmで、南壁寄りの中央に位置し、その北側に床の硬化面が広がっていることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

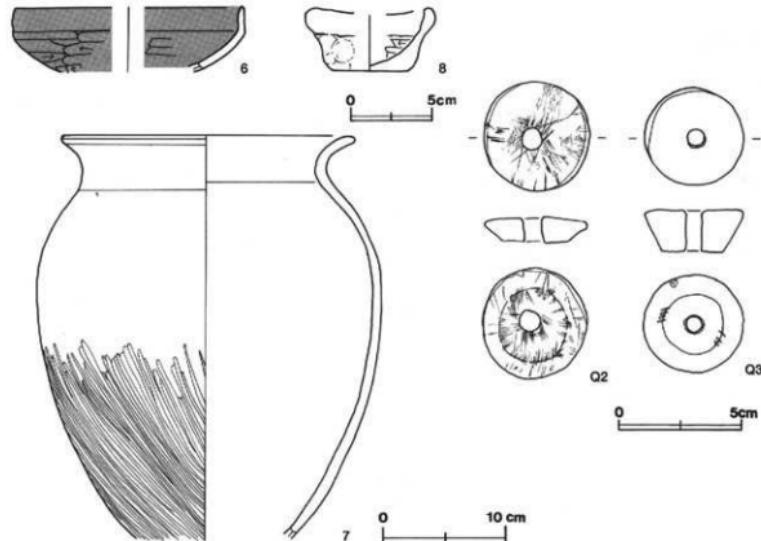
覆土 6層に分層される。レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

1 黒 色 ローム粒子・焼土粒子少量	4 暗 褐 色 ローム粒子多量、炭化粒子少量
2 黒 褐 色 ロームブロック少量	5 暗 褐 色 ロームブロック中量
3 黒 色 ロームブロック多量、焼土粒子微量	6 褐 色 ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片132点(壺類131, 壺類119), 石製品2点(鍛錠車)が出土している。6・8は、南西コーナー部のほぼ床面からそれぞれ出土している。7は竈右袖側の覆土中層から下層の破片と西壁際の覆土下層から出土した破片が接合したものである。Q 2は東壁際の床面から出土しており、これらは住居廃絶時に投棄された可能性が高い。Q 3は竈の左袖中から出土している。右袖部の壁際から出土した支脚は、火床面の中央部近くに据えられた支脚と接合したものである。

所見 時期は、出土土器から後期(7世紀前葉)と考えられる。



第15図 第3号住居跡出土遺物実測図

第3号住居跡出土遺物観察表(第15図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴	出土位置	備 考
6	土師器	壺	[14.0]	(4.0)	—	石英・赤色粒子	暗褐	普通	口辺部横ナデ、底部外周ヘラ削 面削り、内面ヘラ削り	南西コーナー	5%
7	土師器	壺	23.7	(32.8)	—	長石・石英・雲母 赤色粒子	にぶい黄	普通	口辺部削り、底部外周上部ナデ 面削り、下部ヘラ削り、内面ヘラ削り	竈手前中層	40% PL11
8	土師器	手握	[7.2]	3.9	4.6	長石・石英・赤色 粒子	にぶい黄	普通	口辺部横ナデ、底部外周輪削み 底ナデ、指壓痕、内面ヘラ削り	南西コーナー	30%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q2	筋錐車	4.5	1.0	0.8	25.6	滑石	上面・下面に微細な線刻	東壁床面	PL12
Q3	筋錐車	4.0	1.7	0.7	33.0	泥岩	上面に微細な線刻	竈左袖構築材中	PL12

第4号住居跡（第16～18図）

位置 調査区中央部のC8g1区に位置し、緩やかな斜面部に立地している。

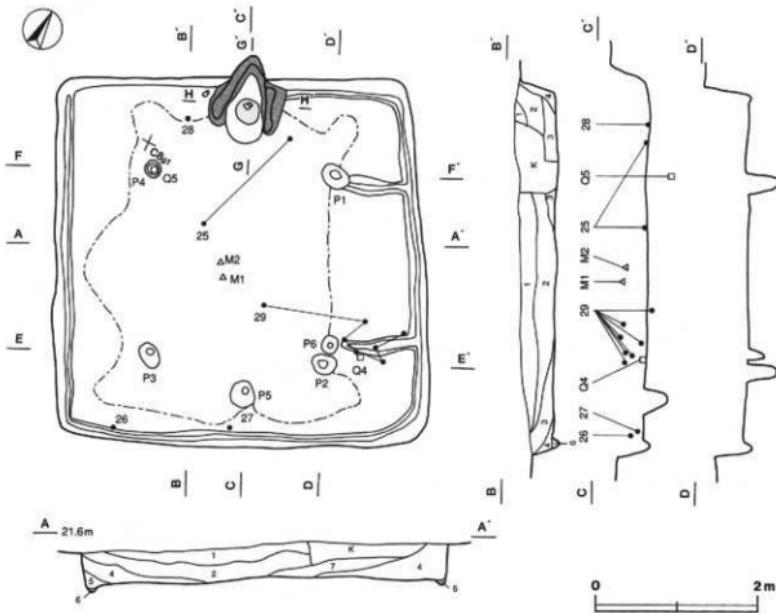
規模と形状 一辺4.56mほどの方形で、主軸方向はN-25°-Wである。壁高は25～58cmで、各壁ともやや外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり、出入り口ピット付近から竈の南側にかけて踏みしめられた面がある。壁溝は、北西コーナー部から竈右袖まで周回し、東壁側からは間仕切り溝が確認されている。

竈 北西壁中央部に付設されている。袖部と煙道部は砂質粘土にロームと小砂利を少量混ぜ、壁を25cmほど掘り込んで構築されている。規模は、焚口部から煙道部まで86cm、袖部幅92cmである。煙道部は、火床面から外傾して立ち上がっている。火床部はほぼ円形、床面から8cmほど掘りくぼめられている。火床面の煙道部寄りには支脚が据えられており、袖部内面及び火床部は、被熱のため赤変硬化している。

竈土層解説

- | | |
|-----------------------------|----------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 6 暗褐色 燃土粒子・白色粘土粒子中量、炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 | 7 暗赤褐色 燃土粒子・白色粘土粒子中量 |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子少量 | 8 暗褐色 白色粘土粒子・中量、炭化粒子少量 |
| 4 褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子少量 | 9 栗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 5 にい黄褐色 灰多量、白色粘土粒子中量、炭化粒子少量 | |



第16図 第4号住居跡実測図

ピット 6か所。P 1～P 4は径22～35cmの梢円形で、深さは30～43cmである。配置や規模から主柱穴と考えられる。P 5は径32cm、深さ30cmで南壁寄りの中央に位置し、その付近から床の硬化面が広がっていることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6は径20cm、深さ23cmでP 2のすぐ北側に位置し、P 1とともに間仕切り溝に関連するピットである。

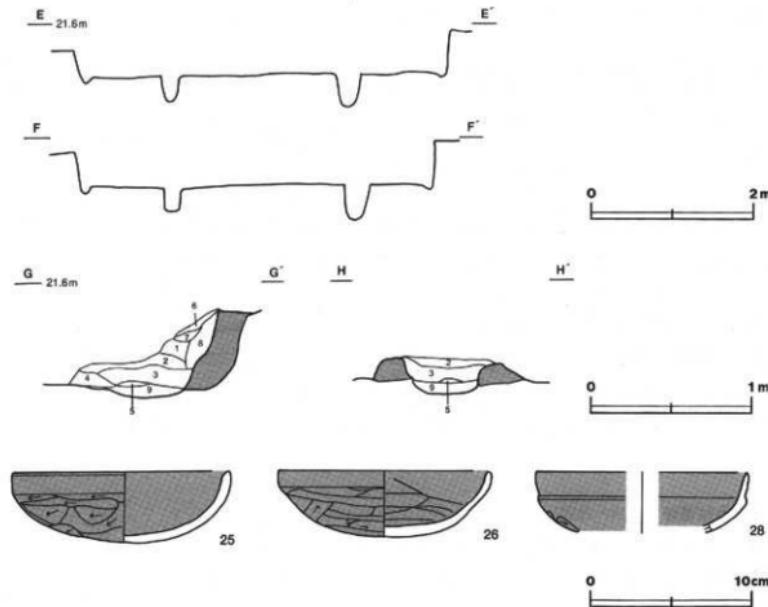
覆土 7層に分層される。レンズ状の堆積状況を示している自然堆積である。

土層解説

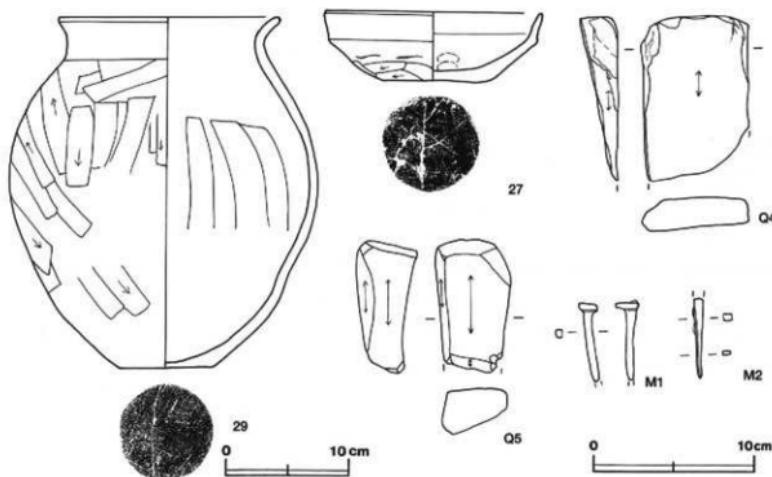
1 喀 場 色 ローム粒子少量	5 喀 場 色 ロームブロック少量
2 黒 壤 色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	6 喀 場 色 炭化粒子・ロームブロック少量
3 喀 場 色 ローム粒子・焼土粒子少量	7 喀 場 色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
4 喀 場 色 ローム粒子中量	

遺物出土状況 土師器片200点（坏類28、甕類172）、石器2点（砥石）が出土している。25は竈東側の床面、26は南西コーナー部壁際の覆土中層、27は南壁際の覆土下層、28は竈西側の床面からそれぞれ出土している。29は東壁際から中央部にかけての覆土中層と下層から出土した破片が接合したものである。また、Q 4は東コーナー部床面、Q 5はP 4の底面からそれぞれ出土している。竈の支脚が、左袖外側から出土しているが、火床部に据えられた支脚と接合するものである。また、流れ込みと考えられるM 1・2が覆土中層部から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期（7世紀前葉）と考えられる。



第17図 第4号住居跡・出土遺物実測図



第18図 第4号住居跡出土遺物実測図

第4号住居跡出土遺物観察表（第17・18図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴	出土位置	備 考
25	土師器	环	13.4	4.5	-	長石・石英・赤色 粒子	にぶい橙	普通	口辺横ナデ、体部外面ヘラ 削り、内面ナデ	東裏側床面	95% PL10
26	土師器	环	13.0	4.1	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	橙	普通	口辺横ナデ、体部外面ヘラ 削り、内面ナデ	南西コーナー 中層	75% PL10
27	土師器	环	13.4	4.4	5.9	長石・石英	橙	普通	口辺横ナデ、体部外面ヘラ 削り、内面ナデ	南壁際下層	65% PL10
28	土師器	环	[13.2]	(3.8)	-	石英・赤色粒子	灰褐	普通	口辺横ナデ、体部外面ヘラ 削り後ナデ、内面ヘラナデ	東西側床面	20%
29	土師器	甕	18.2	28.9	7.9	長石・石英・赤色 粒子	にぶい橙	普通	口辺横ナデ、体部外面ヘラ 削り、内面ヘラナデ	東コーナー 中層～下層	60% PL10

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重 量	材 質	特 徴	出 土 位 置	備 考
M1	釘	(5.0)	1.3	0.5	(6.4)	鉄	角釘	中央部中層	PL12
M2	釘	(4.9)	0.5	0.4	(3.7)	鉄	角釘	中央部中層	PL12

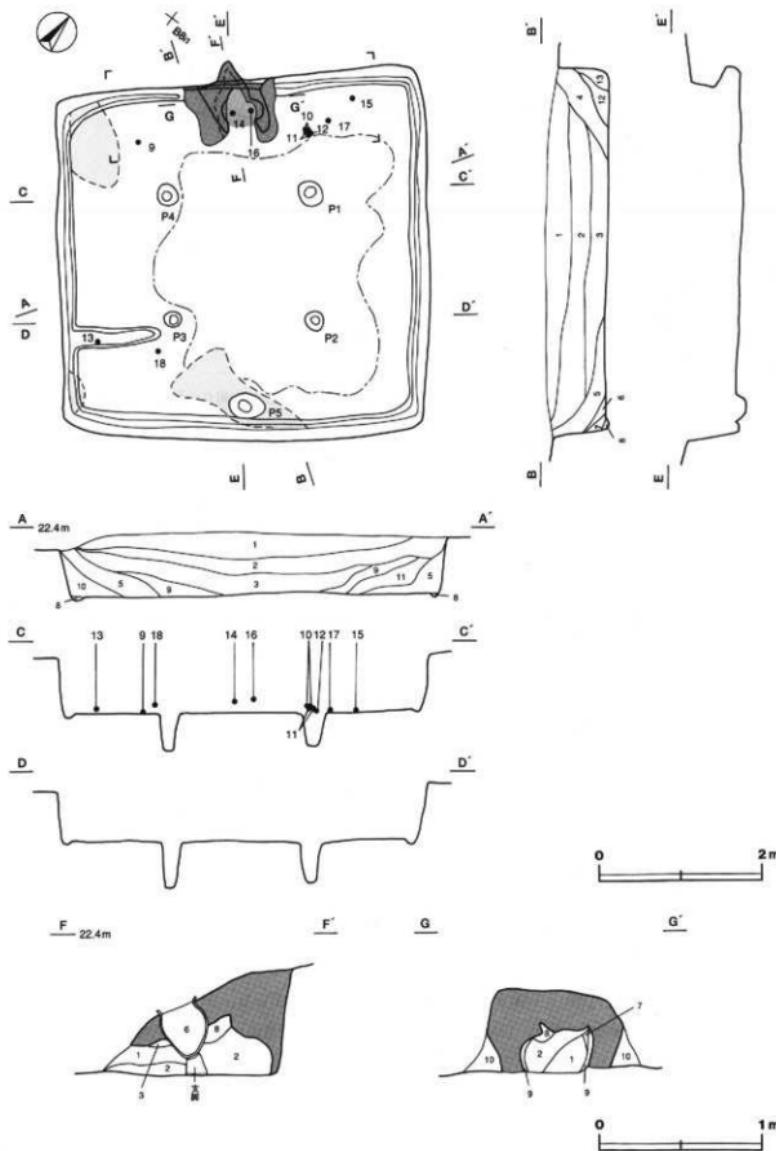
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重 量	材 質	特 徴	出 土 位 置	備 考
Q4	砥石	(10.2)	6.7	(2.3)	(165.6)	褐色凝灰岩	2面使用、線条痕多数、剥離片	東コーナー 床面	PL12
Q5	砥石	(8.2)	4.6	3.7	(148.4)	凝灰岩	4面使用、線条痕多数、片端折損	柱穴底部	PL12

第5号住居跡（第19～21図）

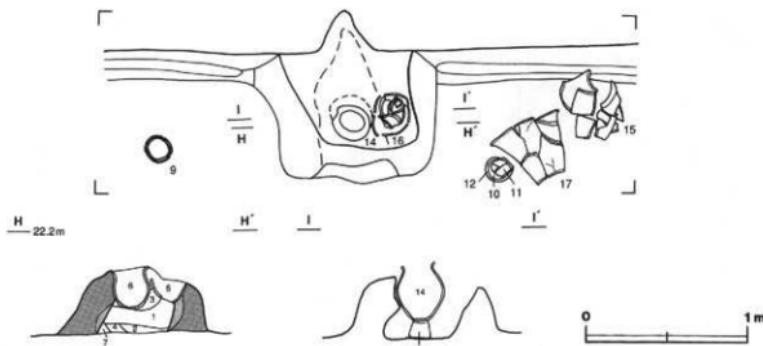
位置 調査区北東部のB8II区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と形状 一辺が4.56mほどの方形で、主軸方向はN-38°-Wである。壁高は60～73cmで、各壁ともやや外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり、中央部から竈付近に踏みしめられた面がある。壁溝は全周しており、西壁側からは間仕切り溝が確認されている。



第19図 第5号住居跡実測図(1)



第20図 第5号住居跡実測図(2)

竈 北西壁中央部に付設されている。袖部と煙道部は砂質粘土にロームと小砂利を少量混ぜ、壁を25cmほど掘り込んで構築されている。竈は焚口部が多少崩落し、やや右袖寄りに傾いてはいるものの、支脚に壺が掛かってた状態で出土している。また、掛けられた壺の右隣に上半部を欠損した壺が据え付けられ、二口で使用されていた可能性が高い。規模は、焚口部から煙道部まで100cm、袖部幅97cmであり、煙道部は火床面から外傾して立ち上がっている。火床部はほぼ円形で、床面をほとんど掘りくぼめずに構築している。袖部内面及び火床面は、被熱のため赤変硬化している。

竈土層解説

1 暗赤褐色	燒土粒子多量、燒土ブロック・炭化粒子少量	6 黒褐色	ローム粒子微量
2 暗赤褐色	ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子少量	7 緩赤褐色	燒土ブロック・燒土粒子中量、ローム粒子少量
3 黒褐色	燒土ブロック・白色粘土粒子少量	8 緩褐色	白色粘土粒子中量、炭化粒子微量
4 底灰褐色	燒土粒子・炭化粒子微量	9 明赤褐色	燒土粒子中量
5 暗褐色	ローム粒子・白色粘土粒子微量	10 暗褐色	ローム粒子・燒土ブロック・炭化粒子少量

ピット 5か所。P 1～P 4は径25～32cmの円形で、深さは40～56cmである。配置や規模から主柱穴と考えられる。P 3は間仕切り溝に関連するピットを兼ねていたものと考えられる。P 5は長径40cm、短径30cmの楕円形で、深さは14cmである。南壁寄りの中央に位置し、その北側に床の硬化面が広がっていることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

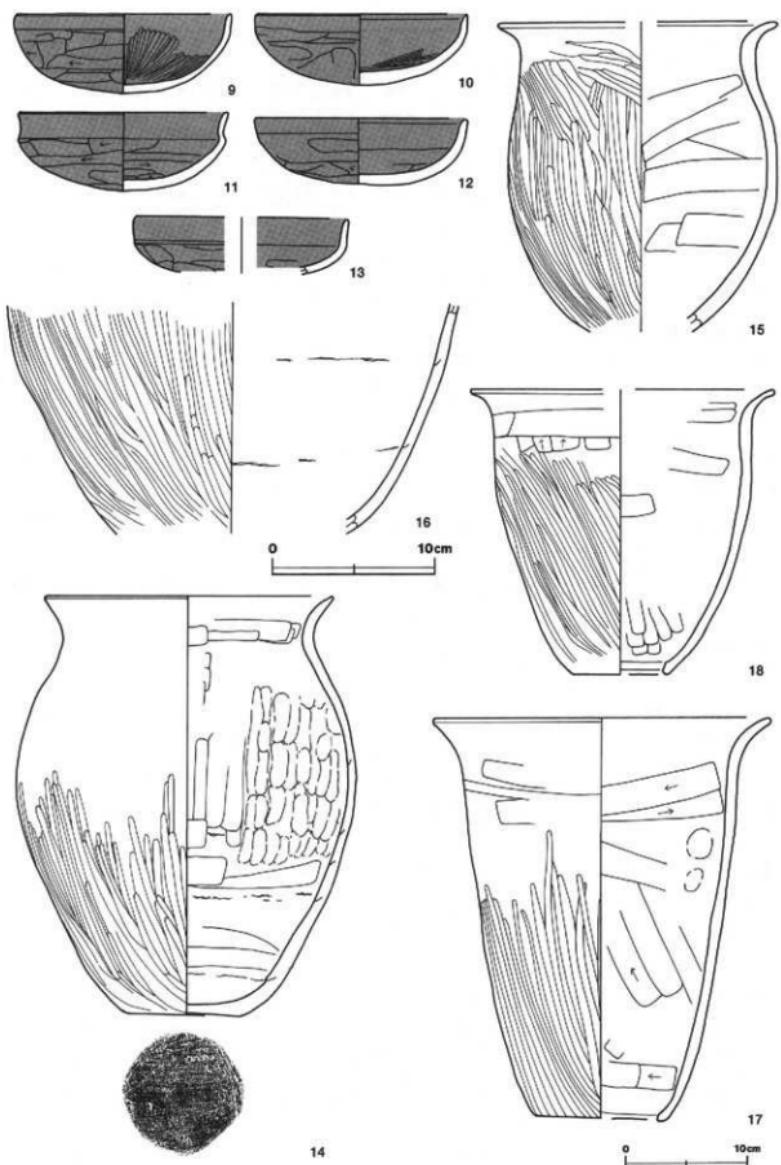
覆土 13層に分層される。焼土塊を含む第4～13層が埋め戻された堆積状況を示している人為堆積で、第1～3層がレンズ状の堆積状況を示している自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子少量	8 黒褐色	ロームブロック少量
2 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	9 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量
3 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	10 暗褐色	ローム粒子中量、燒土粒子微量
4 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	11 暗褐色	ローム粒子多量
5 黒褐色	ロームブロック少量	12 暗褐色	ローム粒子多量、白色粘土粒子少量
6 黒褐色	ロームブロック・燒土粒子少量	13 暗褐色	ローム粒子中量、燒土粒子少量
7 黒褐色	燒土粒子・炭化粒子中量、ローム粒子少量		

遺物出土状況 土器片112点(壺類28、甕類49、瓶類35)が出土している。9は竈左袖近くの床面、10・11・12は重なって竈右袖近くの床面、13は間仕切り溝の底面、14・16は竈内、15と17は右竈袖近くの床面に並んでそれぞれ出土している。14の甕はやや傾きながらも支脚に乗った状態で出土し、その隣に上部が欠損した状態で並んで掛けられていた16の中から、甕が出土している。18は南・西コーナー部や出入り口付近に検出された焼土とともに投棄された可能性が高い。

所見 竈の両袖部付近から、壺類が重なったり、甕や瓶が並んで出土した状況は、その付近が土器の保管場所であったと推測される。時期は出土土器から後期(7世紀前葉)と考えられる。



第21図 第5号住居跡出土遺物実測図

第5号住居跡出土遺物観察表（第21回）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎上	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
9	土師器	环	13.4	4.9	-	石英・赤色粒子	黒褐	普通	口辺焼ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ヘラ削り	竪窓側床面	95% PL9
10	土師器	环	13.0	4.4	-	黄石・雲母・赤色 粒子	黒褐	普通	口辺焼ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ヘラ削り	竪窓側床面	90% PL9
11	土師器	环	13.0	4.9	-	黄石・石英・赤色 粒子	灰黄褐	普通	口辺焼ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ヘラ削り	竪窓側床面	85% PL9
12	土師器	环	13.1	4.2	-	石英・赤色粒子	黒褐	普通	口辺焼ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ヘラ削り	竪窓側床面	85% PL9
13	土師器	环	[13.1]	(3.4)	-	石英	黒褐	普通	口辺焼ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ヘラ削り	市ヨーナー下層	30%
14	土師器	甕	23.5	34.2	9.6	黄石・石英・雲母	棕	普通	口辺焼ナデ、化粧陶器上層ナデ、下部ヘラ削り、内面削り、ヘラナデ、輪削り	竪窓内	95% PL11
15	土師器	甕	[22.6]	(25.2)	-	黄石・石英・雲母 赤色粒子	棕	普通	口辺焼ナデ、体部外面ヘラ削り、内面削り	竪窓側床面	75% PL9
16	土師器	甕	-	(19.2)	-	黄石・石英・雲母 等	棕	普通	口辺焼ナデ、体部外面ヘラ削り、内面削り	竪窓内	20%
17	土師器	甕	27.1	33.2	10.6	黄石・石英・雲母 等	にぶい棕	普通	口辺焼ナデ、内面削り、内面削り、内面削り、内面削り、内面削り	竪窓側床面	90% PL9
18	土師器	甕	[25.0]	23.6	8.0	石英・赤色粒子	にぶい棕	普通	口辺焼ナデ、体部外面ヘラ削り、内面削り	市ヨーナー下層	60% PL9

第6号住居跡（第23回）

位置 洪査区中央部のC8c2区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と形状 一辺が5.30mほどの方形で、主軸方向はN-45°-Wである。壁高は55~80cmで、各壁ともやや外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり、全体的によく踏みしめられている。墳溝は全周している。

竈 北西壁中央部よりやや北東側に付設されている。袖部と煙道部は砂質粘土にロームと小砂利を少量混ぜ、壁を30cmほど掘り込んで構築されており、規模は、焚口部から煙道部まで88cm、袖部幅115cmである。煙道部は、火床面から外傾して立ち上がっている。火床部は住居の主軸方向に長い梢円形で、床面から10cmほど掘りくぼめられており、袖部内面及び火床面は、被熱のため赤変硬化している。支脚上部は破損していたが、下部はしっかりとおり、火床面外側の煙道部に据えられていた。

竈土層解説

1 焼 黒 色 ローム粒子少量、白色粘土粒子微量	6 暗 棕 色 ローム粒子・焼土粒子少量
2 断 黑 棕 色 ローム粒子少量、燒土粒子少量、炭化粒子微量	7 暗 黑 棕 色 白色粘土粒子中量、ローム粒子少量
3 断 黑 棕 色 白色粘土粒子中量、ローム粒子少量	8 断 黑 棕 色 白色粘土粒子中量、ローム粒子・炭化物少量
4 烧 黑 棕 色 ローム粒子・燒土ブロック・焼土粒子・灰少量	
5 暗 黑 棕 色 ローム粒子少量	

ピット P 1~P 4 は径40~60cmの円形で、深さは53~62cmである。配置や規模から主柱穴と考えられる。P 5 は径28cm、深さ26cmで、南壁寄りの中央に位置し、壁際の塗みとともに出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6 は住居に伴うものであるが、性格は不明である。

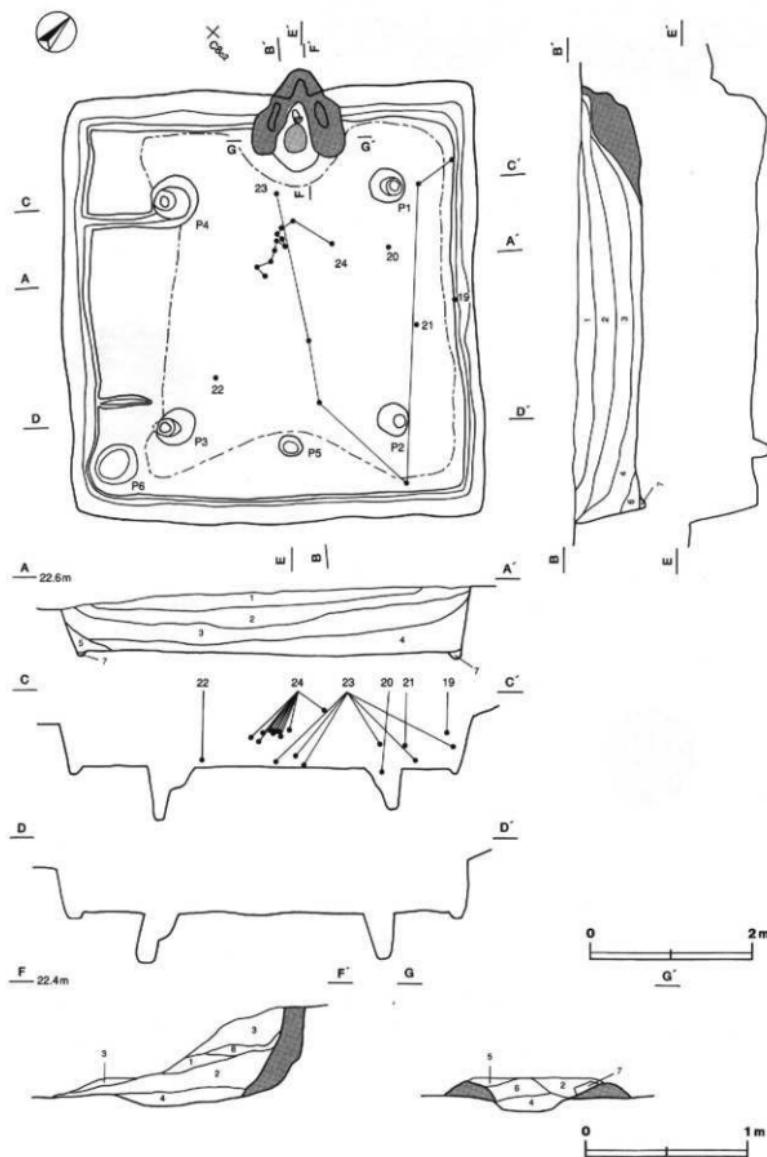
覆土 7 層に分層される。覆土中にロームブロックを多く含む人為堆積である。

土層解説

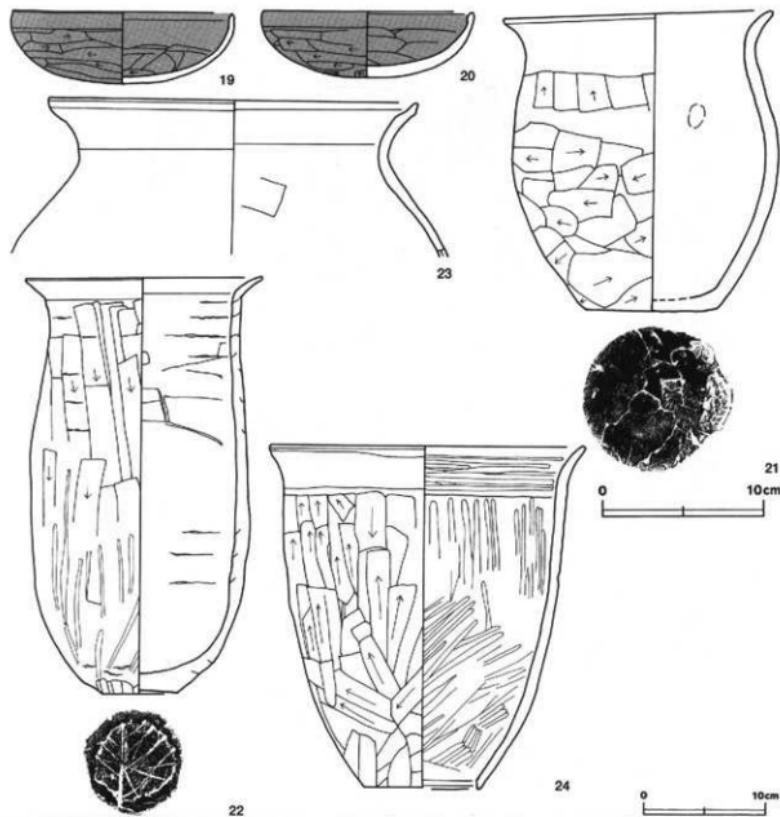
1 黒 色 ローム粒子少量	5 暗 棕 色 ロームブロック中量、燒土粒子少量
2 線 塗 黑 棕 色 ロームブロック中量、燒土粒子少量、炭化粒子微量	6 暗 棕 色 ローム粒子多量、炭化物微量
3 暗 棕 色 ロームブロック多量、炭化粒子少量	7 暗 棕 色 ローム粒子多量、燒土粒子微量
4 暗 棕 色 ローム粒子多量、炭化粒子少量	

遺物出土状況 土師器類651点（环類201、甕類437、瓶類13）、混入と思われる縞文土器片84点も出土している。19・21は北東壁際中央部の覆土中層、20は北東壁中央部付近の床面、22は中央部付近の覆土下層からそれぞれ出土している。23は東側の覆土中層から床面までの破片が接合したもので、24は中央部覆土上層から中層までの破片が接合したものである。これらは埋め戻される際に投棄された可能性が高い。また、竪窓の第4層からは、ヤマトシジミが2点出土している。

所見 時期は出土土器から後期（7世紀前葉）と考えられる。



第22図 第6号住居跡実測図



第23図 第6号住居跡出土遺物実測図

第6号住居跡出土遺物観察表（第23図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
19	土師器	环	13.6	4.5	-	長石・雲母・赤色 粒子	にぶい橙	普通 削り	口辺横横ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ヘラナダ	北東壁際中層	95% PL10
20	土師器	环	13.0	4.0	-	長石・石英・赤色 粒子	灰黄褐	普通 削り	口辺横横ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ヘラナダ	北東壁際床面	65% PL10
21	土師器	甕	16.8	18.5	8.4	石英・赤色粒子	赤黒	普通 削り	口辺横横ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ナダ・削削削、底部ヘラ削り	北東壁際中層	75% PL11
22	土師器	甕	19.4	33.7	6.1	長石・雲母・赤色 粒子	灰白	普通 削り	口辺横横ナデ、体部外面ヘラ削り、下部ハラ削り、内面ヘラナダ・削削小皿、大素皿	中央部下層	75% PL11
23	土師器	甕	22.8	(9.9)	-	長石・石英・赤色 粒子	にぶい橙	普通 削り	口辺横横ナデ	東側下層	15%
24	土師器	瓶	25.9	28.2	9.6	長石・石英・雲母 粒子	橙	普通 削り	口辺部内面ヘラ削り・外表面横ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ヘラ削り	中央部中層	60% PL10

表2 穫穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	面積(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁構	内部施設			覆土	出土遺物	時代
								柱	梁	板			
1	B8i7	N-43°W	方形	5.20×5.10	65~78	平坦	全周	4	1	-	竪1	-	7世紀前葉
2	B8g5	N-49°W	方形	5.50	30~60	平坦	全周	4	1	-	竪1	-	7世紀前葉
3	C8a4	N-7°W	方形	5.17×5.05	43~75	平坦	全周	4	1	-	竪1	-	7世紀前葉
4	C8g1	N-25°W	方形	4.56	25~58	平坦	半周	4	1	1	竪1	-	7世紀前葉
5	B8i11	N-38°W	方形	4.56	60~73	平坦	全周	4	1	-	竪1	-	7世紀前葉
6	C8e2	N-45°W	方形	5.33×5.15	55~80	平坦	全周	4	1	1	竪1	-	人为
													7世紀前葉

(2) 土坑

第1号土坑(第24・25図)

位置 调査区東部のC8g4区に位置し、緩やかな斜面部に立地している。

規模と形状 長径3.93m、短径3.15mの楕円形で、長径方向はN-31°-Wである。確認面から底面までの深さは55cmほどで、壁はいずれも緩やかに外傾しながら立ち上がっており、底面はほぼ平坦である。

覆土 3層に分層される。レンズ状の堆積状況を示している自然堆積である。

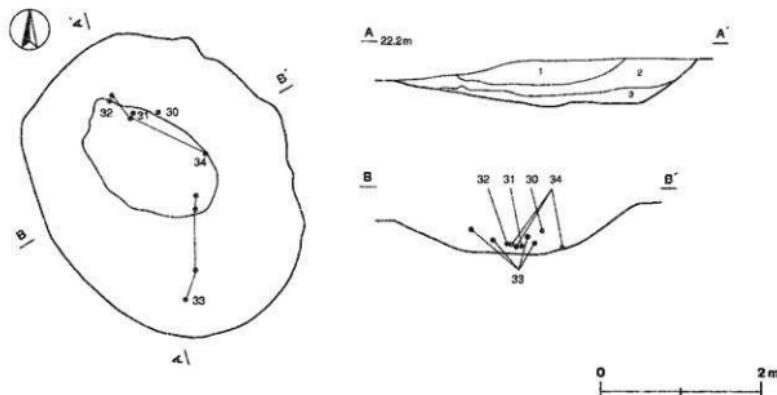
土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少々、炭化粒子微量
2 赤褐色 ローム粒子少々、焼土粒子微量

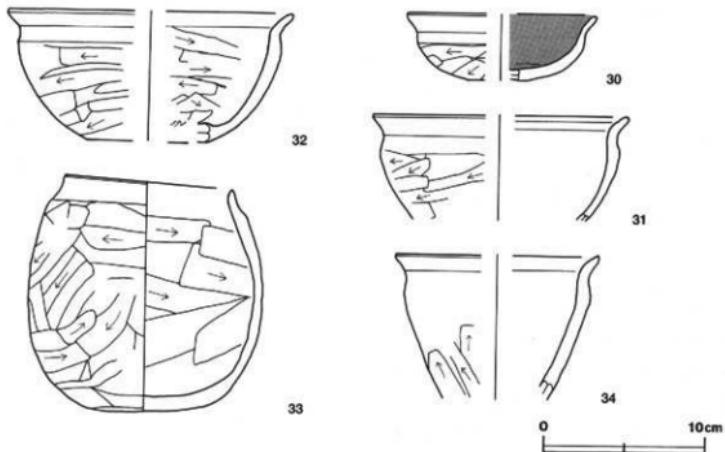
- 3 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 上部器片144点(坏・楕瓶26、鉢・壺類118)が出土している。30~32は北壁の立ち上がり付近の覆土中層からそれぞれ出土している。33は覆土中層から下層にかけて出土し、土器全体に被熱痕が認められる。34は覆土中層から床面にかけて出土した破片がそれぞれ接合したものである。これらは、投棄された可能性が高い。

所見 時期は出土土器から後期(7世紀前葉)と考えられる。



第24図 第1号土坑実測図



第25図 第1号土坑出土遺物実測図

第1号土坑出土遺物観察表（第25図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 故	出土位置	備 考
30	土師器	壺	[11.6]	(4.1)	-	長石・石英・赤色 粒子	灰褐色	普通	口辺部削ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ	覆土中層	25%
31	土師器	輪	[15.8]	(6.4)	-	長石・石英	褐	普通	口辺部削ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ	覆土中層	15%
32	土師器	鉢	[17.6]	8.0	[7.4]	長石・石英・赤色 粒子	褐	普通	口造品ナデ。体部外面ヘラ削り、内面削り、内面ナデ。下部ヘラ削り	覆土中層	15%
33	土師器	甕	10.5	14.5	6.4	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	削り、内面ナデ。体部外面ヘラ削り、内面削り、内面ナデ。下部ヘラ削り	中層から下層	80% PL11
34	土師器	壺	[12.6]	(8.9)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	口辺部削ナデ。体部内外面剥離、外側ヘラ削り	中層から底面	10%

第3号土坑（第26図）

位置 調査区西部のC79区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と形状 長径2.28m、短径1.30mの不定形で、長径方向はN-11°-Eである。確認面から底面までの深さは35cmほどで、壁はいずれも外傾しながら緩やかに立ち上がっており、底面は皿状である。

覆土 2層に分層される。レンズ状の堆積状況を示している自然堆積である。

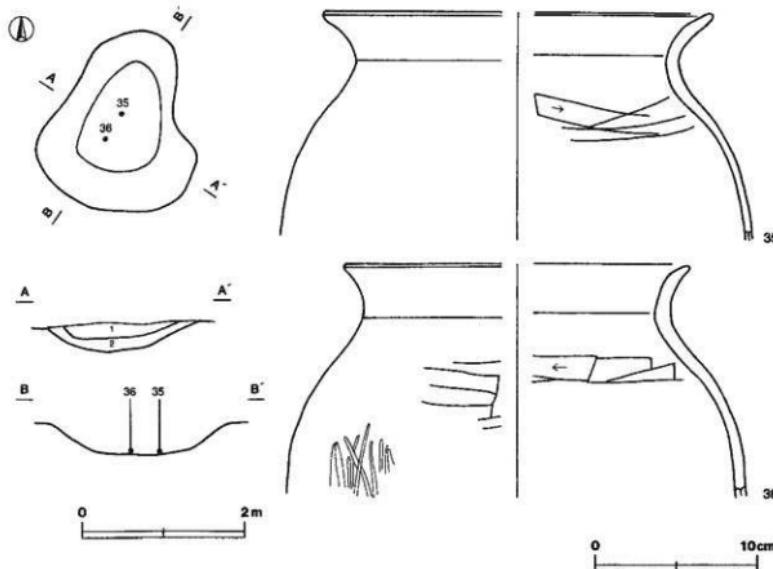
土層解説

1 黒 極 色 焼土粒子中量、ローム粒子少量

2 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片62点（壺類4・甕類58）が出土している。35・36とも中央部底面から出土した破片がそれぞれ接合したものである。底面に飛び散ったような状態で出土していることから、これらは投棄されたものと考えられる。

所見 時期は出土上器から後期（7世紀前葉）と考えられ、隣接する第4号住居跡と同時期に使用されていた可能性がうかがえる。



第26図 第3号土坑・出土遺物実測図

第3号土坑出土遺物観察表（第26図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
35	土器	甕	[23.8]	(13.8)	-	灰石・石英・雲母 にぶい程	普通	口辺部横ナデ、体部外周ナデ、 内面ヘラカナダ、直削	中央部底面	10%	
36	土器	甕	[21.4]	(14.3)	-	長石・石英・雲母 赤色粒子	にぶい程	普通	口辺部横ナデ、体部外周ヘラ削り 縁ナデ・ヘラ削り、内面ヘラナダ	中央部底面	10%

2 その他の遺構

今回の調査では、時期及び性格が不明な1条の溝と2基の土坑が調査されている。ここでは、溝跡について記述し、土坑については実測図と上層解説を記載する。

(1) 溝跡

第1号溝跡（第27図）

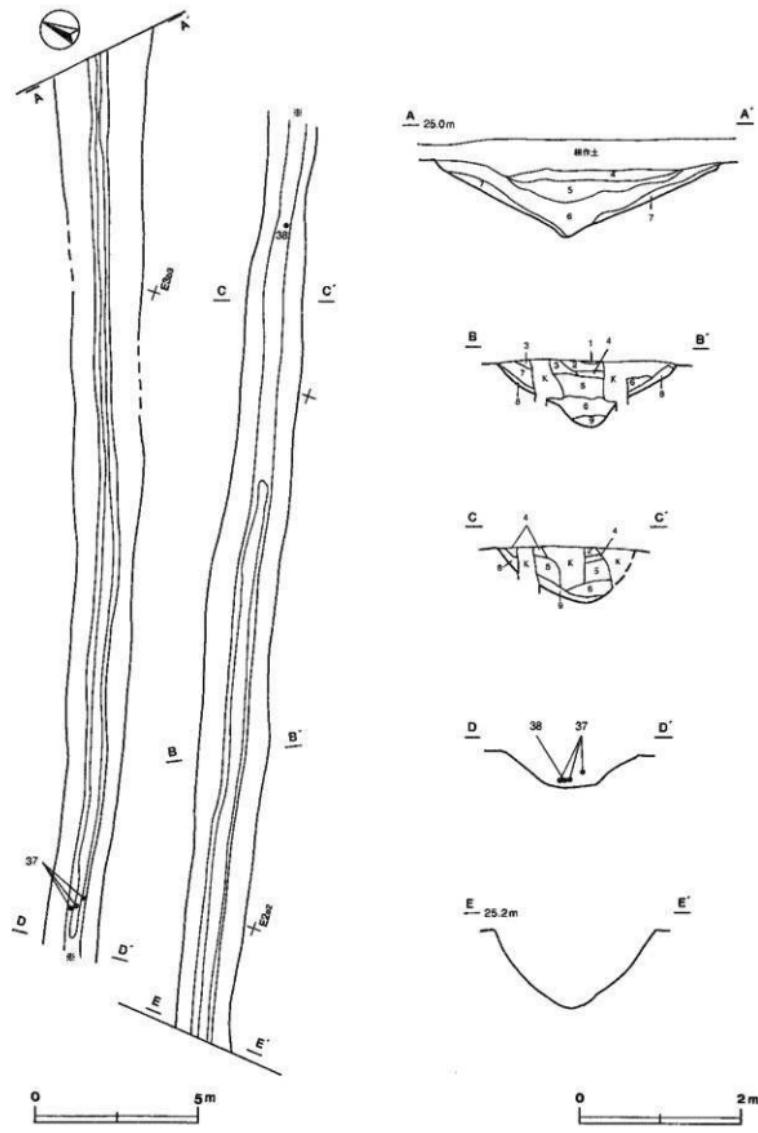
位置 調査区中央部のE2d1～D3j4区に位置し、遺構確認面の西部と東部の高低差が約60cmの傾斜地に立地している。

規模と形状 E2d1区から東北東方向（N-74°-E）へ直線的に伸び、さらに調査区域外へ至っている。確認できた規模は長さ56.7m、幅1.40～3.20m、深さは70～92cmであり、断面形は薬研堀状を呈している。

覆土 9層に分層される。レンズ状に堆積していることから自然堆積である。

土層構成

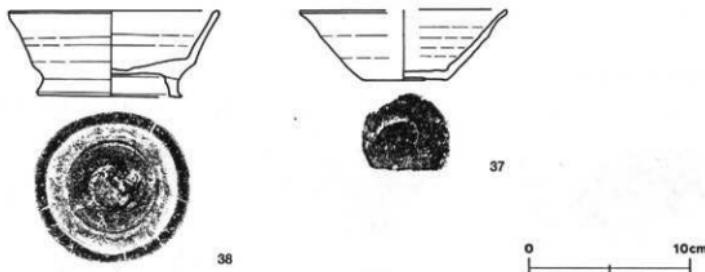
1	黒褐色	ロームブロック少量	6	黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	7	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
3	黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	8	褐色	ローム粒子多量、焼土粒子少量
4	黒褐色	ロームブロック、焼土粒子少量	9	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
5	褐色	ロームブロック、炭化粒子中量			



第27図 第1号溝跡実測図

遺物出土状況 遺物は土師器片4点(壺類)、須恵器片4点(壺3、高台付壺1)が出土している。37・38は溝中央部の覆土下層から出土しているが、本跡付近では住居跡が検出できなかったことから、遺物は調査区外からの流れ込みと考えられる。

所見 調査区外の北西側は台地中央部、北東側は乙戸川の支流にあたり、遺構の立地からして排水溝、もしくは区画溝と推定される。出土土器から時期は8世紀から9世紀にかけて機能していたと考えられる。

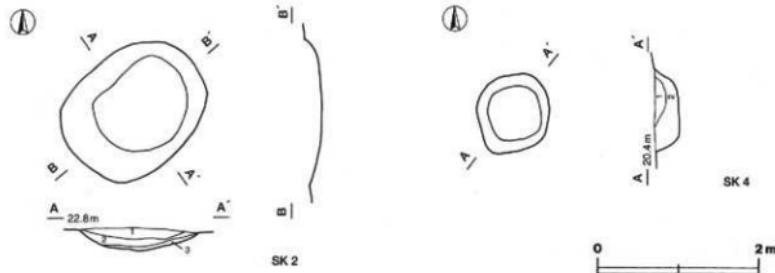


第28図 第1号溝跡出土遺物実測図

第1号溝跡出土遺物観察表(第28図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴	出土位置	備 考
37	須恵器	壺	[12.8]	4.0	5.2	長石・石英・赤色 粒子	橙	普通	底部回転ハラ切り後、多方角 のハラ削り	中央部下層	35%
38	須恵器	高台付壺	13.0	5.3	9.0	長石・纏	暗灰黄	普通	底部回転ハラ切り後、高台貼 り付け	中央部下層	95% PL10

(2) 土坑(第29図)



第29図 第2号・4号土坑実測図

第2号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 黄色 ローム粒子中量

第4号土坑土層解説

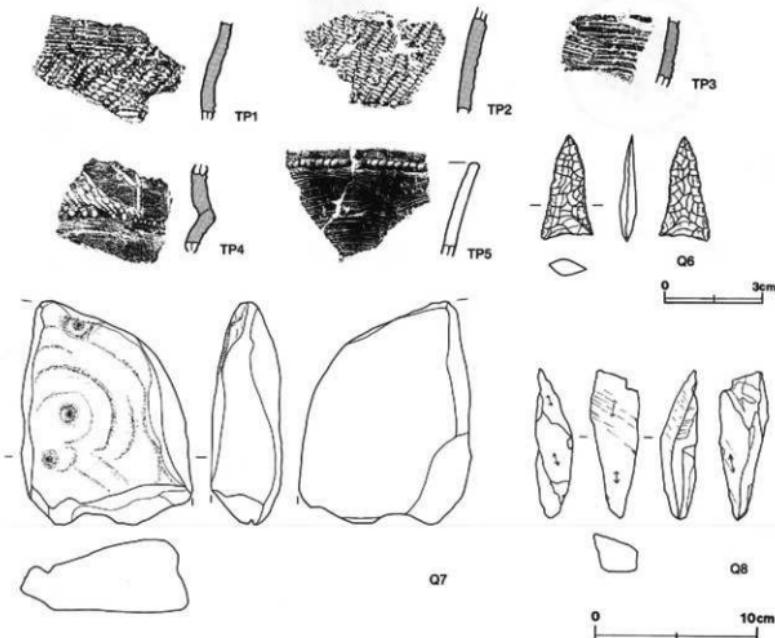
- 1 褐褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量

表3 土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径(m)	(cm)					
1	C 8 g4	N-31°-W	楕円形	3.93	3.15	55	外傾	平坦	自然	土師器
2	C 8 d4	N-44°-E	楕円形	1.83	1.46	26	外傾	平坦	自然	土師器
3	C 7 f9	N-11°-E	不整円形	2.28	1.30	35	外傾	皿状	自然	土師器
4	C 6 h9	—	円形	1.09	0.95	38	外傾	平坦	自然	土師器

3 遺構外出土遺物

今回の調査で出土した遺構に伴わない主な遺物について、実測図（第30図）及び出土遺物観察表で記載する。



第30図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表（第30図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴	出土位置	備 考
TP1	縄文土器	深鉢	—	(6.1)	—	長石・石英・雲母 ・織維	にぶい褐	普通	半裁竹管による横位の平行流	C8区	前期前半 PL12
TP2	縄文土器	深鉢	—	(6.4)	—	長石・石英・雲母 ・織維	暗褐	普通	Q段多条横文を施文	C8区	前期前半 PL12
TP3	縄文土器	深鉢	—	(4.2)	—	長石・石英・雲母 ・織維	明褐	普通	半裁竹管による横位の平行流	C8区	前期前半 PL12
TP4	縄文土器	深鉢	—	(5.3)	—	長石・石英・雲母 ・小石	赤褐	普通	沈線区画内。刺突文充填	C8区	早期後葉 PL12
TP5	縄文土器	深鉢	—	(5.8)	—	長石・雲母	にぶい褐	普通	口部肥厚し。肩部は柔織文	B8区	後期後葉 PL12

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考
							無蓋鉢	有蓋鉢		
Q6	石巻	3.3	1.6	0.6	1.9	ホーンフェルス			D3区	PL12
Q7	石皿	(13.7)	(10.6)	4.4	(855.8)	雲母片岩	表面中央部が皿状に盛り上む	表面3孔	C8区	PL12
Q8	砥石	9.2	3.1	2.3	50.1	製灰岩	8面使用、縦条痕多数、剥離後再生		E5区	PL12

第4節 まと め

今回の調査によって、当遺跡からは古墳時代の堅穴住居跡6軒、土坑2基、時期及び性格不明の溝跡1条、土坑2基が検出された。また、縄文時代の遺物が遺構外から出土している。

ここでは、当遺跡から検出された遺構と遺物について概要を述べ、まとめとしたい。

縄文時代の遺構は検出されなかったが、縄文土器片80点余りが出土している。貝殻条痕文系の上器片（早期後葉）、羽状縄文系の上器片（前期前半）、織紋文系の上器片（後期後葉）である。反子遺跡は、乙戸川右岸のなだらかな低位段丘の縁辺部に位置し、比較的の水場に近いことを考えると、当遺跡はこれらの時期の活動領域であった可能性が高い。

古墳時代の住居跡は、調査区の北東部で6軒（7世紀前葉）検出されている。出土した土器の様相からほぼ同時期に集落を形成していたと考えられる。出土遺物の特徴は次の通りである。

壺全体の測定値は、口径11.0～14.2cm（平均13.05cm）、器高4.1～4.9cm（平均4.48cm）であり、黒色処理率は80%程度を占めている。調整は体部外面にヘラ削り、内面に横ナデ・ナデ調整が施されているものがほとんどである。

壺は3種類に分類できる。①この時期の県南地域の特徴である体部に縱方向のヘラ磨きを施し、口縁端部をわずかにつまみ上げるタイプ（常陸型壺）、②体部に縱方向のヘラ磨きを施すのは同様であるが、前述のタイプに比べ底部が一回り小型化し、口縁端部をつまみ上げず外反するタイプ、③口辺部は外反し、体部全体にヘラ削りを施し、口辺部の外径とは同じ径を下部にもち、筒状を呈するタイプの3つである。当遺跡の近隣で、ほぼ同時期の遺物が出土している熊の山遺跡や鳥名八幡前遺跡、梶内向山遺跡などは①のタイプが主流であるが、当遺跡では出土している壺の58%が②のタイプであり、①のタイプは40%程度である。

瓶も3種類出土している。①無底式で体部と口辺部の境にくびれをもたず、体部外面にはヘラ磨き、内面にヘラナデを施しているタイプ。②①より器高が高く、無底式で体部と口辺部の境にくびれをもたず、体部外面にヘラ削り、内面にはヘラ磨きが施されているタイプ。③②より器高が高く、無底式で体部と口辺部の境にくびれをもたず、体部外面下部にヘラ削り、内面にはヘラ磨きが施されているタイプである。どのタイプも口縁端部のつまみ上げはない。

壺に関しては、熊の山遺跡などと類似する傾向が見られるが、壺や瓶の口辺部に当遺跡特有の特徴がうかがえる。当遺跡では、壺に壺が掛かったままの住居跡が検出できた。壺が土圧で焚き口方向に少しおしつぶされたような状態で検出されたが、壺は支脚に乗った状態であった。もう一つの壺が壺の袖に食い込んだ状態で出土していることから、この壺は壺に掛け付けのものと考えられる。その壺の内部には、壺に据えられていたと推定される壺の破片が検出された。壺の左右には壺や壺、瓶などが整然と置かれていた。これらは、この当時の壺や供膳具・煮焚具の使用方法を示す良好な資料である。

発掘調査が行われたのは反子遺跡全体の一部分である。遺構の検出状況から、遺跡はさらに北東及び東方に広がっていると推察できる。

参考文献

- ・戸沢光則編『縄文時代研究事典』 東京堂出版 1994年9月
- ・石野博信『日本原始・古代住居の研究』 吉川弘文館 1990年3月
- ・石野博信『古代住居のはなし』 吉川弘文館 1995年5月
- ・大塚初重他編 「15 家族と住まい」「考古学による日本歴史」雄山閣 1996年1月
- ・深村宣行「茨城県南部における鬼高式土器について」「研究ノート」2号 茨城県教育財團 1993年7月
- ・福山義弘「熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財整理報告書」「茨城県教育財团文化財調査報告」第190集 茨城県教育財團 2002年3月
- ・川村満博「鳥内向山遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道（圧尖道）及び高速自動車国道常磐自動車道つくばジャンクション（仮称）建設事業地内埋蔵文化財整理報告書」「茨城県教育財团文化財調査報告」第199集 茨城県教育財團 2003年3月
- ・吹野登美夫・青木仁呂「島名八幡前遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財整理報告書」「茨城県教育財团文化財調査報告」第190集 茨城県教育財團 2003年3月

第6章 大高田遺跡

第1節 遺跡の概要

大高田遺跡は、茨城県稲敷郡阿見町大字小池字岡見道22番地の19ほかに所在し、阿見町南西部の乙戸川右岸に位置し、標高20m前後の緩やかな低段丘上に立地している。調査面積は3,566m²で、調査前の現況は畠地及び山林である。

今回の調査では、時期が特定できない溝跡2条が検出されている。

遺物は、遺物収納コンテナ(60×40×20cm)で1箱が出土した。

第2節 基本層序

調査区北東部のE0e4区にテストピットを設定し、基本土層の堆積状況の観察を行った。テストピットの地表面の標高は19.8mで、地表から2.7mほど掘り下げ、第31図のような堆積状況を確認した。

以下、テストピットの観察から層序を説明する。

第1層 厚さ90cm前後の褐色の表土で、粘性は弱く、しまりは普通である。

第2層 ローム粒子を少量含む、厚さ18~30cmの暗褐色の層であり、粘性は普通で、しまりは弱い。

第3層 厚さ22~26cmの暗褐色の層である。ローム粒子を中量
含み、粘性、しまりとも普通である。

第4層 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を少量含む厚さ12~
15cmの極暗褐色の層である。粘性、しまりとも普通である。

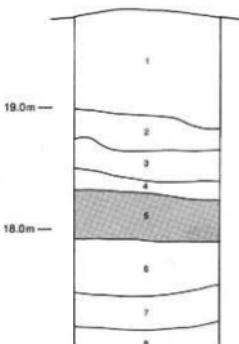
第5層 黒色粒子と白色粒子を少量含む厚さ35~40cmの暗褐色
のハードローム層である。粘性、しまりとも普通で、第II黒色帯
に相当すると考えられる。

第6層 黒色粒子を少量、赤色粒子と白色粒子を微量含む褐色
のハードローム層で、厚さは35~45cmである。粘性は普通で、し
まりは強い。

第7層 黒色粒子を少量含む明褐色のハードローム層で、厚さ
は28~30cmである。粘性、しまりはともに強い。

第8層 鈍い褐色の粘土層で、層厚は未掘のため確認できなか
ったが、常総粘土層と考えられる。

なお、遺物は、第2・3・4層から出土している。



第31図 基本土層図



第32図 大高田遺跡調査区設定図

第3節 調査の成果

今回の調査で、調査区中央部付近から時期不明の溝2条が確認された。

以下、確認された遺構と遺構外出土遺物について記載する。

溝跡

第1号溝跡（第33図）

位置 調査区中央部のE0b4～F0c5区に位置し、遺構確認面の北部と南部の高低差が約1.3mの傾斜地に立地している。

重複関係 第2号溝跡に掘り込まれている。

規模と形状 F0c5区から北西方向（N-25°-W）へ37.5m直線的に延び、その付近ではほぼ直角に屈曲し北東方向（N-55°-E）へ16mほど直線的に伸びている。確認できた規模は長さ53.5m、幅0.70～3.30m、深さ55～80cmであり、断面形は皿状である。

覆土 6層に分層される。レンズ状に堆積していることから自然堆積である。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒中量	4	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
2	黒褐色	ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子少量	5	暗褐色	ローム粒子少量
3	黒褐色	ローム粒子・燒土粒子少量	6	黒褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 遺物は縦文土器片2点、土師器片34点（壺類5、甌類29）が出土しているが、いずれも細片で破断面が摩滅しており、混入したものである。

所見 調査区を南北に縱断し、調査区外に延びている。遺跡の立地から区画溝か排水溝の可能性があるが、時期は不明である。

第2号溝跡（第33図）

位置 調査区中央部のFd3～F0c6区に位置し、造構確認面の南部と北東部の高低差が約80cmの傾斜地に立地している。

重複関係 第1号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 Blc9区から北方向（N-68°-E）へ直線的に延び、2mほど先で擾乱のため埋滅している。また、西側は調査区外へ延びている。確認できた規模は長さ145m、幅1.2～2.7m、覆土の厚さは約50cmで、断面形は皿状である。

覆土 4層に分層される。レンズ状に堆積していることから自然堆積である。

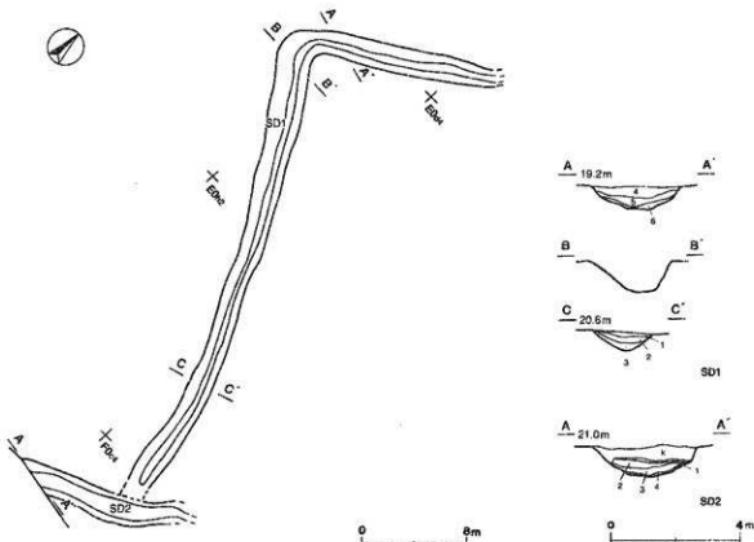
土層解説

- | | |
|-------|--------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・燒土粒子少量 |

- | | |
|-------|-----------|
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 遺物は土師器片3点（壺類）、剥片8点（黒曜石6、頁岩2）が出土しているが、出土した土器はいずれも碎片で破断面が摩滅しており、剥片も覆土中層より出土していることから、混入したものである。

所見 摆乱のため全容はつかめなかつたが、溝の方向は調査区の低位部にあたることから、排水溝もしくは区画溝と推定されるが、時期は不明である。



第33図 第1・2号溝跡実測図

表4 溝一覧表

番号	位置	方向	形状	規 模			断面形	壁面	覆土	主な出土遺物	時代	備 考・重複関係
				長さ(m)	幅(m)	深さ(cm)						
1	F0c5~E0b4	N-25°-W N-35°-E	窓状	53.5	0.70~3.30	55~80	皿状	外傾	自然	土師器片	不明	SD1→SD2
2	F0d3~F0c6	N-68°-W	直線	14.5	1.2~2.7	50	皿状	外傾	自然	剥片	不明	

遺構外出土遺物（第34図）

今回の調査で出土した遺物は細片が多く、復元可能な個体はなかった。

ここでは、古銭について実測図及び出土遺物観察表で記載する。



第34図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表（第34図）

番号	種別	径	孔幅	重 量	初鑄年	材 質	特 製	出 土 位 置	備 考
M1	開元通寶	19	0.6	1.0	621	銅	唐銭	覆土中	60%

第4節 ま と め

今回の調査で、区画溝、もしくは排水溝と推定される時期不明の溝跡が2条確認された。

当遺跡は、乙戸川右岸の低位段丘縁辺部に位置し、乙戸川に流れ込む小河川を北に望む緩やかな傾斜地にある。現在、北側の調査区外は山林と畠地、東側は畠地と水田、調査区より標高の高い南側と西側の台地上は山林と畠地で一部宅地となっている。当初、第2・3・4層で遺物を確認できたことから、各層の調査を行ったが、時期不明の溝跡以外の遺構は検出できなかった。

当遺跡からは前述したように繩文土器片24点、土師器片308点（环類94、甕類214）、土師質土器1点、陶器片2点、剥片8点、環20点、古銭1点、鐵滓2点が出土しているが、これらの遺物は大部分が細片であり、復元可能な個体はなかった。

調査区は、南西部の標高が高く、北側及び東側に緩やかに傾斜していることから、それらの遺物が調査区外から流れ込んだものとも想定できる。また、出土遺物の中で大部分を占める土師器を使用していた時期の遺構が、南側の調査区域外に存在することを示唆するものである。遺物の流れ込む可能性があるのは、調査区より標高が高く、調査区に向かって傾斜している調査区南側調査区域外の地域で、面積は約6,300m²である。これは、あくまでも地形から見た推定ではあるが、この部分が現在、荒れ地と山林であることを考慮すると、ここに前述した時期の遺構などが存在する可能性は高いと推察される。

周知の遺跡である大高田遺跡は、調査区の東部を含む南北約475m、東西約150mの範囲であり、今回発掘調査が行われたのは、遺跡全体の一部分である。調査結果から、遺跡が周知の範囲よりもさらに南西に広がると推察できたことは大きな成果であり、今後の発掘調査が待たれる。

参考文献

- ・成島一也「中山遺跡 国補緊道第14-03-620-0-051号埋蔵文化財調査報告書」「茨城県教育財團文化財調査報告」第204集 茨城県教育財團 2003年3月
- ・荒藤克一郎「塙谷津遺跡 震ヶ浦湖北流域下水道小川幹線玉里ポンプ場土木・建設工事事業地内埋蔵文化財調査報告書」「茨城県教育財團文化財調査報告」第207集 茨城県教育財團 2003年3月

第6章 前 烟 遺 跡

第1節 遺 跡 の 概 要

前烟遺跡は、茨城県稲敷郡阿見町大字小池字下屋敷997番地ほかに所在し、阿見町南西部の乙戸川左岸、標高14m前後の低位段丘上に位置している。調査面積は2,258m²で、調査前の現況は畠地である。

当遺跡は中世から近世を主体とする遺跡で、今回の調査によって検出された中世・近世の遺構は、掘立柱建物跡3棟、井戸跡5基、溝跡2条、方形堅穴遺構1基、土坑57基である。また、時期が特定できない、溝跡2条、方形堅穴遺構1基、土坑162基、ピット群2か所が調査されている。

遺物は、遺物収納コンテナ(60×40×20cm)で7箱分が出上した。主な出土遺物は、土師質土器(小皿、土鍋類、内耳鉢)、瓦質土器(高台付鉢、火鉢)、陶磁器(花瓶、皿、天目茶碗、香炉)、石器(石臼、砥石)、木製品(漆器、下駄、桶、柱材、井戸枠)、金属製品(小柄、鍔管、古錢)などである。

第2節 基 本 層 序

調査区の北側、B3c5区にテストピットを設定し、基本上層の堆積状況の観察を行った。テストピットの地表面の標高は13.6mで、地表面から約1.9mほど掘り下げ、第35図のような堆積状況を確認したが、最上層は耕作により搅乱を受けている。

基本上層は、色調・構成粒子・含有物・粘性などから5層に細分される。これらは、表土と常緑粘土層に大別され、第1層が表土、第2～5層が常緑粘土層に相当する。

以下、テストピットの観察から層序を説明する。

第1層 黒褐色腐植上層で、ローム、粘土ブロックを含む。厚さは24cmほどで、粘性・しまりともに普通である。

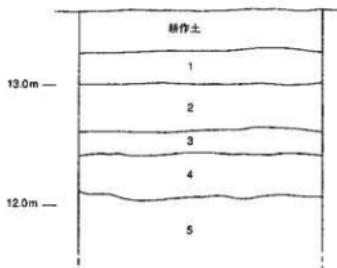
第2層 灰黄褐色の粘土層で、多量の砂粒、炭化物をわずかに含む。厚さは40cm前後で、粘性・しまりともに強い。

第3層 黄褐色の粘土層で、砂粒を多量に含む。厚さは20cmほどで、粘性は普通であるが、しまりは強い。

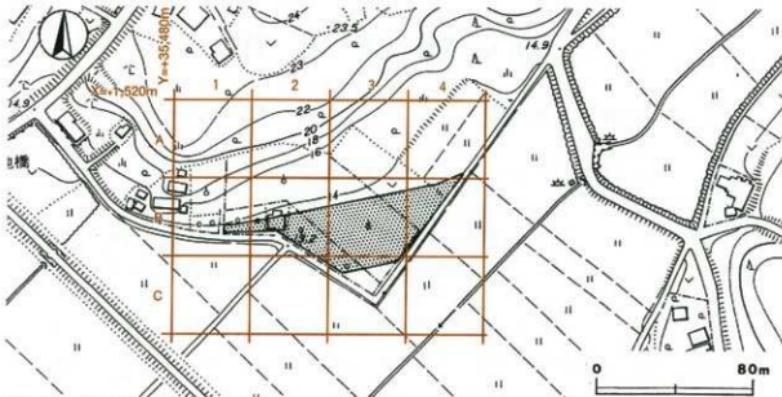
第4層 黄灰色の粘土層で、砂粒を多量に含む。厚さは25～35cmで、粘性は普通であるが、しまりは弱い。

第5層 青灰色の砂層で、粘性・しまりともに弱い。厚さは40cmまでは確認できたが、湧水によりそれ以下については確認することができなかった。

遺構は、第2層上面で確認された。



第35図 基本土層図



第36図 前烟遺跡調査区設定図

第3節 調査の成果

1 中世・近世の遺構と遺物

中世・近世の遺構は掘立柱建物跡3棟、井戸跡5基、溝跡2条、方形竪穴遺構1基、土坑57基が確認され、いずれも調査区中央部に位置している。以下、確認された遺構と主な遺物について記載する。

(1) 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡（第37図）

位置 調査区中央部北側のB 3号区を中心とした低位段丘上に立地している。

重複関係 P 8が第13・19号土坑を、P 10が第98・115号土坑をそれぞれ掘り込んでおり、P 1は第328号土坑に掘り込まれている。

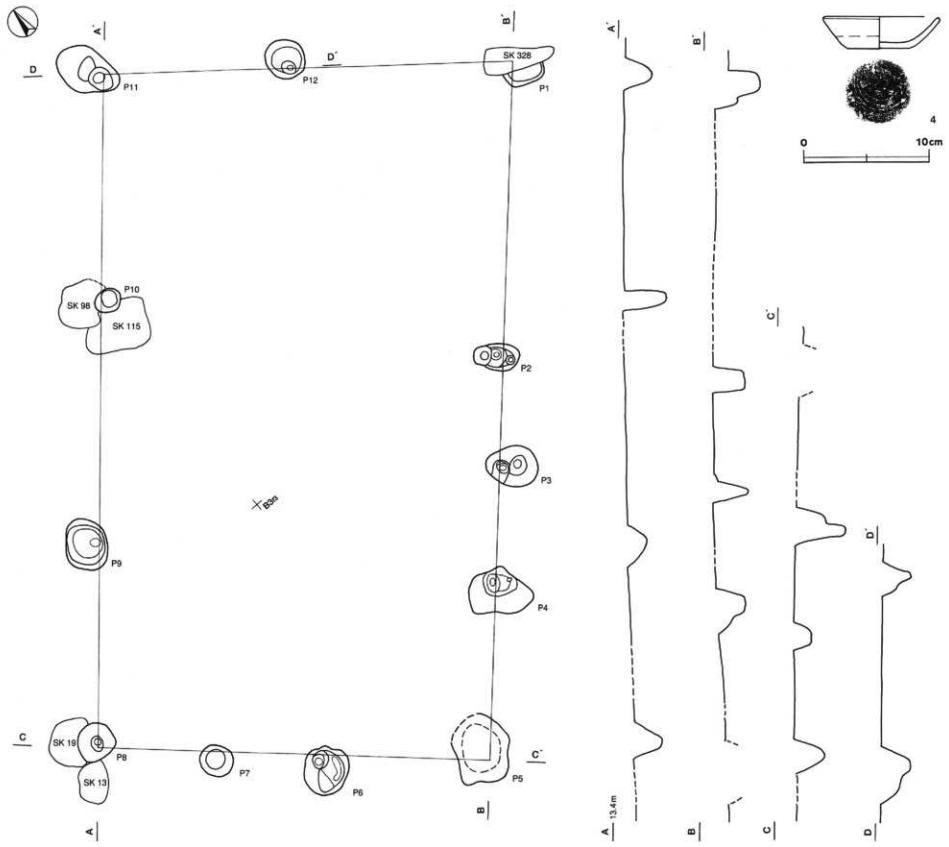
規模と構造 桁行4間、梁間3間の圓柱建物で、桁行方向はN-43°-Eの東西棟である。規模は桁行10.80m、梁間6.30mほどで、柱間寸法は、桁行が1.80~4.70mほどで、梁間が1.70~3.90mほどである。柱筋は通るが間尺が揺わず、礎石の存在などの構造を検討しなければならない。

柱穴 柱穴の平面形は、円形または梢円形で、径38~100cm、深さは30~78cmである。また、P 3・P 4・P 6・P 8・P 9・P 11の底面には硬化面が確認された。

覆土 柱穴の覆土は、ロームブロックや粘土ブロックを含む埋土であり、色はにぶい褐色と灰褐色である。

遺物出土状況 P 2の覆土中から土師質土器片1点（小皿）、P 3の覆土中から土師質土器片3点（小皿）、P 12の覆土中から土師質土器片1点（小皿）4がそれぞれ出土している。

所見 ほぼ柱筋は通っているが、掘り方や桁・梁とも柱間が揃ってはいない。また、規模などから東柱の存在が想定できるが検出することはできなかった。土器の特徴や柱間が不揃いなことなどから、時期は17世紀前半頃と考えられる。



第37図 第1号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第1号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第37図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
4	土器	小鉢	8.9	2.6	5.0	灰石・石英・雲母・ 赤色鉱	にぶい橙	普通	底筋留目系切り。体部内・外 周溝無不明	P1覆土中	65%

第2号掘立柱建物跡（第38図）

位置 調査区南東部のB 3 h7区を中心とした低位段丘上に立地している。

重複関係 P 3が第67号土坑、P 8が第91号土坑を掘り込んでいる。

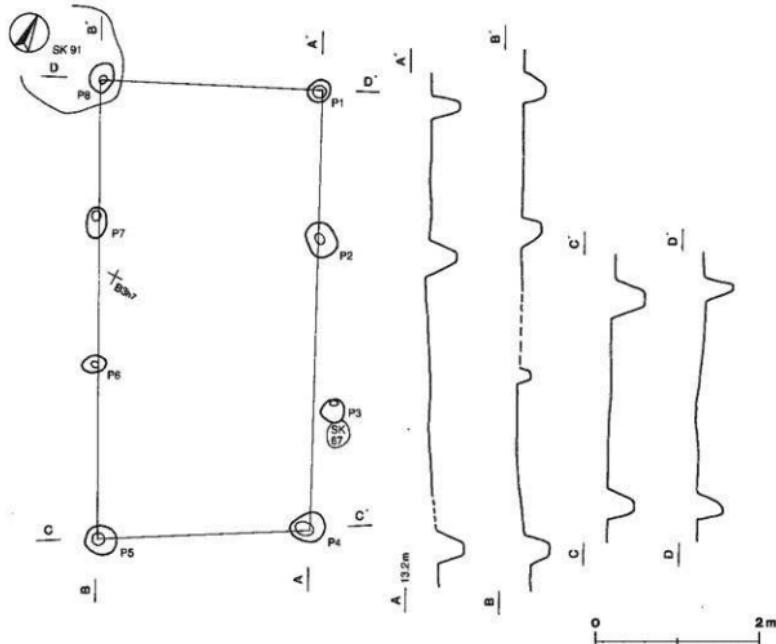
規模と構造 衍行3間、梁間1間の側柱建物で、衍行方向はN-24°-Wの南北棟である。規模は、衍行5.68m、梁間2.62mであり、柱間寸法は衍行が1.57~2.15mほどで、梁間が2.60~2.74mほどである。柱筋と間尺が揃わない。

柱穴 平面形は円形あるいは梢円形で、径は15~46cm、深さは16~39cmである。また、P 1・P 2・P 5・P 6・P 8の底面には硬化面が確認された。

覆土 不明である。

遺物出土状況 出土していない。

所見 柱穴の規模や掘り方の規模と形状、柱筋が不揃いな構造などから堅牢な上部構造を推定することはできないが、両妻側の間尺と中央部の間尺が異なり、梁間は1間の構造と考えられる。出土遺物が無いため時期決定をするのが困難ではあるが、位置や周辺部の状況などから中世以降の掘立柱建物跡と考えられる。



第38図 第2号掘立柱建物跡実測図

第3号掘立柱建物跡（第39図）

位置 調査区南東部のB3h5区を中心とした低位段丘上に立地している。

重複関係 P1が第257号上坑、P2が第261号土坑をそれぞれ掘り込んでいる。

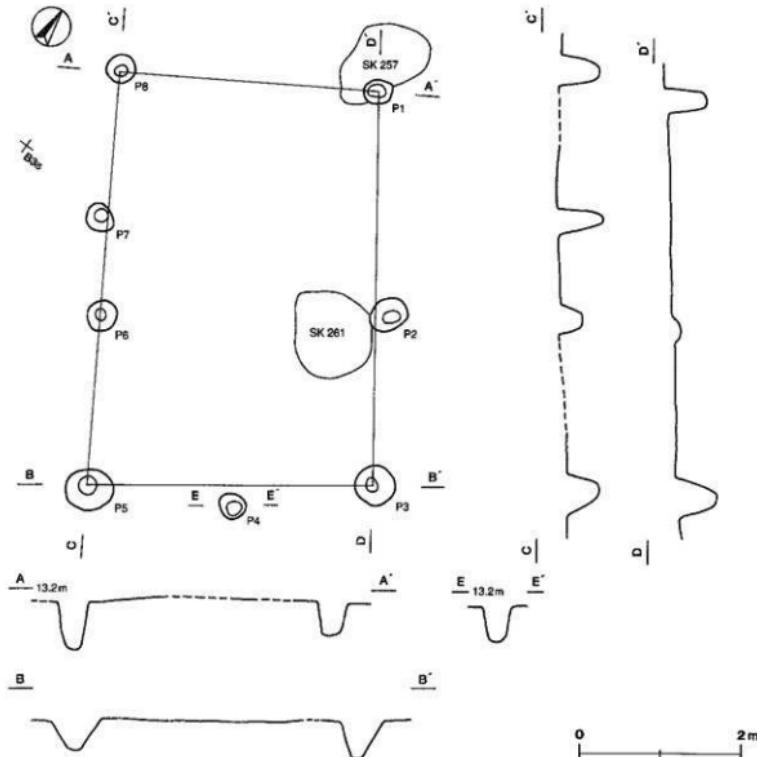
規模と構造 衍行3間、梁間2間の側柱建物で、衍行方向はN-33°-Wの南北棟である。規模は、衍行5.13mほど、梁間3.55mほどである。柱間寸法は衍行が1.23~2.78m、梁間が1.75~1.85mほどであり、東西の柱構造が異なっている。また、東桁は2間、西桁は3間であり、両妻は2間と考えられ、柱筋と間尺が描わない構造である。

柱穴 平面形は円形あるいは梢円形で、径は28~59cm、深さは30~62cmである。

覆土 不明である。

遺物出土状況 出土していない。

所見 柱穴の規模や掘り方の規模と形状や柱筋などが不描きな構造と想定され、堅牢な上部構造を推定することはできず、また、出土遺物が無いため時期決定をするのが困難ではあるが、周辺の状況から中世以降の掘立柱建物跡と考えられる。



第39図 第3号掘立柱建物跡実測図

表5 挖立柱建物跡一覧表

番号	位置	柱行方向	柱周数 (衛×梁)	翼 模 (衛×梁) (m)	柱行柱間 寸法(m)	縦間柱間 寸法(m)	面積 (m ²)	柱 穴			備 考 新旧関係(旧→新)	
								平尚形	長径×短径	深さ		
1	B 3 f3	N -43° - E	4×3	10.80×6.30	側柱	1.80~4.70	1.70~3.90	67.5	円形、扇円形	4~10×3~8	30~78	SK13・19・98・115→本跡 -SK326・17世紀前半
2	B 3 h7	X -24° - W	3×1	5.68×2.62	側柱	1.57~2.15	2.60~2.74	149	月形、扇円形	2~6×15~28	16~39	SK67・91→本跡、中世以降
3	B 3 h5	N -33° - W	3×2	5.13×3.55	側柱	1.23~2.78	1.75~1.85	18.2	円形、扇円形	2~9×3~36	30~62	SK257・261→本跡、中世以降

(2) 井戸跡

第1号井戸跡（第40図）

位置 調査区北部のB 3 e4区に位置し、低位段丘上の平地に立地している。

重複関係 本跡の西側で第144号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 確認面では一辺1.70mほどの隅丸方形で、長軸方向はN - 0°である。確認面からほぼ筒状に掘り込んでおり、1.80mほどまで掘り下げたが、湧水のため底面までは調査することができなかった。

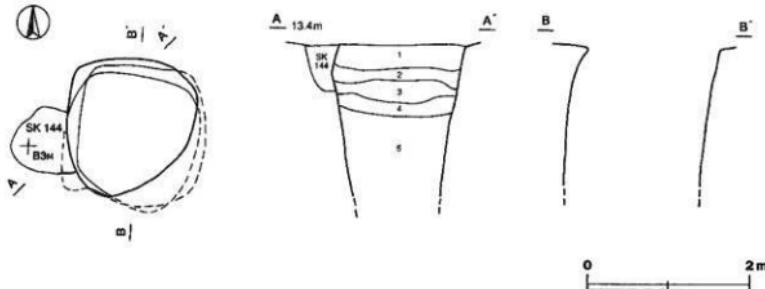
覆土 約90cmの深さの第5層まで確認でき、ロームブロックや粘土ブロックを含む人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック・地上粒子少量、炭化物微量	4 黒褐色	ロームブロック・地上粒子・粘土ブロック少量、炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック少少、燒土粒子、炭化物微量	3 黑褐色	ロームブロック・地上ブロック・粘土ブロック少少、炭化物微量
3 黒褐色	ロームブロック・地上ブロック・粘土ブロック少少、炭化物微量	5 黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック・粘土ブロック少量、炭化物微量

遺物出土状況 土師質土器片1点（小皿）が覆土中から出土しているが細片のため、図示することはできなかつた。

所見 土師質土器が出土していることから時期は中世以降と考えられる。



第40図 第1号井戸跡実測図

第2号井戸跡（第41～43図）

位置 調査区北部のB 3 f4区に位置し、低位段丘上の平地に立地している。

重複関係 本跡の南東側を第78号土坑に、北西側を第110号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

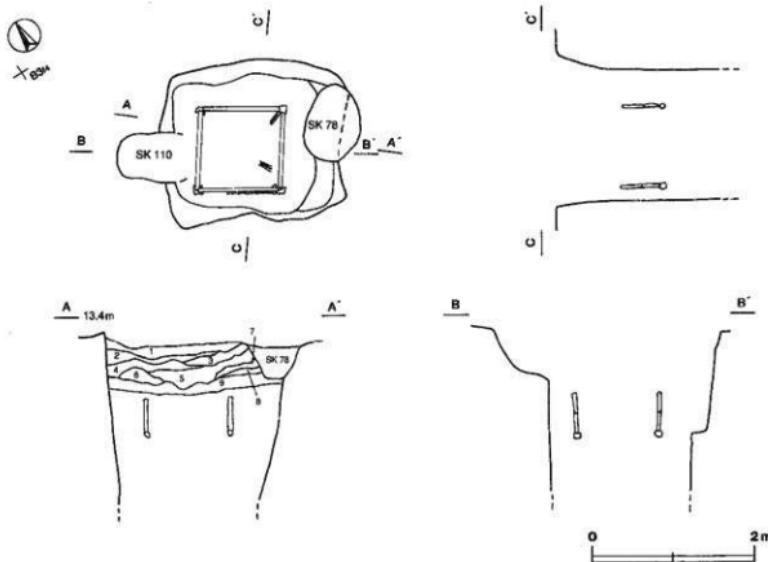
規模と形状 確認面では一辺が2.00mほどの方形で、長軸方向はN - 40° - Eである。ほぼ垂直に掘り込まれており、2.0mほど掘り下げたが、湧水のため底面までは調査することができなかった。

覆土 約60cmの第9層まで確認でき、ロームブロックや粘土ブロックを含む人為堆積である。

土層解説								
1	褐色	ローム粒子・粘土ブロック少量、炭化粒子微量	6	黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量、炭化粒子微量			
2	褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量	7	褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量			
3	褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量、炭化粒子微量	8	褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量			
4	黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量	9	黒褐色	ロームブロック少量、粘土ブロック・炭化粒子微量			

遺物出土状況 井戸枠材16点（枠板8点、柱材4点、横木4点）が出土している。W1～W8は枠材で、W1・W2は北面、W3・W4は東面、W5・W6は南面、W7・W8は西面から横位の状態でそれぞれ出土しており、内面には鋸引きの痕、外面には手斧の加工痕が見られる。W9～W12は井戸枠を支える柱材で、二面に板材を填める溝を切り、下部には横木を通す穴がある。W9は北東、W10は南東、W11は南西、W12は北西から立位で出土している。また、W13～W16は支柱を支える横木で、両端に柄があり、支柱の下部から横位の状態で出土している。

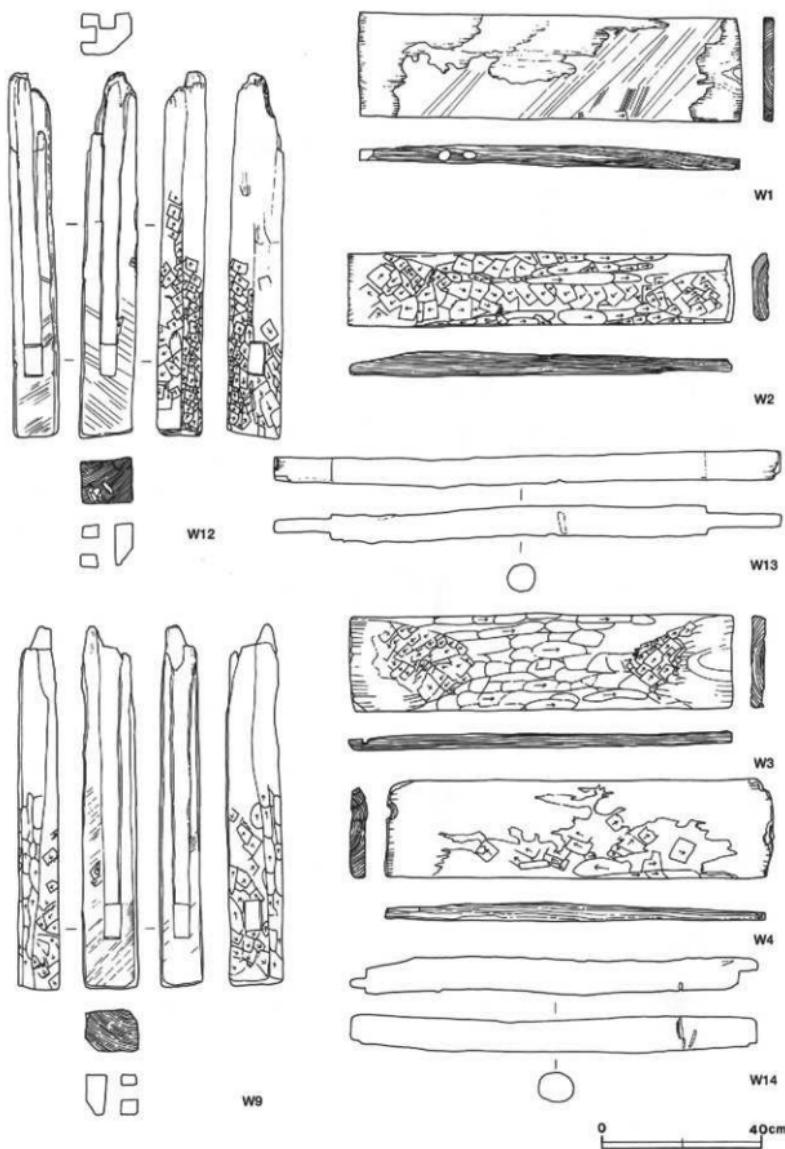
所見 遺物としては井戸枠として組まれた木材だけで、他に時期を判断する遺物は出土していないため時期決定は難しいが、板材の加工痕や柱材の枘穴が丁寧に調整されていることから、時期は中世以降と考えられる。



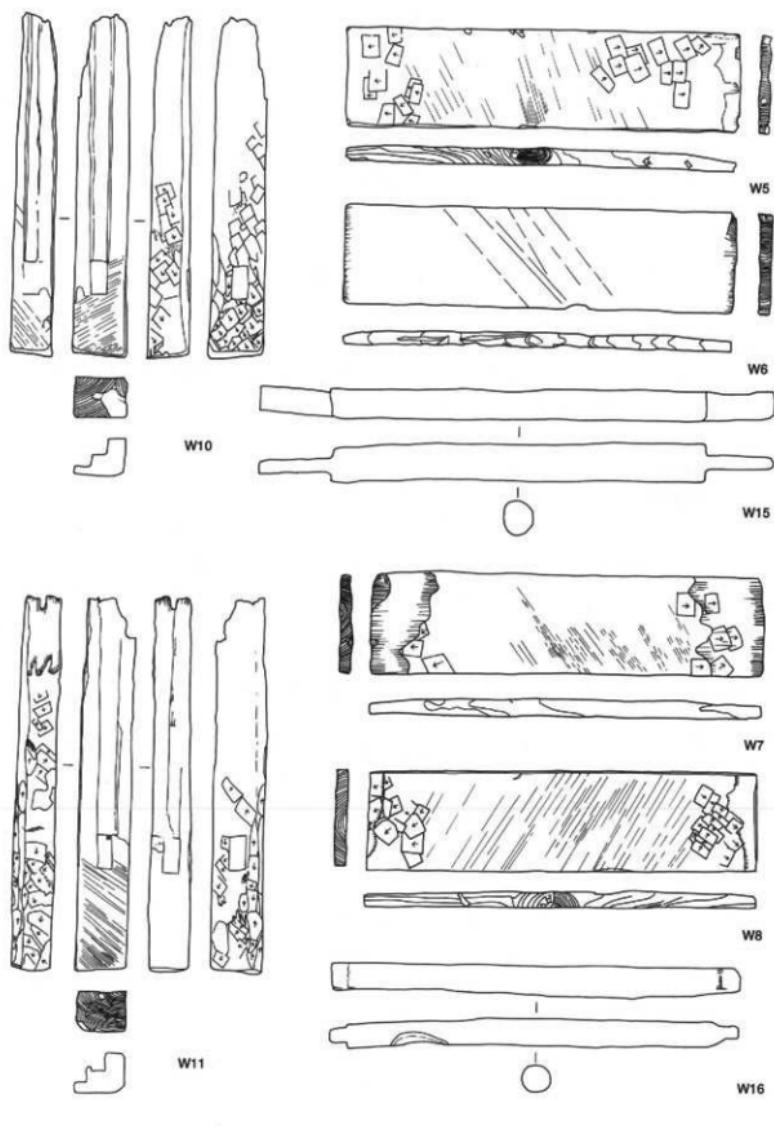
第41図 第2号井戸跡実測図

第2号井戸跡出土遺物観察表(第42・43図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	手法の特徴	出土位置	備考
W1	板材	95.0	25.5	4.8	鋸の引目痕、手斧による調整痕	覆土中層	
W2	板材	95.3	18.0	5.8	表面手斧による調整痕、裏面鋸の引目痕	覆土下層	
W3	板材	95.0	24.2	4.0	表面手斧による調整痕、裏面鋸の引目痕	覆土中層	PL26



第42図 第2号井戸跡出土遺物実測図(1)



第43図 第2号井戸跡出土遺物実測図(2)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	手法の特徴		出土位置	備考
					縫の引目痕、手斧による調整痕	縫の引目痕、手斧による調整痕		
W4	板材	95.6	24.2	4.6	縫の引目痕、手斧による調整痕	縫の引目痕、手斧による調整痕	覆土下層	
W5	板材	97.2	24.5	4.3	縫の引目痕、手斧による調整痕	縫の引目痕、手斧による調整痕	覆土中層	PL26
W6	板材	97.2	25.0	4.2	縫の引目痕、手斧による調整痕	縫の引目痕、手斧による調整痕	覆土下層	
W7	板材	96.8	24.8	4.3	縫の引目痕、手斧による調整痕	縫の引目痕、手斧による調整痕	覆土中層	
W8	板材	96.1	24.5	4.0	縫の引目痕、手斧による調整痕	縫の引目痕、手斧による調整痕	覆土下層	PL26
W9	柱材	89.0	13.9	10.3	縫の引目痕、手斧による調整痕、2面に板材を差し込む溝、下端2面に凹穴	縫の引目痕、手斧による調整痕、2面に板材を差し込む溝、下端2面に凹穴	覆土下層	
W10	柱材	82.8	13.3	10.5	縫の引目痕、手斧による調整痕、2面に板材を差し込む溝、下端2面に凹穴	縫の引目痕、手斧による調整痕、2面に板材を差し込む溝、下端2面に凹穴	覆土下層	
W11	柱材	92.1	13.0	9.6	縫の引目痕、手斧による調整痕、2面に板材を差し込む溝、下端2面に凹穴	縫の引目痕、手斧による調整痕、2面に板材を差し込む溝、下端2面に凹穴	覆土下層	
W12	柱材	89.5	13.0	11.0	縫の引目痕、手斧による調整痕、2面に板材を差し込む溝、下端2面に凹穴	縫の引目痕、手斧による調整痕、2面に板材を差し込む溝、下端2面に凹穴	覆土下層	
W13	柱材	12.5	7.5	7.2	手斧による調整痕、両端に斜	手斧による調整痕、両端に斜	覆土下層	
W14	柱材	102.1	8.6	8.5	手斧による調整痕、両端に斜	手斧による調整痕、両端に斜	覆土下層	
W15	柱材	127.0	9.7	7.6	手斧による調整痕、両端に斜	手斧による調整痕、両端に斜	覆土下層	
W16	柱材	100.9	6.9	7.8	手斧による調整痕、両端に斜	手斧による調整痕、両端に斜	覆土下層	

第3号井戸跡（第44・45図）

位置 調査区北部のB3e3区に位置し、低位段丘上の平地に立地している。

重複関係 本跡の北側を第20・115号土坑に、南側を第99号土坑に、東側を第101号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.35m、短軸1.95mほどの隅丸長方形で、長軸方向はN=0°である。上部は湯斗状で、下部は筒状に掘り込んでいる。1.35mほどまで掘り下げたが、漏水のため底面までは調査することができなかった。

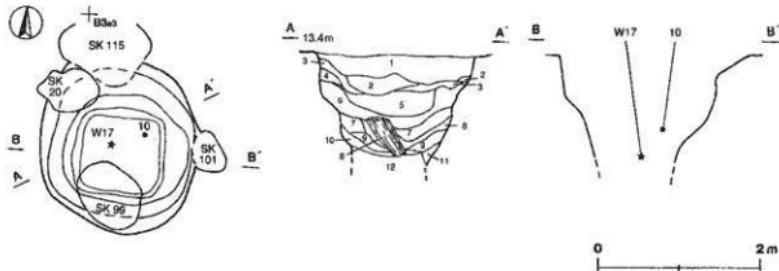
覆土 1.25mの第12層まで確認でき、ロームブロックや粘土ブロックを含む人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・粘土ブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量	6 黒褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量、炭化粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子中量、粘土ブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量	7 黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化物微量
3 黒褐色	粘土ブロック中量、ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量	8 黒褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量、炭化物微量
4 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、粘土ブロック微量	9 黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック・炭化物少量
5 黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子・粘土ブロック微量	10 黒褐色	粘土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量
		11 黒褐色	粘土ブロック・炭化物少量、ロームブロック微量
		12 黒褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック・炭化物少量

遺物出土状況 土師質土器片8点（小皿）、木材1点の他に、流れ込みと考えられる縄文土器片1点、土師器片8点（甕類）、須恵器片3点（壺類）が出土している。10は逆位で出土しており、内面に樹脂が付着している。W17は覆土下層から出土しており、上部に焼け焦げた痕がある。

所見 土師質土器が出土することから時期は中世以降と考えられる。



第44図 第3号井戸跡実測図



第45図 第3号井戸跡出土遺物実測図

第3号井戸跡出土遺物観察表（第45図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴	出土位置	備 考
10	土師質土器	小皿	6.6	2.2	3.2	雲母	にぶい橙	普通	底部回転系切り、底部内・外 面クロナナ、内面樹脂付着	覆土下層	95% PL21

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	手 法 の 特 徴	出土位置	備 考
W17	杭 カ	(56.4)	11.4	11.7	上部に焦げ痕あり	覆土下層	

第4号井戸跡（第46図）

位置 調査区北部のB3el区に位置し、低位段丘上の平地に立地している。

規模と形状 確認面では長径1.88m、短径1.63mほどの楕円形で、長径方向はN-50°-Wである。筒状に掘り込まれており、138cmほどまで掘り下げたが、湧水のため底面までは調査することはできなかった。

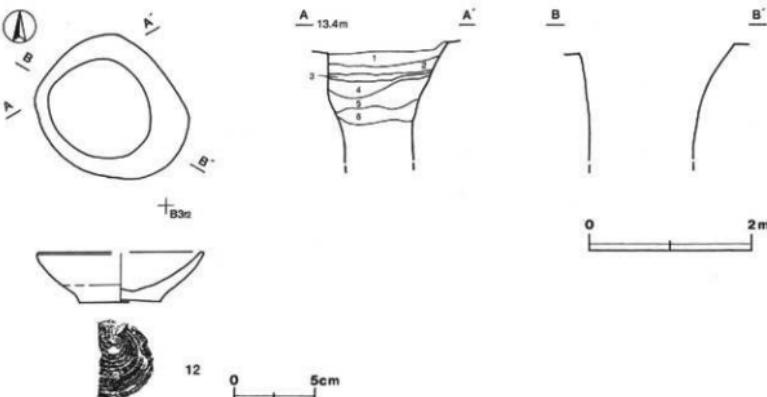
覆土 約90cmの深さの第6層まで確認でき、ロームブロックや粘土ブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------------|-------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、燒土粒子・炭化物微量 | 4 黒褐色 | 粘土ブロック少量、ロームブロック・燒土粒子・炭化物粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・粘土ブロック少量、燒土粒子・炭化物粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化物微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量、燒土粒子・炭化物粒子・粘土ブロック微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物・粘土ブロック微量 |

遺物出土状況 土師質土器1点（小皿）が覆土中から出土している。

所見 土師質土器が出土していることから時期は中世以降と考えられる。



第46図 第4号井戸跡・出土遺物実測図

第4号井戸跡出土遺物観察表（第46図）

番号	機種	管径	管高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
12	土器	小口 [10.0]	3.1	5.0	墨引・雲母・赤色	板	普通	瓦筋面軸糸あり。体部内・外 墨口クロナゲ	裏土中	30%

第5号井戸跡（第47図）

位置 調査区北部のB 3 gl区に位置し、低位段丘上の平地に立地している。

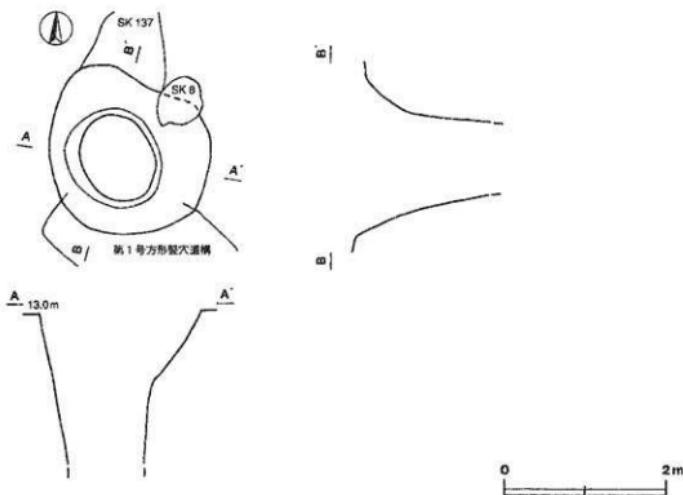
重複関係 本跡の北側で第137号土坑を掘り込み、南側で第1号方形竖穴道構、北東側で第8号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.26m、短径2.00mほどの楕円形で、長軸方向はN-30°-Wである。上部は漏斗状で、下部は筒状である。20mほどまで掘り下げたが、漏水のため底面までは調査することができなかった。

覆土 不明である。

遺物出土状況 土師質土器片1点（小皿）が出土しているが、細片のため図示できなかった。

所見 士師質土器が出土していることから時期は中世以降と考えられる。



第47図 第5号井戸跡実測図

表6 井戸跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面圖	規 模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	時 代	備 考
				長径×短径(m)	深さ						
1	B 3 e4	N-0°	横丸方形	1.70	(180)	垂直	不明	人為	土師質土器	中世以降	SK144→本跡
2	B 3 f4	N-40°-E	方形	2.00	(200)	垂直	不明	人為	木製品	中世以降	本跡→SK78・110
3	B 3 e3	N-0°	横丸長方形	2.35×1.95	(135)	傾・縦	不明	人為	土師質土器、土印器、 須恵器	中世以降	本跡→SK20・99・101・115
4	B 3 e1	N-50°-W	楕円形	1.88×1.63	(138)	垂直	不明	人為	土師質土器	中世以降	
5	B 3 g1	N-30°-W	楕円形	2.26×2.00	(200)	傾・縦	不明	人為	土師質土器	中世以降	SK137→本跡→SK 8・ 第1号方形竖穴道構

(3) 溝跡

第1号溝跡（第48・49図・付図）

位置 調査区東側のB 4 b3～B 4 c5区に位置している。

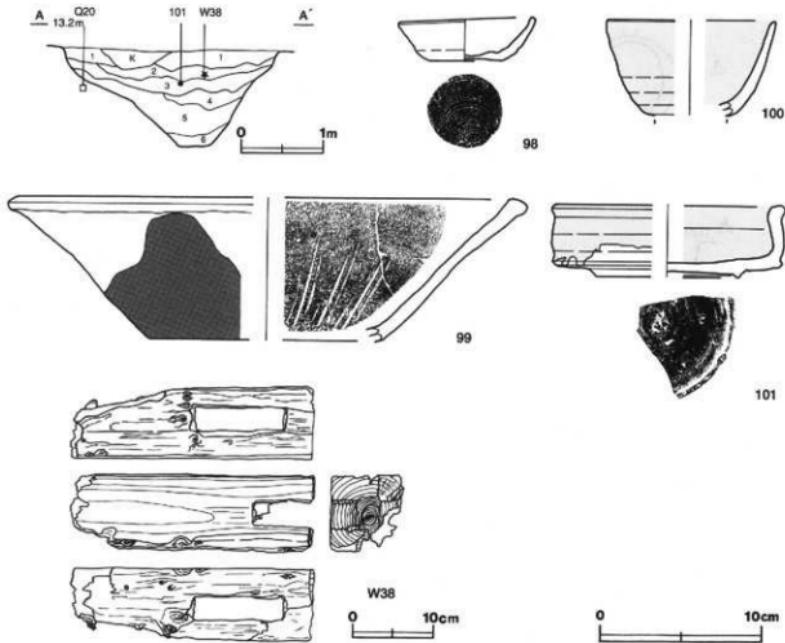
規模と形状 本跡（N-60°-W）の北西側と南東側は調査区域外へ延びており、全体を把握することはできなかったが、長さ13.6mほどが確認された。上幅2.64m～2.84m、下幅0.32m～0.52m、深さ1.18mほどで、壁は外傾して立ち上がっており、断面形はV字状を呈する薬研状で、底面は平坦である。

覆土 6層からなる。ロームブロックや粘土ブロックを含むが、レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

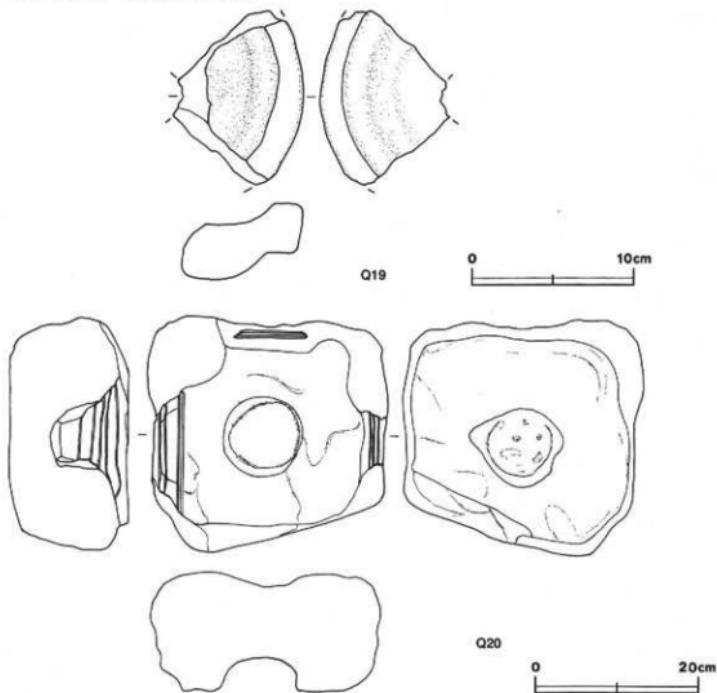
1 黒	褐	色	粘土ブロック少量、埴上ブロック・炭化物微量	4 黑	色	粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化物微量
2 黑	褐	色	炭化物・粘土ブロック少量	5 黑	色	粘土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量
3 黑	色	ロームブロック・埴土ブロック・炭化物・粘土ブロック微量		6 黑	色	粘土ブロック少量、砂粒微量

遺物出土状況 土師質土器片35点（小皿5、土鍋類27、擂鉢3）、陶器片5点（皿類3、碗類1、香炉1）、石製品2点（宝鏡印塔、砥石）、木片11点が出土している。98は小皿、99は土師質擂鉢、100は瀬戸・美濃系の天目茶碗で、それぞれ覆土中から出土している。99の体部外面には煤が付着しており、擂鉢本来の機能の他に煮炊具にも利用されていたと考えられる。101は瀬戸・美濃系の袴腰香炉で、覆土中層から出土し、Q19は覆土中、Q20は覆土中層から出土している。



第48図 第1号溝跡・出土遺物実測図

所見 出土土器から、17世紀後半には溝としての機能が失われたと考えられるが、全体を確認することはできなかったことから、性格は不明である。



第49図 第1号溝跡出土遺物実測図

第1号溝跡出土遺物観察表（第48・49図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴	出土位置	備 考
98	土質灰土器	小瓶	8.2	2.7	4.4	雲母・赤色粒子	黒褐	普通	底部回転系切り。体部内・外 面口クロナフ	覆土中	95% PL20
99	土質灰土器	湯鉢	[30.4]	8.8	[14.4]	石英・雲母	灰黄褐	普通	口縁部端部水平。3条1単位 の壙り口。体部側面焼付着	覆土中	35%
100	陶器	天目瓶	[10.4]	(5.9)	—	砂粒	にぶい赤褐	良好	内・外面鉄輪	覆土中	26% 赤土・青磁系
101	陶器	香炉	[14.2]	4.4	[9.0]	長石・砂粒	褐灰／黒褐	良好	削り出し高台。口辺部内面か ら体部外面延焼	覆土中崩	30% PI23 薄口・青磁系

番号	器種	長さ	幅	厚さ	手 法 の 特 徴	出土位置	備 考
W38	柱材カ	(30.0)	(9.4)	(9.1)	納穴2か所	覆土中崩	

番号	器種	径	高さ	重 量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q19	石臼	[17.2]	(4.8)	(287.2)	安山岩	丁寧な研磨	覆土中	茶白カ

番号	器種	幅	奥行	厚さ	重 量	材 質	特 復	出土位置	備 考
Q20	宝鏡印塔	29.3	29.9	14.8	18,300	花崗岩	隔壁りの痕跡	覆土中崩	PL26

第2号溝跡（第50～60図）

位置 調査区西側のB 2d9区～C 3b3区に位置している。

規模と形状 本跡（N=30°～E）の北側と南側は調査区域外へ延びているため、全体を把握することができなかつたが、長さ32.0mほどが確認された。上幅2.60m～4.76m、下幅0.22～1.24m、深さ0.56～1.64mほどで、壁は緩やかに外傾して立ち上がっており、断面形はほとんど逆台形であるが一部直立を呈している。

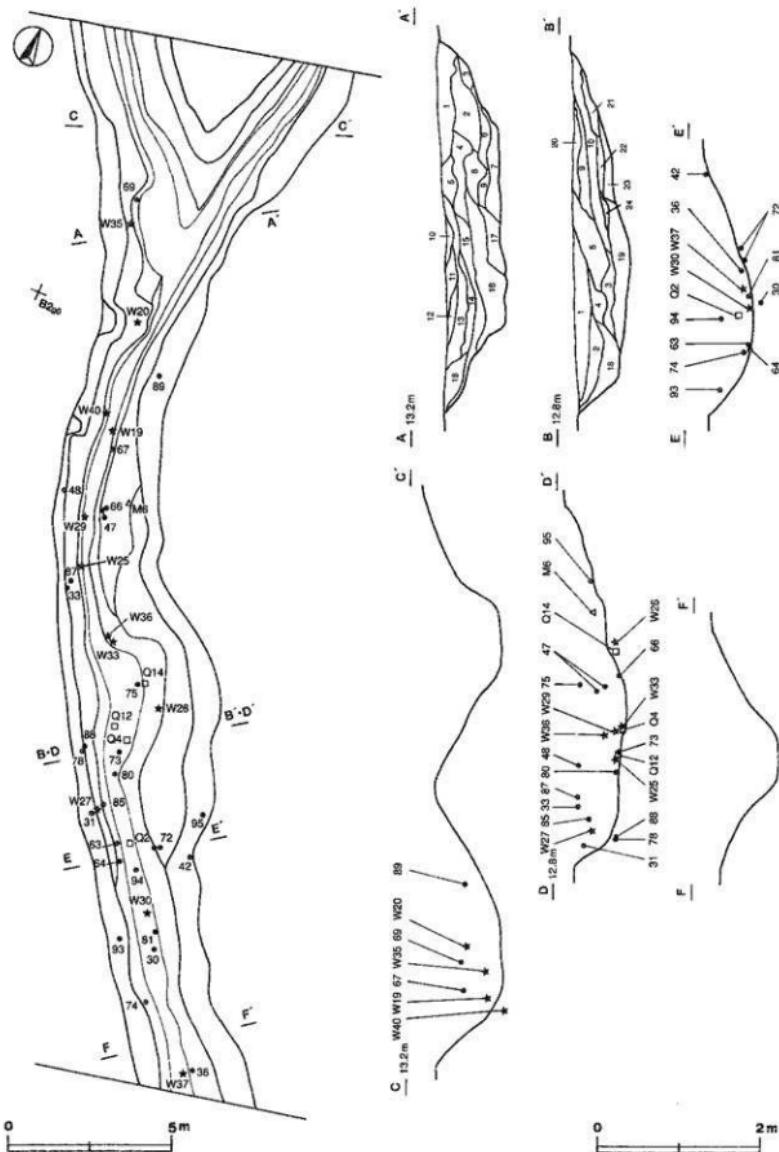
覆土 24層からなる。ロームブロックや粘土ブロックを含み、ブロック状の堆積状況を示しているが、明確に分割されることから、段階的に堆積した自然堆積である。

土層解説

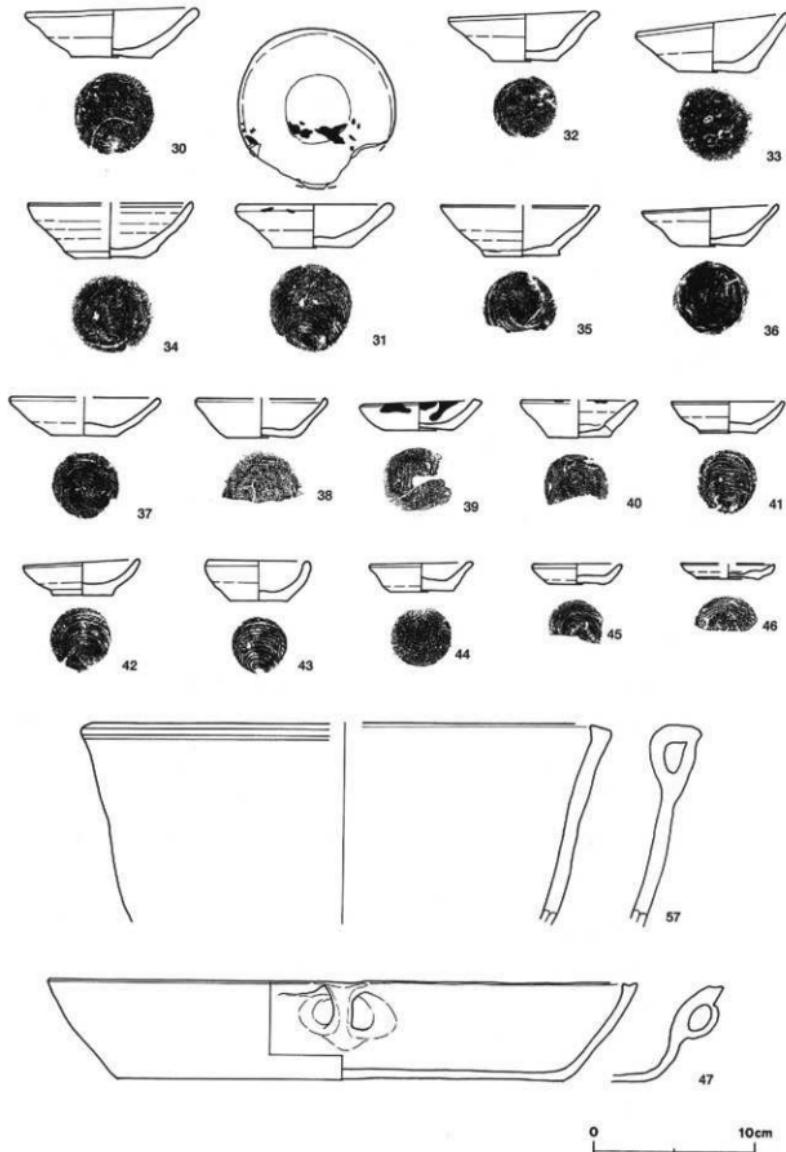
1 黒褐色	ローム粒子少量、粘土粒子・炭化物・粘土ブロック微量	14 黒褐色	ローム粒子・砂粒少量、炭化物微量
2 黒褐色	砂粒中量、ローム粒子少量、炭化粒子・粘土ブロック微量	15 黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量、粘土粒子・
3 黒褐色	粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量		炭化粒子微量
4 黒褐色	ローム粒子・炭化物・粘土ブロック微量	16 黒褐色	ロームブロック少量、粘土粒子・炭化物・粘土ブロック微量
5 黒褐色	ローム粒子・炭化物・粘土ブロック微量	17 黒褐色	ロームブロック・砂粒少量、焼土粒子・炭化物・粘土ブロック微量
6 黒褐色	ローム粒子・粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化物微量		粘土ブロック微量
7 黑褐色	粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化物微量	18 黒褐色	砂粒少量、ローム粒子・炭化粒子微量
8 黑褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化物微量	19 黒褐色	ローム粒子・粘土ブロック少量、炭化粒子微量
9 黑褐色	ローム粒子少量、炭化物・粘土ブロック微量	20 黑褐色	ローム粒子・粘土ブロック微量、炭化物微量
10 黑褐色	ロームブロック・炭化物・粘土ブロック微量	21 黑褐色	ローム粒子・粘土ブロック少量、炭化粒子・砂粒微量
11 黑褐色	粘土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子・砂粒微量	22 黑褐色	ローム粒子・炭化粒子・粘土ブロック・砂粒微量
12 黑褐色	ロームブロック・炭化粒子・粘土ブロック・砂粒微量	23 黑褐色	砂粒少量、ローム粒子・炭化物・粘土ブロック微量
13 黑褐色	砂粒少量、ロームブロック・炭化物・粘土ブロック微量	24 黑褐色	ローム粒子・砂粒少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片1008点（小皿56、擂鉢36点、土鍋類915）、瓦質土器片46点（碗13、火鉢32、壺1）、陶器片76点（皿類17、碗類21、羹類32、擂鉢5、大鉢1）、磁器片34点（皿類5、碗類19、葱利4、香炉3、花瓶2、壺1）、石製品112（臼臼6、砥石34、礫59、碎石13）、金属製品6点（煙管3、小柄2、不明1）、木製品82点（漆器類18、下駄10、桶材12、柱材3、杭17、不明加工品22）、粘土塊12点、種子2点、炭化材2点の他に、混入したと考えられる純文土器片8点、弥生土器片3点、土師器片159点、須恵器片41点が出土している。土師質土器類は溝全体から出土しているが、主に覆土上層から中層での出土数が多い。62～66は漸戸・美濃系の擂鉢の口辺部から体部の破片である。71～73、79は瀬戸・美濃系天日茶碗で、72の底部内面には擦痕がある。85・86・88は肥前系の磁器であり、89は肥前系の陶器である。ほとんどの陶磁器類は残存率が低く、投棄されたと考えられ。出土位置は覆土下層から底面での出土数が多い。W25～W28は下駄で、主に溝中央部の覆土下層から出土している。W27の両面や歯には焦げて炭化した部分が認められ、W28は歯が欠損している。W35は北寄りの、W36は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。W35は柱材で2面に納穴があり、W36は七角形に面取りされ、上端には切り込みと納穴があることから柱材と考えられる。W40は北寄りの覆土下層から出土し、下端部に4面の加工痕があり、杭と思われる。

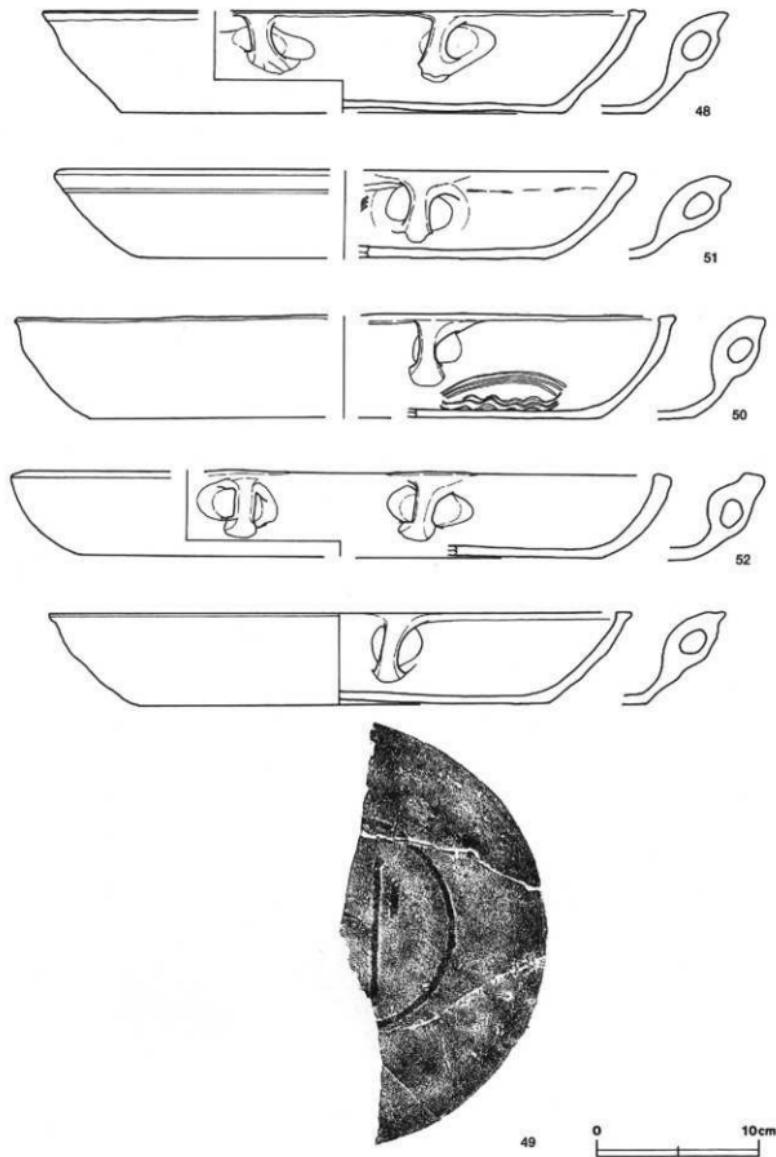
所見 当遺跡から出土した土師質土器片（土鍋類）の大半は本跡から出土している。器高は4.6cmから9.0cmほどまでと差が認められるものの、形状からして大部分は16世紀後葉～17世紀初頭に比定される在地産のものである。また、溝の機能を保ちながらも段階的に埋没した状況が土層断面から読みとれ、遺物も覆土上層から下層まで同じように出土しており、陶磁器類も下層からは16世紀後半以降、上層からは17世紀後半までのものが出土するという様相を示している。これらのことから17世紀後半まで溝としての機能を有していたものと思われる。



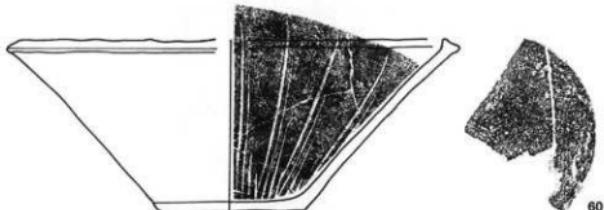
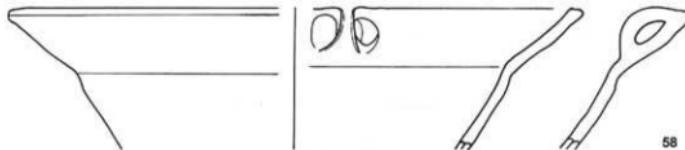
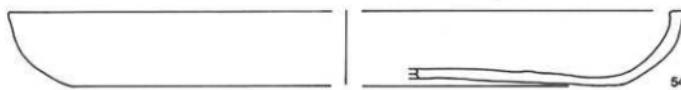
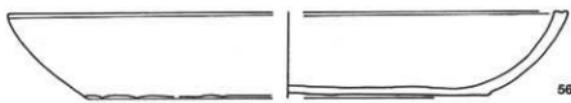
第50図 第2号溝跡実測図



第51図 第2号溝跡出土遺物実測図(1)

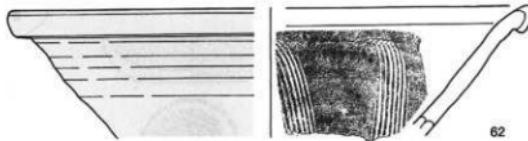
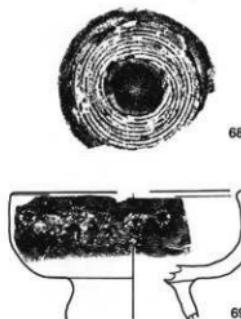
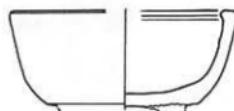
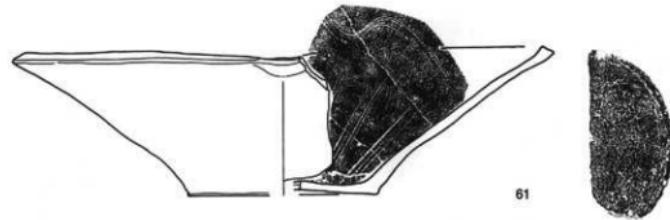


第52図 第2号溝跡出土遺物実測図(2)

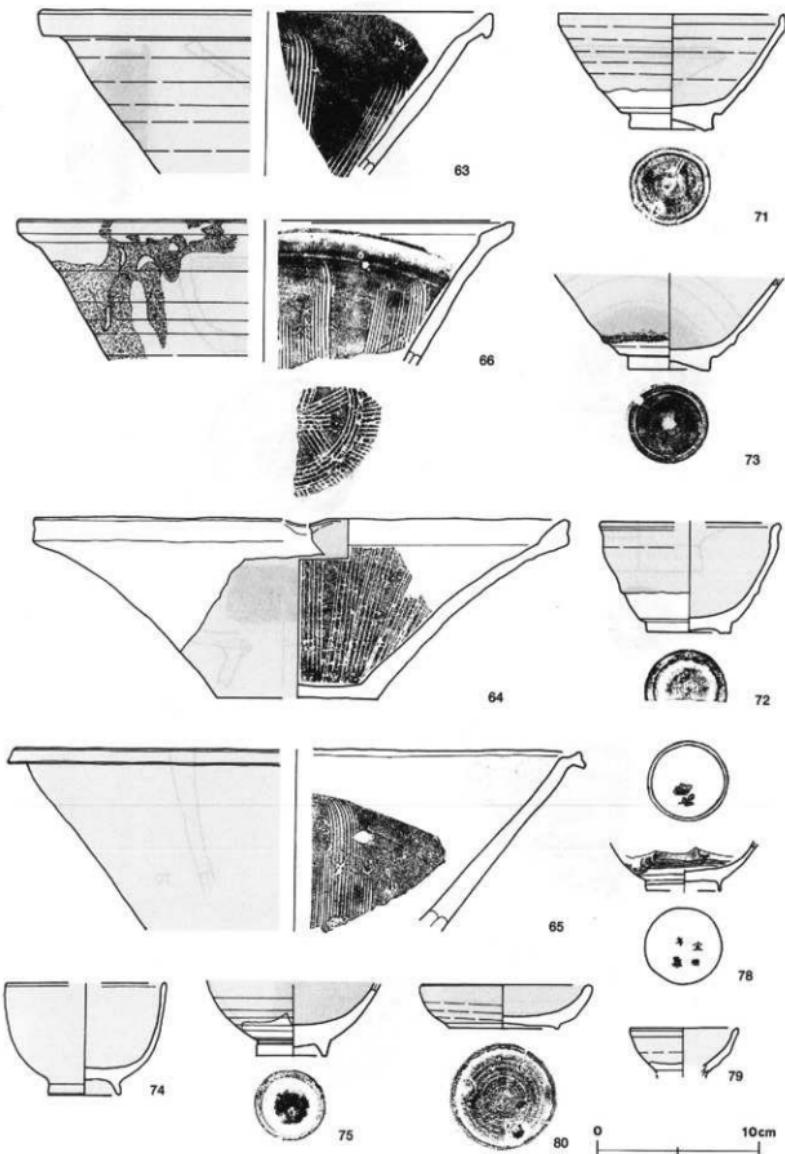


0 10cm

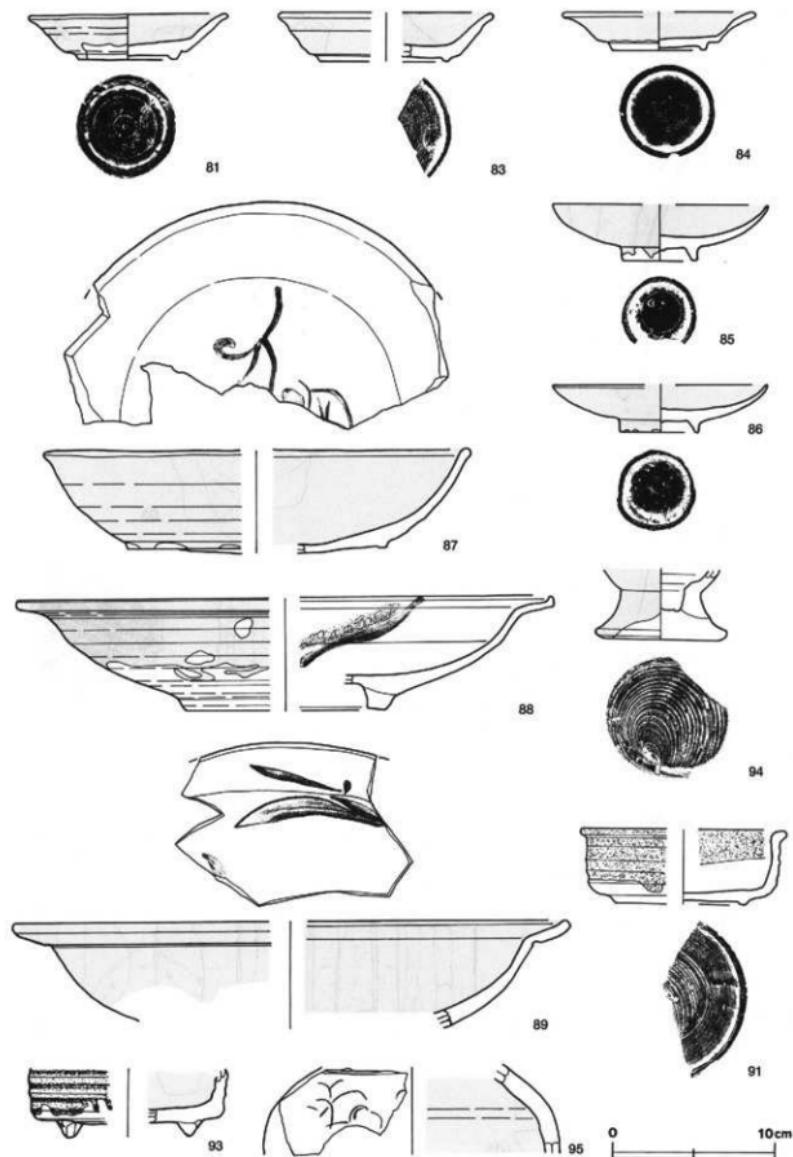
第53図 第2号溝跡出土遺物実測図(3)



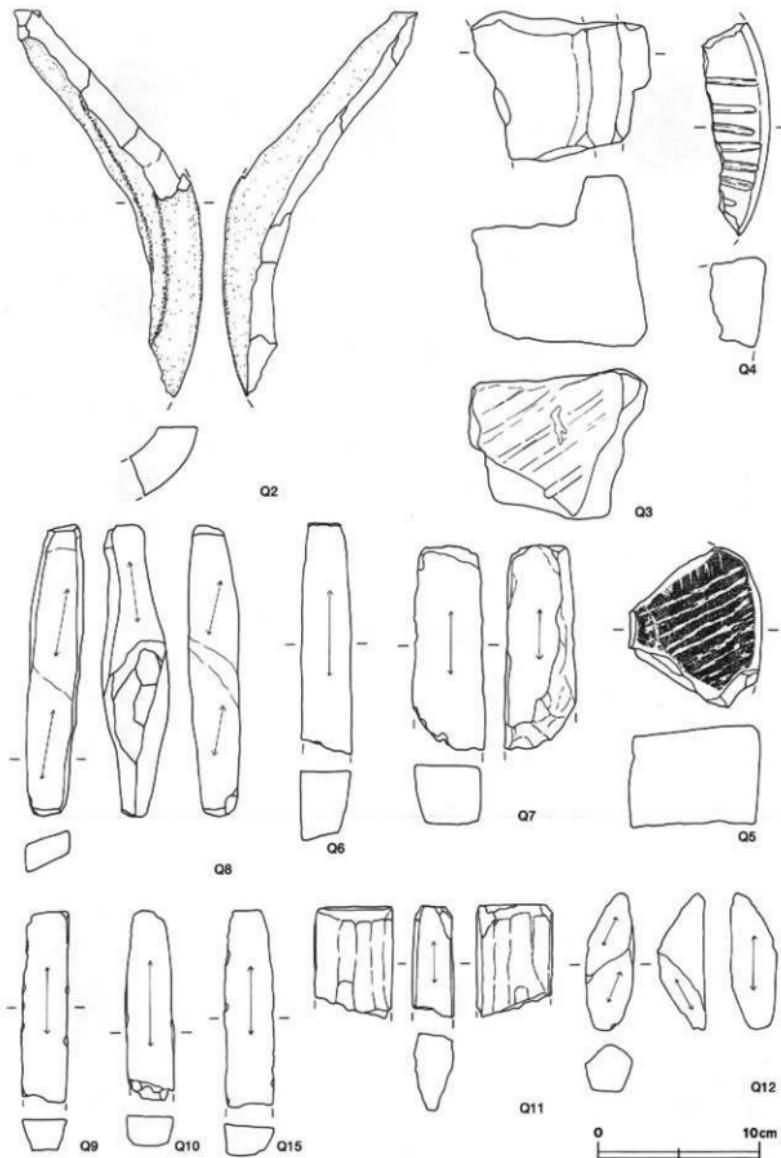
第54図 第2号溝跡出土遺物実測図(4)



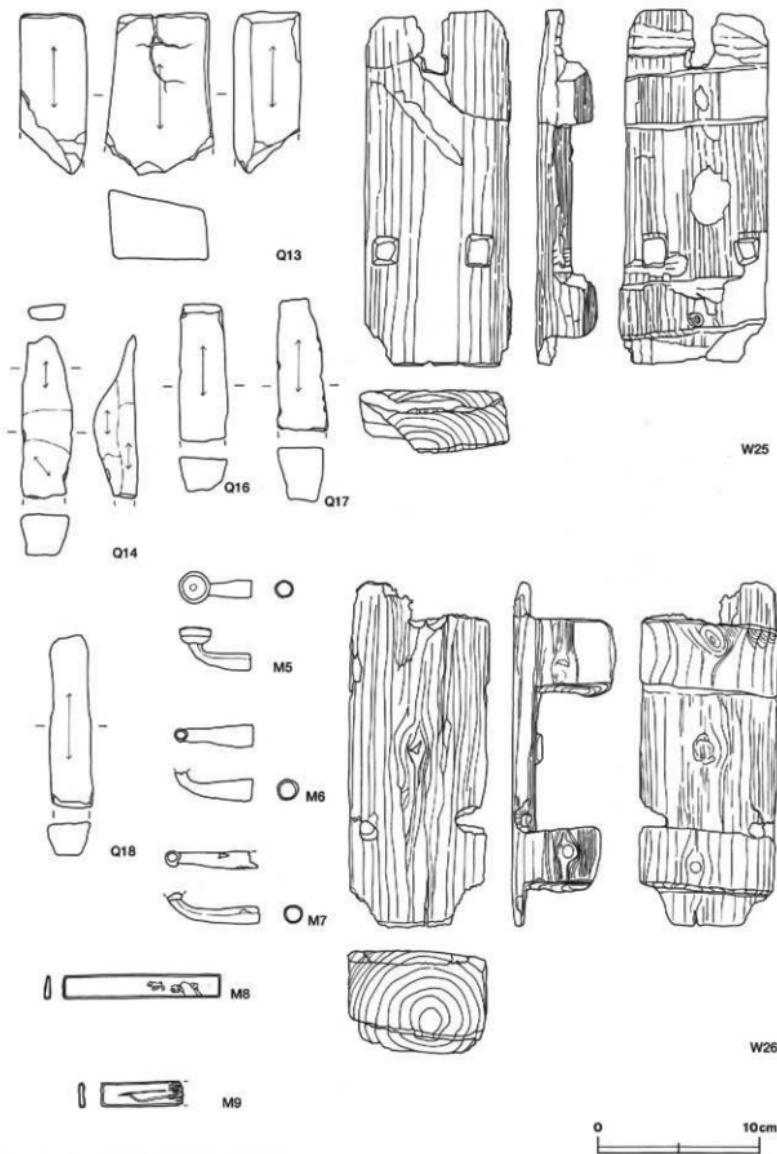
第55図 第2号溝跡出土遺物実測図(5)



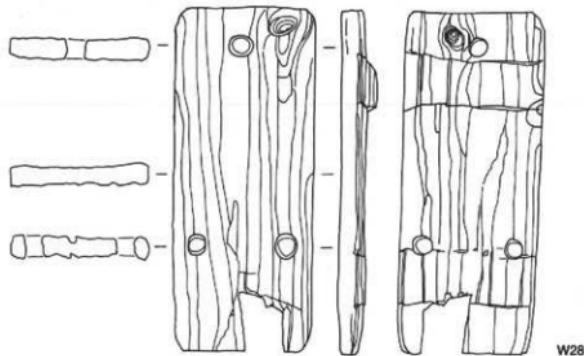
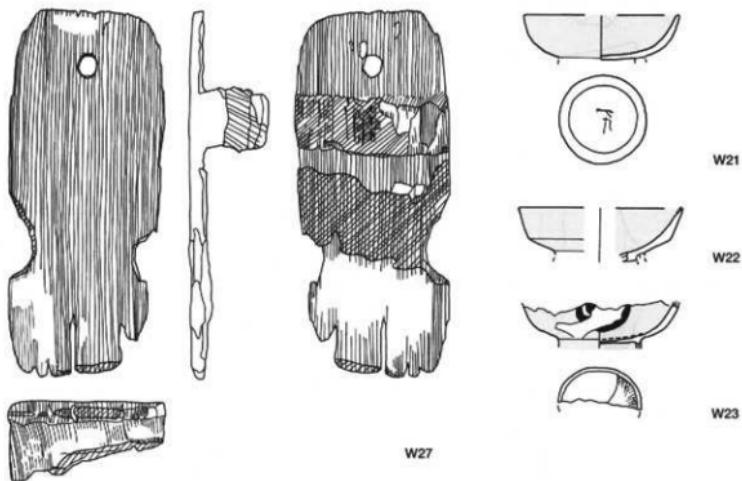
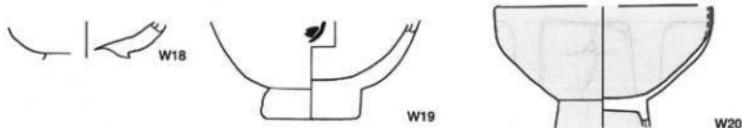
第56図 第2号溝跡出土遺物実測図(6)



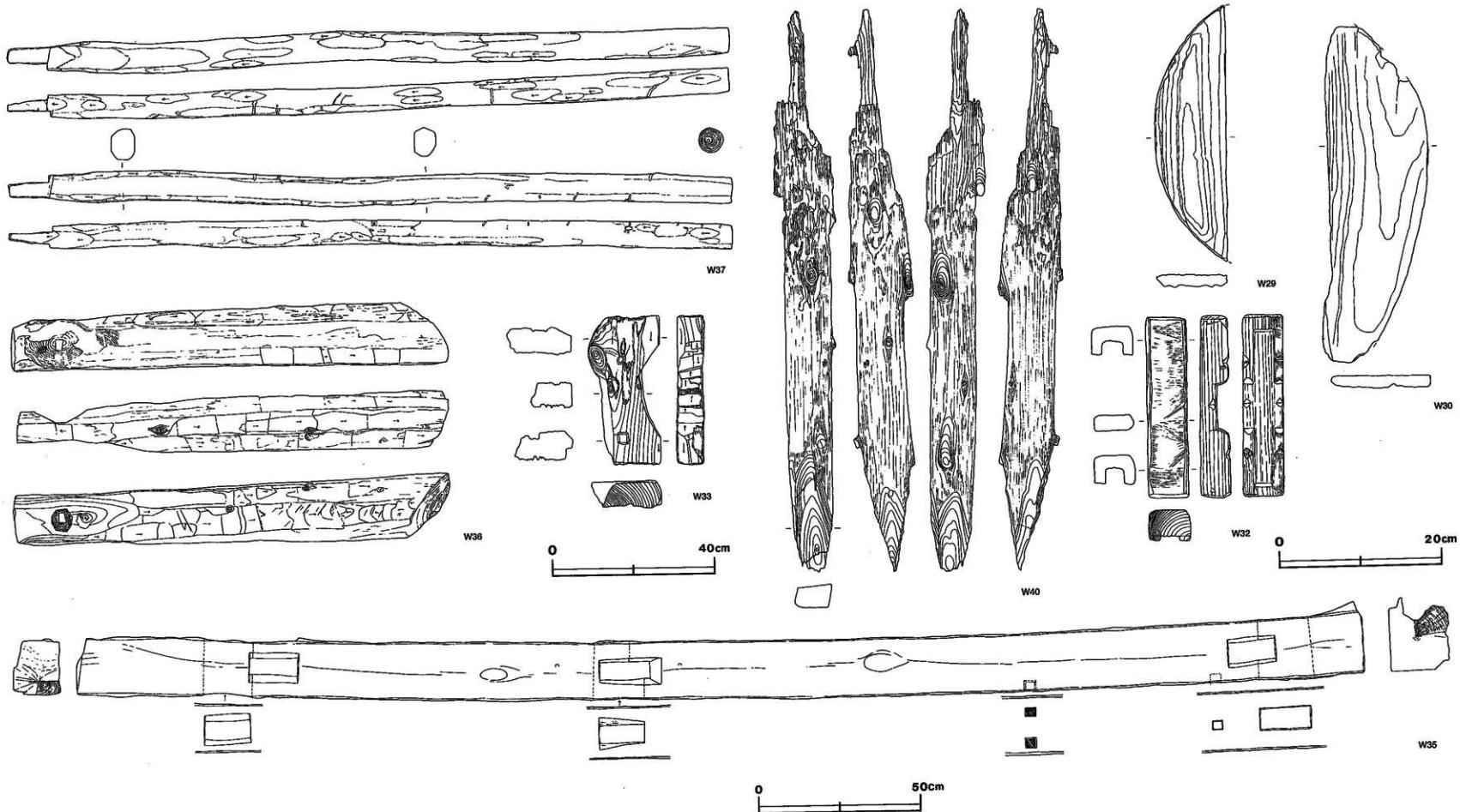
第57図 第2号溝跡出土遺物実測図(7)



第58図 第2号溝跡出土遺物実測図(8)



第59図 第2号溝跡出土遺物実測図(9)



第60図 第2号溝跡出土遺物実測図00

第2号溝跡出土遺物観察表(第51~60回)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
30	土師質土器	小皿	10.3	3.2	5.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい焼	普通	底部回転系切り。体部内・外露口クロナデ	覆土上層	95% PL20
31	土師質土器	小皿	9.3	2.7	3.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい焼	普通	底部回転系切り。口縁部・底部内面削り付	覆土上層	85% PL20
32	土師質土器	小皿	8.8	3.1	4.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい焼	普通	底部回転系切り。底部内・外露口クロナデ	覆土中	90% PL20
33	土師質土器	小皿	9.3	3.7	4.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	根	普通	底部回転系切り。体部内・外露口クロナデ	覆土中層	80%
34	土師質土器	小皿	[10.0]	3.4	4.4	石英・雲母	にぶい焼	普通	底部回転系切り。体部内・外露口クロナデ	覆土中	70%
35	土師質土器	小皿	[9.7]	3.1	4.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	根	普通	底部回転系切り。下方の折ナデ。体部内・外露口クロナデ	覆土中	55%
36	土師質土器	小皿	8.4	2.6	4.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい焼	普通	底部回転系切り。体部内・外露口クロナデ	覆土中層	65%
37	土師質土器	小皿	[9.1]	2.4	3.9	長石・雲母・赤色粒子	にぶい焼	普通	底部回転系切り。体部内・外露口クロナデ	覆土中	40%
38	土師質土器	小皿	[8.0]	2.4	4.4	長石・雲母・赤色粒子	明赤褐色	普通	底部回転系切り。体部内・外露口クロナデ	覆土中	40%
39	土師質土器	小皿	6.7	1.9	4.1	雲母・赤色	にぶい焼	普通	底部回転系切り後ナデ。底部内・外露口クロナデ	覆土中	50%
40	土師質土器	小皿	[7.1]	2.4	3.8	長石・雲母・赤色粒子	にぶい青焼	普通	底部回転系切り。体部内・外露口クロナデ	覆土中	60%
41	土師質土器	小皿	7.0	1.9	3.6	雲母・赤色粒子	灰黄褐色	普通	底部回転系切り。体部内・外露口クロナデ	覆土中	70%
42	土師質土器	小皿	6.9	2.2	3.7	長石・雲母	にぶい焼	普通	底部回転系切り。体部内・外露口クロナデ	覆土下層	100% PL20
43	土師質土器	小皿	6.3	2.5	3.5	長石・雲母・赤色粒子	黃褐	普通	底部回転系切り。体部内・外露口クロナデ	覆土中	95% PL20
44	土師質土器	小皿	6.1	1.8	3.9	長石・雲母	黒	普通	底部回転系切り。体部内・外露口クロナデ	覆土中	65%
45	土師質土器	小皿	5.3	1.3	3.5	長石・雲母・赤色粒子	根	普通	底部回転系切り。体部内・外露口クロナデ	覆土中	60%
46	土師質土器	小皿	[5.8]	0.9	3.8	雲母・白色粒子	明赤褐色	普通	底部回転系切り。体部内・外露口クロナデ	覆土中	40%
47	土師質土器	内耳鍋	[30.4]	[12.6]	-	石英・雲母	褐灰	普通	内耳1・内面から口縁部外面削り	覆土中	10%
48	土師質土器	土鍋類	36.4	6.2	27.7	長石・雲母	本輪	普通	体部外側斜削り	覆土下層	70%
49	土師質土器	土鍋類	[37.2]	6.3	[27.4]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい焼	普通	内耳2・内面から口縁部外面削りナデ。体部外側斜削り	覆土下層	40% 焼焰力
50	土師質土器	土鍋類	[35.8]	5.8	25.0	雲母・赤色粒子	灰褐色	普通	内耳2・内面から口縁部外面削りナデ。体部外側斜削り	覆土中	40% 焼焰力
51	土師質土器	土鍋類	[40.8]	6.1	[31.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい焼	普通	内耳2・内面から口縁部外面削りナデ。体部外側斜削り	覆土中	25% PL24 焼焰力
52	土師質土器	土鍋類	[38.6]	5.3	[25.0]	雲母	にぶい赤褐色	普通	内耳2・内面から口縁部外面削りナデ。体部外側斜削り	覆土中	25% 焼焰力
53	土師質土器	土鍋類	[34.3]	6.7	[27.6]	長石・雲母・赤色粒子	黒	普通	内耳2・内面から口縁部外面削りナデ。体部外側斜削り	覆土中	40% 焼焰力
54	土師質土器	土鍋類	[41.8]	4.5	[33.7]	石英・雲母・輝	黑褐色	普通	内耳2・内面から口縁部外面削りナデ。体部外側斜削り	覆土中	30% 焼焰力
55	土師質土器	土鍋類	[36.3]	6.6	[27.1]	長石・雲母	にぶい焼	普通	内耳2・内面から口縁部外面削りナデ。体部外側斜削り	覆土中	30% 焼焰力
56	土師質土器	土鍋類	34.6	3.3	[25.0]	長石・雲母	にぶい焼	普通	内耳2・内面から口縁部外面削りナデ。体部外側斜削り	覆土中	20% 烧焰力
57	土師質土器	土鍋類	[35.6]	5.3	[25.0]	雲母	にぶい赤褐色	普通	内耳2・内面から口縁部外面削りナデ。体部外側斜削り	覆土中	20% 烧焰力
58	土師質土器	土鍋類	[35.6]	4.8	[25.0]	雲母・赤色粒子	黒褐色	普通	内耳2・内面から口縁部外面削りナデ。体部外側斜削り	覆土中	10% 烧焰力
59	土師質土器	土鍋類	[34.2]	5.6	[25.6]	雲母・赤色粒子	黒褐色	普通	内耳2・口縁部削り付。丁状の凹み。体部外側斜削り	覆土上層	5% PL23 烧焰力
60	土師質土器	擂鉢	26.4	10.6	9.0	石英・雲母・赤色粒子	にぶい焼	普通	内耳2・外側斜削り	覆土中	25% PL22
61	土師質土器	擂鉢	[32.0]	8.9	[11.8]	雲母・赤色粒子	にぶい焼	普通	内耳2・口縁部削り付。丁字型の凹み。内面から口縁部外側斜削り	覆土上層	20% PL22
62	瓦質土器	碗	13.2	6.0	8.0	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	高台貼り付け付後ナデ。底面内側削り付	覆土下層	70% PL23
63	瓦質土器	碗	[13.7]	(6.0)	-	長石・雲母	褐灰	普通	高台貼り付け後ナデ。底面内側削り付	覆土中	60%
64	瓦質土器	碗	[14.7]	(8.0)	-	長石・雲母	褐灰	普通	高台貼り付け後ナデ。底面内側削り付	覆土上層	20%
65	瓦質土器	火鉢	[31.7]	(9.4)	-	鐵	白灰	普通	高台貼り付け後ナデ。底面内側削り付	覆土中	5%
66	陶器	擂鉢	[32.0]	(8.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	良好	9条1単位の摺り目。鉄輪	覆土中	10% PL24
67	陶器	擂鉢	[27.6]	(10.0)	-	石英	赤褐色	良好	摺り目。鉄輪	底面	10% PL24
68	陶器	擂鉢	[33.1]	11.1	[9.8]	石英・輝	にぶい赤褐色	良好	摺り目。鉄輪	底面	10% PL23
69	瓦質土器	擂鉢	[34.1]	11.1	[9.8]	石英・雲母	にぶい焼	良好	摺り目。鉄輪	底面	10% PL23
70	瓦質土器	火鉢	[31.7]	(9.4)	-	鐵	白灰	普通	摺り目。鉄輪	底面	10% PL24
71	陶器	擂鉢	[32.0]	(8.0)	-	石英	暗赤褐色	良好	摺り目。鉄輪	底面	10% PL24
72	陶器	天日蒸器	[10.8]	6.8	5.0	砂糖	無釉・灰青釉	良好	摺り出し窓。内面。外側内側削り	覆土上層	20% PL22
73	陶器	天日蒸器	-	(5.7)	5.1	砂糖	暗褐色・灰青釉	良好	摺り出し窓。内面。外側内側削り	底面	10% PL22
74	陶器	無釉舟	[9.5]	6.9	4.4	砂糖	にぶい灰青	良好	摺り付。内側削り	覆土中層	45% PL22

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
75	陶器	碗	-	(4.4)	4.4	砂粒	緑灰・灰白	良好	削り出し高台、内面透明釉、外面織物紋	覆土下層	40% PL21 窓口・美濃系
78	陶器	碗	-	(3.1)	[4.6]	砂粒	灰白	良好	削り出し高台、内部に草文、表面に削られた文脈、透明釉	底面	40% 美濃系 PL21
79	陶器	天竺罐	6.6	(2.8)	-	砂粒	にぼり赤褐	良好	口部部短く外反、鉄錆	覆土下層	60% PL21 窓口・美濃系
80	陶器	小皿	10.2	2.7	6.8	砂粒	灰白	良好	削り出し高台、底部内・外面にビンズ紋3か所、透明釉、貫入	底面	50% PL21 窓口・美濃系 PL21
81	陶器	丸皿	12.0	2.8	6.0	砂粒	にぼり青白	良好	削り出し高台、灰釉	底面	65% PL21 窓口・美濃系
83	陶器	小鉢	[12.8]	3.0	[7.9]	砂粒	オーリーブ黄	良好	削り出し高台、底部外側・見込みにビンズ紋、外側灰釉	覆土上層	20% 美濃系
84	陶器	丸皿	[11.8]	2.4	5.8	砂粒	灰黄	良好	削り出し高台、底部外側・見込みにビンズ紋、外側灰釉	覆土下層	40% 美濃系 窓口・美濃系
85	青磁	小皿	[13.4]	3.5	4.6	砂粒	明緑灰	良好	見込み部重ね模、輪禿、豊作付	覆土中層	40% PL21 肥前系
86	青磁	小皿	[13.2]	3.0	4.9	砂粒	明緑灰	良好	見込み部重ね模、輪禿、蓋付付	覆土上中	50% PL21 肥前系
87	磁器	人皿	[26.0]	6.4	[15.8]	長石・砂粒	灰白	良好	内面に草文、細かい貫入	覆土中層	30% PL21 窓口・美濃系
88	磁器	人皿	[32.6]	6.9	[12.4]	砂粒	灰黒・灰白	良好	内面に殊常構造後縫割れ流し、底石を多く含む	底面	5% PL21 肥前系
89	陶器	大鉢	[34.2]	(6.6)	-	砂粒	灰白・赤褐	良好	内面に落葉紋で植物文、前面・外面上に白色	覆土下層	5% PL21 肥前系
91	磁器	香炉	[12.6]	4.5	[8.1]	長石・石英	黒褐	良好	削り出し高台、口辺部内面から底部外側灰釉	覆土中層	35% PL21 窓口・美濃系
93	磁器	香炉	-	(4.4)	[11.4]	砂粒	黒褐・灰白	良好	底部灰釉貼付、内面織物、底部四軸系切り、下端灰釉	覆土中層	30% 美濃系
94	陶器	花瓶	--	(4.3)	7.1	長石	灰オーリーブ	良好	底部四軸系切り、下端灰釉	覆土上層	5% PL21 窓口・美濃系
95	陶器	壺	-	(5.5)	-	砂粒	灰オーリーブ	良好	灰釉施釉	覆土下層	5% PL21 窓口・美濃系

番号	器種	直徑	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q2	右口	[37.8]	(4.1)	(321.7)	安山岩	丁寧な研磨	覆土下層	基口カ
Q3	右口	[23.2]	10.5	(1000.6)	安山岩	下口、下面に器目状の溝	覆土中	粉挽口カ
Q4	右口	[28.8]	(5.5)	(295.6)	安山岩	下口、上面に器目状の溝	底面	粉挽口カ
Q5	右口	[20.1]	(6.2)	(709.9)	砂岩	下口、上面に器目状の溝	覆土中	粉挽口カ

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q6	砥石	(14.3)	3.1	4.2	(375.4)	凝灰岩	砥面1面	覆土中	PL26
Q7	砥石	(12.6)	4.5	3.7	(375.4)	凝灰岩	砥面2面	覆土中	PL26
Q8	砥石	18.0	3.4	4.1	279.5	凝灰岩	砥面5面	覆土中	PL26
Q9	砥石	(11.8)	2.8	2.0	(138.5)	凝灰岩	砥面1面	覆土中	PL26
Q10	砥石	(11.7)	3.0	1.8	(107.6)	凝灰岩	砥面1面	覆土中	
Q11	砥石	(6.9)	4.7	2.6	(120.9)	凝灰岩	砥面1面	覆土中	
Q12	砥石	8.4	3.1	2.8	67.3	凝灰岩	砥面3面	底面	PL26
Q13	砥石	(9.9)	6.6	4.1	(379.1)	砂岩	砥面4面	覆土中	
Q14	砥石	(10.0)	3.1	2.5	(99.1)	凝灰岩	砥面3面	底面	PL26
Q15	砥石	(12.2)	3.0	2.0	(121.0)	凝灰岩	砥面1面	覆土中	
Q16	砥石	(8.5)	3.0	2.1	(90.7)	凝灰岩	砥面1面	覆土中	
Q17	砥石	(8.2)	3.1	3.3	(136.1)	凝灰岩	砥面1面	覆土中	
Q18	砥石	(10.6)	2.8	2.0	(100.6)	凝灰岩	砥面1面	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M5	煙管	4.5	1.9	2.5	4.2	銅	雁首、腹反し急	覆土中	PL25
M6	煙管	(4.8)	(1.3)	(1.8)	(5.2)	銅	雁首、腹反し急、火頭欠損	覆土下層	PL25
M7	煙管	(5.7)	(1.1)	(2.0)	(5.2)	銅	雁首、腹反し急、火頭欠損	覆土中	PL25
M8	小柄	9.7	1.4	0.4	20.5	銅	魚子地、表に呪・草木文を彫金	覆土中	PL25
M9	小柄	(5.1)	1.5	0.4	(4.4)	銅	魚子地、表に弓と矢を彫金	覆土中	PL25

番号	器種	口径	高さ	底径	手法の特徴	出土位置	備考
W18	高台付椀	-	(2.2)	-	削り出し高台	覆土中	

番号	器種	口径	高さ	底径	手法の特徴	出土位置	備考
W19	高台付輪	-	(6.1)	6.0	削り出し高台	覆土下層	赤褐色土質
W20	高台付輪	[13.4]	(7.5)	-	削り出し高台、内外面朱漆	覆土下層	
W21	高台付輪	[9.6]	(2.7)	-	削り出し高台、内外面朱漆	覆土中	黒褐色土
W22	高台付輪	[10.2]	(3.3)	-	削り出し高台、内外面朱漆	覆土中	墨カ PL24
W23	高台付輪	-	(3.0)	-	削り出し高台、内面朱漆・外面黑色漆	覆土中	朱色・外緑内赤

番号	器種	長さ	高幅	厚さ	手法の特徴	出土位置	備考
W25	下駄	21.8	9.3	(3.5)	切り出しによる一材からの台・面	底面	
W26	下駄	21.5	8.6	6.3	切り出しによる一材からの台・面	覆土下層	PL26
W27	F駄	22.7	9.7	5.0	切り出しによる一材からの台・面	覆土中層	PL26
W28	下駄	21.2	8.7	(2.3)	切り出しによる一材からの台・面	覆土中	
W32	小形木製品	22.3	5.1	3.7	表面に斜め引目直糸、表面に6か所の切り込み	覆土中層	
W33	小形木製品	36.5	17.9	6.9	片面にくびれ、くびれ部に盤による調整痕、下部に斜	底面	
W35	大柱	395.0	19.8	18.2	芯材、貫通した穴孔の納穴、二枚柄が残る	覆土下層	
W36	小形木製品 性別判	107.0	15.2	14.4	七角形に面取り、各面に手斧による調整痕、上端に切り込みと納穴、下端部に斜め引目直糸	覆土下層	
W37	杭	178.8	7.5	6.5	各面に手斧による調整痕、下端部に斜	覆土中層	
W40	杭	(69.8)	(7.6)	(7.9)	下端部四面加工、加工面に工具痕	覆土下層	

番号	器種	径	厚さ	手法の特徴	出土位置	備考
W29	板(板張合)	[18.4]	1.7	削截法による製板、則縁を面取り	底面	
W30	板(板張合)	[23.6]	1.6	削截法による製板、則縁を面取り	底面	

表7 溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規 模			断面形	裏面	底面	覆土	主な出土遺物	時代	備 考	
				長さ	上幅	下幅								
1	B 4 b3	N -60° - W	直線	(13.6)	264~284	0.32~0.32	118	V字状	外傾	平坦	自然	土師質土器・陶器	17世紀後半	
2	B 2 d9	N -30° - E	直線	(32.0)	260~476	0.22~1.24	56~164	断合形	盛斜	平坦	自然	土師質土器・陶器・鐵器・木製品	17世紀後半	

(4) 方形堅穴造構

第1号方形堅穴造構（第61図）

位置 調査区中央部南側のB 3 h2区に位置している。

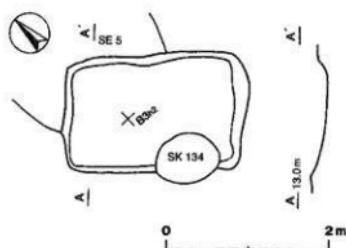
重複関係 北側で第5号井戸跡を掘り込み、南西側で第134号上坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.45m、短軸1.45mほどの長方形で、確認面からの深さは25cmほどである。長軸方向はN -48° - Wで、壁は外傾して立ち上がっており、底面は平坦である。

覆土 不明である。

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物が出土していないため時期判断は困難であるが、第5号井戸跡を掘り込んでいることから中世以降と思われる。性格は不明である。



第61図 第1号方形堅穴造構実測図

(5) 土坑

第11号土坑（第62図）

位置 調査区中央部南側のB 3 h3区に位置している。

規模と形状 長径1.10mほどの不整円形で、確認面からの深さは68cmほどである。壁は外傾して立ち上がっており、底面は皿状である。

覆土 8層からなる。ロームブロックや粘土ブロックを含み、ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量	6 黒褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量、炭化物微量
2 黑褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量、粘土ブロック微量	7 黑褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 黑褐色	ロームブロック少量、粘土ブロック微量	8 黒褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック少量、燒土粒子微量
4 黑褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量、粘土ブロック微量		
5 黑褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師質土器片2点（小皿）、柱材1点、木片2点が出土している。土師質土器片はいずれも細片であり、柱材は腐食が激しく図示できなかった。

所見 小皿の特徴などから時期は16世紀後半と考えられる。また、柱材が出土していることから掘立柱建物跡の柱穴とも考えられるが、周囲には並ぶような柱穴は確認できなかった。

第20号土坑（第62図）

位置 調査区中央部北側のB 3 e2区に位置している。

重複関係 第3号井戸跡・第11号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.78m、短径0.50mほどの不整円形で、確認面からの深さは30cmほどである。長径方向はN-87°-Eで壁は外傾して立ち上がっており、底面は平坦である。

覆土 2層からなる。覆土はわずかであるが、ロームブロックや粘土ブロックを含む人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック中量、燒土粒子少量、炭化物・粘土ブロック微量	2 黑褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量、粘土ブロック微量
-------	-------------------------------	-------	-----------------------------

遺物出土状況 上師質土器片4点（小皿）、陶器片1点（皿）の他に、流れ込みと考えられる須恵器片2点が出土している。土師質土器片や陶器片はいずれも細片であり、図示できなかった。

所見 土師質土器片の特徴などから時期は16世紀後半と考えられるが、性格は不明である。

第22号土坑（第62図）

位置 調査区中央部北側のB 3 f3区に位置している。

規模と形状 長径1.06m、短径0.69mほどの稍円形であり、確認面からの深さは43cmほどである。長径方向はN-58°-Wで、壁は外傾して立ち上がっている。底面は皿状であり、東側に小ピットを伴っている。

覆土 4層からなる。ロームブロックや粘土ブロックを含む人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・砂粒少量、燒土ブロック・炭化物・粘土ブロック微量	3 黒褐色	粘土ブロック少量、ロームブロック・砂粒少量、燒土ブロック・炭化物微量
2 黑褐色	ロームブロック・砂粒少量、燒土粒子・炭化粒子	4 黑褐色	ロームブロック中量、燒土ブロック少量、燒土粒子・炭化物微量

遺物出土状況 土師質土器片2点（小皿）が出土しているが、いずれも細片であり図示できなかった。

所見 土師質土器片の特徴などから、時期は16世紀後半と考えられる。また、小ピットを伴うことから掘立柱建物跡の柱穴とも考えられるが、周囲にも並ぶような柱穴は確認できなかった。

第26号土坑（第62図）

位置 調査区中央部のB 3 g2区に位置している。

規模と形状 長径0.81m、短径0.58mほどの楕円形で、確認面からの深さは58cmほどである。長径方向はN-48°-Eで、壁は外傾して立ち上がっており、底面は皿状である。

覆土 5層からなる。ロームブロックや粘土ブロックを含む人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化物微量	4 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
2 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・粘土ブロック少量、炭化物微量	5 黒褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量、焼土粒子微量
3 黒褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量、焼土粒子微量	

遺物出土状況 土師質土器片1点（小皿）が出土しているが、細片のため図示できなかった。

所見 土師質土器片の特徴などから時期は16世紀後半から17世紀前半頃と考えられるが、性格は不明である。

第30号土坑（第62図）

位置 調査区中央部のB 3 g3区に位置している。

規模と形状 長径0.61m、短径0.39mほどの不整楕円形で、確認面からの深さは31cmほどである。長径方向はN-42°-Eで壁は緩やかに外傾して立ち上がっており、底面には凹凸が見られる。

覆土 3層からなる。粘土ブロックを多量に含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色 粘土ブロック多量、ロームブロック中量、炭化物少量、焼土粒子微量	3 黑褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量
2 黑褐色 粘土ブロック多量、ローム粒子少量、焼土粒子微量	

遺物出土状況 土師質土器片3点（小皿）が出土しているが、いずれも細片のため図示できなかった。

所見 土師質土器片の特徴などから時期は16世紀後半から17世紀前半頃と考えられるが、性格は不明である。

第31号土坑（第62図）

位置 調査区中央部北側のB 3 g3区に位置している。

規模と形状 径1.00mほどの円形で、確認面からの深さは59cmほどである。壁は外傾して立ち上がっており、底面は平坦である。

覆土 7層からなる。ロームブロックや粘土ブロックを含む人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	5 黑褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量
2 黑褐色 ローム粒子・粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6 黑褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量
3 黑褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	7 黑褐色 ロームブロック・焼土粒子・粘土ブロック少量、炭化粒子微量
4 黑褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量	

遺物出土状況 土師質土器片4点（小皿）が出土しているが、いずれも細片のため図示できなかった。

所見 土師質土器片の特徴などから時期は16世紀後半から17世紀前半頃と考えられるが、性格は不明である。

第36号土坑（第62図）

位置 調査区中央部北側のB 3 e4区に位置している。

規模と形状 長径0.63m、短径0.38mほどの不定形のピット状で、確認面からの深さは16cmほどである。長径方向はN-27°-Eで、壁は緩やかに外傾して立ち上がっており、底面には凹凸が見られる。

覆土 3層からなる。ロームブロックや粘土ブロックを含む、人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------------|-------|--------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック・砂粒少量、
焼土ブロック微量 | 3 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・粘土ブロ
ック少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量、焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片4点(小皿)が出土しているが、いずれも細片のため図示できなかった。

所見 土師質土器片の特徴などから時期は16世紀後半から17世紀前半頃と考えられるが、性格は不明である。

第37号土坑(第62図)

位置 調査区中央部北側のB3e4区に位置している。

規模と形状 長径0.35m、短径0.25mほどの不整規円形のピット状で、確認面からの深さは13cmほどである。

長径方向はN-19°-Eで、壁は外傾して立ち上がっており、底面は皿状である。

覆土 2層からなる。層厚は一定であるが、ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|-------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量 | 2 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物・粘土ブロック少量 |
|-------|--------------------|-------|-----------------------------|

遺物出土状況 土師質土器片1点(小皿)が出土しているが、細片のため図示できなかった。

所見 土師質土器片の特徴などから時期は16世紀後半から17世紀前半頃と考えられるが、性格は不明である。

第38号土坑(第62図)

位置 調査区中央部北側のB3e4区に位置している。

規模と形状 推定長径0.31m、短径0.26mほどの不整規円形のピット状で、確認面からの深さは23cmほどである。長径方向はN-13°-Wで、壁は外傾して立ち上がっており、底面はV字状を呈している。

覆土 2層からなる。層厚は一定であるが、ロームブロックや粘土ブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------------|-------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、炭土粒子・
炭化粒子微量 | 2 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物・粘土
ブロック少量 |
|-------|----------------------------------|-------|---------------------------------|

遺物出土状況 土師質土器片1点(小皿)が出土しているが、細片のため図示できなかった。

所見 土師質土器片の特徴などから時期は16世紀後半から17世紀前半頃と考えられるが、性格は不明である。

第40号土坑(第62・66図)

位置 調査区中央部南側のB3e5区に位置している。

規模と形状 長径0.72m、短径0.63mほどの梢円形で、確認面からの深さは64cmほどである。長径方向はN-70°-Wで、壁は外傾して立ち上がっており、底面は平坦である。

覆土 10層からなる。ロームブロックや粘土ブロックを含み、ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------------|--------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量、燒土粒子・炭化粒子・粘土ブロック少
量 | 6 黑褐色 | ロームブロック中量、燒土粒子・炭化物・粘土ブロック微量 |
| 2 黑褐色 | ロームブロック中量、燒土粒子・炭化物・粘土ブロック少量 | 7 黑褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック少量、燒土粒子微量 |
| 3 黑褐色 | ローム粒子中量、燒土粒子・炭化物・粘土ブロック少量 | 8 黑褐色 | ロームブロック中量、燒土粒子・炭化粒子・粘土ブロック微量 |
| 4 黑褐色 | ロームブロック中量、燒土粒子・炭化物・粘土ブロック少
量 | 9 黑褐色 | ロームブロック中量、燒土粒子・炭化粒子少量、粘土ブロック微量 |
| 5 黑褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量、燒土ブロック微量 | 10 黑褐色 | ロームブロック・燒土ブロック少量、燒土粒子・炭化物微量 |

遺物出土状況 土師質土器片 6点（小皿）、古銭 3点が出土している。M 1は覆土中層、M 2・3は覆土中から出土している。

所見 土師質土器片の特徴などから、時期は16世紀後半から17世紀前半と考えられるが、性格は不明である。

第42号土坑（第62図）

位置 調査区中央部南側のB 3 e7区に位置している。

規模と形状 長径1.00m、短径0.65mほどの不定形で、確認面からの深さは32cmほどである。長径方向はN-18°-Wで、壁は外傾して立ち上がっており、底面は平坦である。

覆土 2層からなる。層厚は一定であるが、ロームブロックや粘土ブロックを含む人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中層、燒土粒子・粘土ブロック 少量	2 黒褐色 ロームブロック中層、燒土粒子・粘土ブロック 少量、炭化物微量
-----------------------------------	---

遺物出土状況 土師質土器片 3点（小皿）の他に、流れ込みと考えられる須恵器片が1点出土しているが、いずれも細片のため図示できなかった。

所見 土師質土器片の特徴などから時期は、16世紀後半頃と考えられるが、性格は不明である。

第58号土坑（第62図）

位置 調査区中央部北側のB 3 g5区に位置している。

規模と形状 長径0.45m、短径0.36mほどの楕円形のピット状で、確認面からの深さは37cmほどである。長径方向はN-37°-Eで、壁は外傾して立ち上がっており、底面は平坦である。

覆土 4層からなる。ロームブロックや粘土ブロックを含み、ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土ブロ ック・炭化物微量	3 黒褐色 ロームブロック中層、粘土ブロック少量、焼土 ブロック・炭化物微量
2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・ 粘土ブロック少量	4 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土ブ ロック少量

遺物出土状況 土師質土器片 1点（小皿）が出土しているが、細片のため図示できなかった。

所見 土師質土器片の特徴などから時期は、16世紀後半から17世紀前半頃と考えられるが、性格は不明である。

第86号土坑（第62図）

位置 調査区中央部のB 3 g3区に位置している。

重複関係 第85号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 確認されたのは長径0.33m、短径0.25mほどの楕円形のピット状で、確認面からの深さは27cmほどである。長径方向はN-49°-W、壁は外傾して立ち上がっており、底面は平坦である。

覆土 不明である。

遺物出土状況 土師質土器片 1点（小皿）、陶器片 1点（皿類）が出土しているが、いずれも細片のため図示できなかった。

所見 土師質土器片の特徴などから、時期は16世紀後半から17世紀前半頃と考えられるが、性格は不明である。

第92号土坑（第62図）

位置 調査区中央部のB 3 e4区に位置している。

重複関係 北東側で第106号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.16m、短径0.82mほどの楕円形で、確認面からの深さは45cmほどである。長径方向はN-45°-Eで、壁は外傾して立ち上がっており、底面は平坦である。

覆土 5層からなる。レンズ状の堆積状況を示しているが、ロームブロックや粘土ブロックを含むことから人為堆積である。

土層解説

1	褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック少量	3	褐色	粘土ブロック・炭化物少々、ロームブロック・燒土粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック少量	4	褐色	ロームブロック・燒土ブロック少量、燒土粒子・炭化物微量
5	暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック少々	6	褐色	ロームブロック・粘土ブロック少々、炭化物・燒土粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片1点（小皿）の他に、流れ込みと考えられる土師器片11点、須恵器片1点が出土しているが、いずれも細片のため図示できなかった。

所見 土師質土器片の特徴などから、時期は16世紀後半頃と考えられるが、性格は不明である。

第98号土坑（第62・65図）

位置 調査区中央部北側のB 3 d2区に位置している。

重複関係 南側で第115号土坑を掘り込み、南東側で第1号掘立柱建物跡のP10、北東側で第105号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 一辺0.72mほどの方形と推定され、確認面からの深さは36cmほどである。長径方向はN-83°-Eで、壁は外傾して立ち上がっており、底面は皿状である。

覆土 不明である。

遺物出土状況 陶器1点（丸皿）、砾石1点、木片1点が出土している。8は陶器の丸皿で覆土中から出土している。

所見 大窯期後半と思われる陶器の丸皿が出土していることから、時期は16世紀後半頃と考えられるが、性格は不明である。

第104号土坑（第62・65図）

位置 調査区中央部南側のB 3 h6区に位置している。

規模と形状 長径0.97m、短径0.58mほどの不整楕円形で、確認面からの深さは55cmほどである。長径方向はN-43°-Wで、壁は外傾して立ち上がっており、底面は北西に向かって傾斜している。

覆土 不明である。

遺物出土状況 土師質土器片7点（小皿）の他に、流れ込みと考えられる須恵器5点（壺類3、甕類2）が出土している。11は覆土中からの出土である。

所見 土師質土器片の特徴などから、時期は16世紀後半から17世紀前半と考えられるが、性格は不明である。

第125号土坑（第62図）

位置 調査区中央部のB 3 g5区に位置している。

規模と形状 長径1.40m、短径0.70mほどの不整楕円形で、確認面からの深さは38cmほどである。長径方向はN-45°-Wで壁は緩やかに外傾して立ち上がっており、底面はほぼ平坦である。

覆土 5層からなる。レンズの堆積状況を示すが、ロームブロックや粘土ブロックを含む人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量	3 黒褐色	ロームブロック・炭化物・粘土ブロック少量、焼土ブロック微量
2 黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	4 黒褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少禁、焼土ブロック・炭化物微量
		5 黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量

遺物出土状況 土師質土器片1点(小皿)と石器1点(砥石)が覆土中から出土している。

所見 土師質土器片の特徴などから、時期は16世紀後半から17世紀前半頃と考えられるが、性格は不明である。

第137号土坑(第62図)

位置 調査区中央部のB 3 g2区に位置している。

重複関係 本跡の南西部を第5号井戸跡に掘り込まれている。

規模と形状 確認されたのは長径1.20m、短径0.85mほどで、楕円形と推定される。確認面からの深さは17cmほどである。長径方向はN-24°-Eで、壁は外傾して立ち上がっており、底面は平坦である。

覆土 不明である。

遺物出土状況 土師質土器片2点(小皿)、陶器1点(皿類)の他に、流れ込みと思われる須恵器片1点が出土しているが、いずれも網片のため図示できなかった。

所見 出土遺物の特徴などから、時期は17世紀前半頃と考えられるが、性格は不明である。

第151号土坑(第62・65図)

位置 調査区中央部南側のB 3 i5区に位置している。

規模と形状 長径1.20m、短径0.75mほどの不整楕円形で、確認面からの深さは54cmほどである。長径方向はN-51°-Eで、壁は外傾して立ち上がっており、底面は皿状である。

覆土 6層からなる。ロームブロックや粘土ブロックを含み、ブロック状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	4 黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	5 黒褐色	粘土ブロック多量、ロームブロック少量
3 黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量、焼土粒子少量、炭化物微量	6 黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量

遺物出土状況 14の上師質土器の小皿が覆土中層から出土している。

所見 土師質土器片の特徴などから、時期は16世紀後半から17世紀前半頃と考えられるが、性格は不明である。

第176号土坑(第63・65・66図)

位置 調査区東部北側のB 4 c3区に位置している。

規模と形状 長径3.35m、短径1.80mほどの楕円形で、確認面からの深さは127cmほどである。長径方向はN-70°-Wで、壁は外傾して立ち上がっており、底面は平坦である。

覆土 不明である。

遺物出土状況 土師質土器2点(内耳鍋)、砥石2点が出土している。15は南壁際の覆土中層、16はやや西寄りの覆土下層からそれぞれまとめて出土している。

所見 時期は出土土器から16世紀前半頃と考えられるが、性格は不明である。

第178号土坑（第62図）

位置 調査区東部北側のB 4 c2区に位置している。

規模と形状 長径0.75m、短径0.53mほどの楕円形で、確認面からの深さは35cmほどである。長径方向はN - 15° - Wで、壁は外傾して立ち上がっており、底面は凹凸である。

覆土 不明である。

遺物出土状況 上師質土器片1点（上鍋類）、鉄製品1点（不明）が出土している。土師質土器片は細片であり、鉄製品は腐植が激しいため図示できなかった。

所見 土師質土器片の特徴から、時期は16世紀後半から17世紀前半頃と考えられるが、性格は不明である。

第181号土坑（第62・65図）

位置 調査区中央部北側のB 3 d3区に位置している。

規模と形状 長径0.84m、短径0.53mほどの楕円形で、確認面からの深さは37cmほどである。長径方向はN - 60° - Wで、壁は緩やかに外傾して立ち上がっており、底面は皿状である。

覆土 不明である。

遺物出土状況 土師質土器片4点（小皿）が出土している。3は覆土中から出土しており、口縁の一部に油煙が付着していることから灯明皿として使用されたと考えられる。

所見 土師質土器片の特徴などから、時期は16世紀後半頃と考えられるが、性格は不明である。

第185号土坑（第63図）

位置 調査区東部北側のB 4 d3区に位置している。

重複関係 東側で第186・187号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.30m、短径1.20mほどの楕円形で、確認面からの深さは82cmほどである。長径方向はN - 88° - Eで、壁は垂直に立ち上がっており、底面は平坦である。

覆土 7層からなる。層厚が平均的ではあるが、ロームブロックや粘土ブロックを含む人為堆積である。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量	4	黒褐色	砂粒中量、ロームブロック・炭化物微量
2	黒褐色	ローム粒子・粘土ブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量	5	黒褐色	粘土ブロック・砂粒少量、ロームブロック・炭化粒子微量
3	黒褐色	粘土ブロック・砂粒中量、ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量	6	黒褐色	粘土ブロック中量、ローム粒子少量
			7	黒褐色	砂粒多量、粘土ブロック少量、ロームブロック少量

遺物出土状況 18・19の小皿は、覆土中からの出土である。

所見 土師質土器片の特徴などから、時期は17世紀前半頃と考えられるが、性格は不明である。

第186号土坑（第63図）

位置 調査区東部北側のB 4 d3区に位置している。

重複関係 西側を第185号土坑に掘り込まれ、北東側で第187号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 確認できたのは長径1.23m、短径0.95mほどで、楕円形と思われる。確認面からの深さは110cmほどである。長径方向はN - 88° - Eで、壁は垂直に立ち上がっており、底面は平坦である。

覆土 2層である。第185号土坑に掘り込まれているため覆土はわずかであるが、ロームブロックや粘土ブロックを含む人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック少量

2 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量

遺物出土状況 土師質土器片1点（土鍋類）が出土しているが、細片のため図示できなかった。

所見 土師質土器片の特徴から、時期は16世紀後半から17世紀前半頃と考えられるが、性格は不明である。

第187号土坑（第63図）

位置 調査区東部北側のB 4 c3区に位置している。

重複関係 南西側が第185号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径0.95m、短径0.60mほどの楕円形と想定され、確認面からの深さは54cmほどである。長径方向はN-9°-Eで、壁は緩やかに外傾して立ち上がっており、底面はU字状である。

覆土 不明である。

遺物出土状況 土師質土器片5点（小皿）が出土している。20は覆土中からの出土である。

所見 土師質土器片の特徴などから、時期は16世紀後半から17世紀前半頃と考えられるが、性格は不明である。

第223号土坑（第63図）

位置 調査区東部北側のB 4 c3区に位置している。

規模と形状 径0.47mほどの円形のピット状で、確認面からの深さは43cmほどである。壁は外傾して立ち上がっており、底面は平坦である。

覆土 不明である。

遺物出土状況 土師質土器片1点（小皿）が出土しているが、細片のため図示できなかった。

所見 土師質土器片の特徴から、時期は16世紀後半から17世紀前半頃と考えられるが、性格は不明である。

第230号土坑（第63図）

位置 調査区東部北側のB 4 e1区に位置している。

規模と形状 長径0.45m、短径0.33mほどの楕円形で、確認面からの深さは20cmほどである。長径方向はN-40°-Eで、壁は外傾して立ち上がっており、底面は平坦である。

覆土 不明である。

遺物出土状況 瓦質土器1点（小形壺）、土師質土器片1点（小皿）が出土している。22は覆土中層から出土しており、内面には鋸びた鉢分が付着している。

所見 出土土器から時期は17世紀前半頃と考えられるが、性格は不明である。

第253号土坑（第63図）

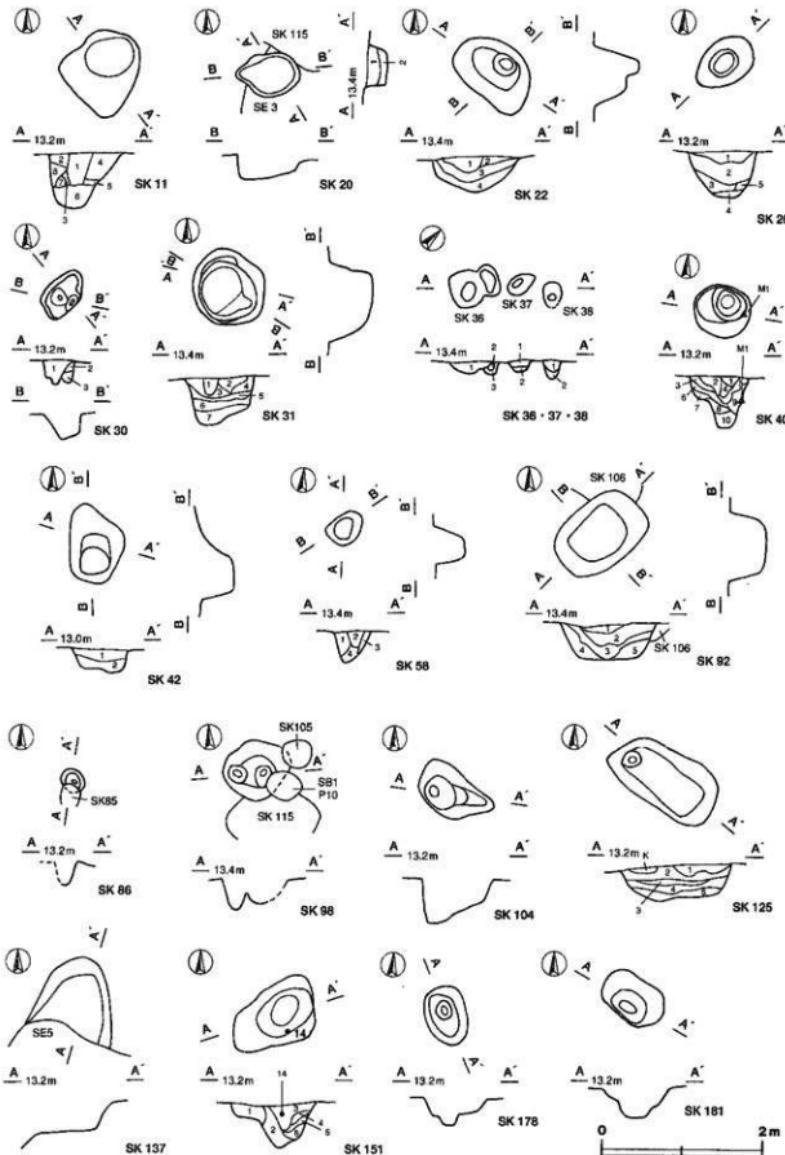
位置 調査区中央部南側のB 3 h5区に位置している。

規模と形状 長径1.08m、短径0.65mほどの楕円形で、確認面からの深さは42cmほどである。長径方向はN-3°-Eで、壁は緩やかに外傾して立ち上がっており、底面は平坦である。

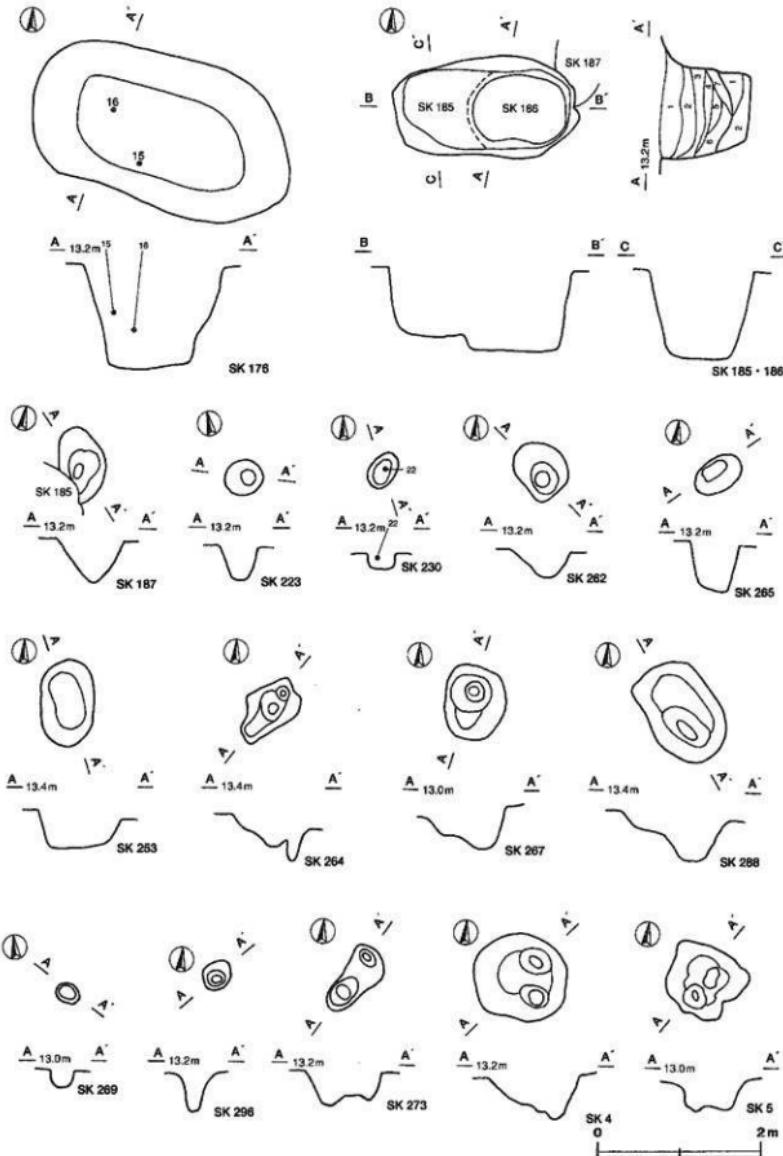
覆土 不明である。

遺物出土状況 土師質土器3点（小皿2、土鍋類1）が出土しているが、いずれも細片のため図示できなかった。

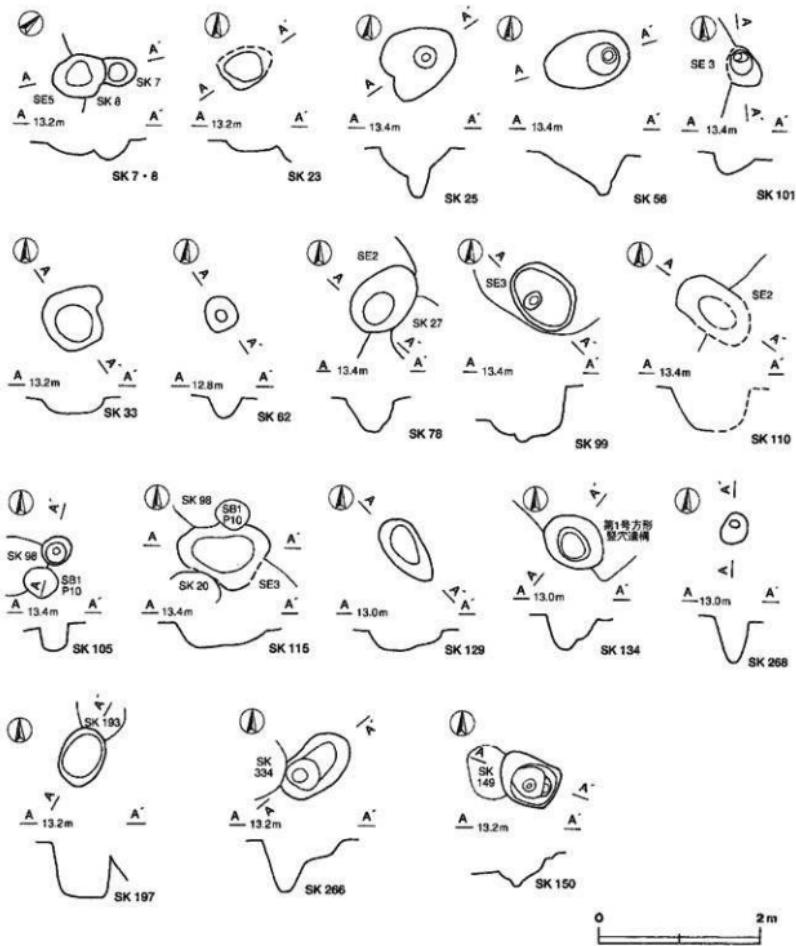
所見 土師質土器片の特徴などから、時期は16世紀後半から17世紀前半頃と考えられるが、性格は不明である。



第62図 中世・近世の土坑穴測図(1)



第63図 中世・近世上坑実測図(2)



第64図 中世・近世の土坑実測図(3)

第262号土坑 (第63図)

位置 調査区中央部南側のB 3 g2区に位置している。

規模と形状 長径0.71m, 短径0.60mほどの楕円形で、確認面からの深さは35cmほどである。長径方向はN-41°-Wで、壁は緩やかに外傾して立ち上がっており、底面は皿状である。

覆土 不明である。

遺物出土状況 土師質土器片1点（小皿）が出土しているが、細片のため図示できなかった。

所見 土師質土器片の特徴などから、時期は16世紀後半から17世紀前半頃と考えられるが、性格は不明である。

第264号土坑（第63図）

位置 調査区中央部南側のB 3 g5区に位置している。

規模と形状 長径0.90m、短径0.54mほどの不定形で、確認面からの深さは32cmほどである。長径方向はN-44°-Eで、壁は緩やかに外傾して立ち上がっており、底面は凸凹である。

覆土 不明である。

遺物出土状況 土師質土器片2点（小皿）が出土しているが、いずれも細片のため図示できなかった。

所見 土師質土器片の特徴などから、時期は16世紀後半から17世紀前半頃と考えられるが、性格は不明である。

第265号土坑（第63図）

位置 調査区中央部南側のB 3 g5区に位置している。

規模と形状 長径0.63m、短径0.41mほどの楕円形のピット状で、確認面からの深さは60cmほどである。長径方向はN-57°-Eで、壁は外傾して立ち上がっており、底面は平坦である。

覆土 不明である。

遺物出土状況 土師質土器片1点（小皿）が出土しているが、細片のため図示できなかった。

所見 土師質土器片の特徴などから、時期は16世紀後半から17世紀前半頃と考えられるが、性格は不明である。

第267号土坑（第63図）

位置 調査区中央部南側のB 3 i5区に位置している。

規模と形状 長径0.91m、短径0.75mほどの楕円形で、確認面からの深さは52cmほどである。長径方向はN-11°-Eで、壁は外傾して立ち上がっており、底面は皿状である。

覆土 不明である。

遺物出土状況 土師質土器片1点（土鍋類）が出土しているが、細片のため図示できなかった。

所見 土師質土器片の特徴などから、時期は16世紀後半から17世紀前半頃と考えられるが、性格は不明である。

第269号土坑（第63図）

位置 調査区中央部南側のB 3 i5区に位置している。

規模と形状 長径0.30m、短径0.25mほどの楕円形のピット状で、確認面からの深さは20cmほどである。長径方向はN-50°-Wで、壁は外傾して立ち上がっており、底面は平坦である。

覆土 不明である。

遺物出土状況 土師質土器片1点（土鍋類）が出土しているが、細片のため図示できなかった。

所見 土師質土器片の特徴などから、時期は16世紀後半から17世紀前半頃と考えられるが、性格は不明である。

第273号土坑（第63図）

位置 調査区中央部のB 3 g3区に位置している。

規模と形状 長径0.91m、短径0.34mほどの不定形で、確認面からの深さは43cmほどである。長径方向は

N - 33° - E で、壁は外傾して立ち上がっており、底面は凹凸である。

覆土 不明である。

遺物出土状況 土師質土器片 2 点（小皿）が出土しているが、いずれも細片のため図示できなかった。

所見 土師質土器片の特徴などから、時期は16世紀後半から17世紀前半頃と考えられるが、性格は不明である。

第288号土坑（第63図）

位置 調査区中央部の B 3 e3 区に位置している。

規模と形状 長径 1.32m、短径 0.90m ほどの楕円形で、確認面からの深さは 55cm ほどである。長径方向は N - 29° - W で、壁は緩やかに外傾して立ち上がっており、底面は南側で窪んでいる。

覆土 不明である。

遺物出土状況 土師質土器 1 点（小皿）が覆土中から出土している。

所見 土師質土器片の特徴などから、時期は17世紀前半頃と考えられるが、性格は不明である。

第296号土坑（第63図）

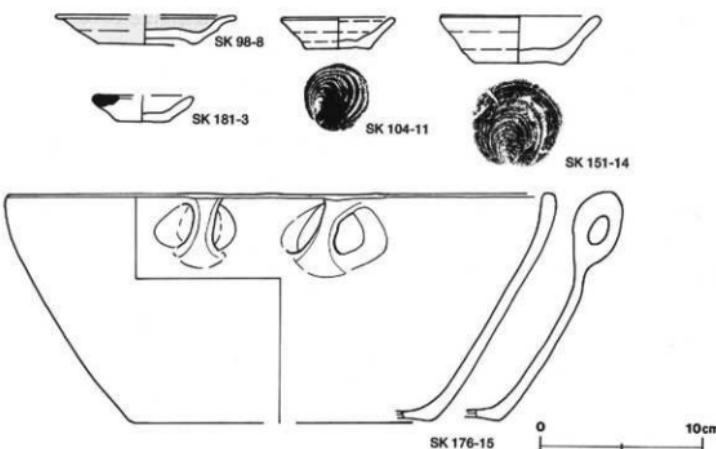
位置 調査区中央部南側の B 3 h3 区に位置している。

規模と形状 長径 0.40m、短径 0.34m ほどの楕円形のピット状で、確認面からの深さは 47cm ほどである。長径方向は N - 52° - E で、壁は外傾して立ち上がっており、底面は U 字状である。

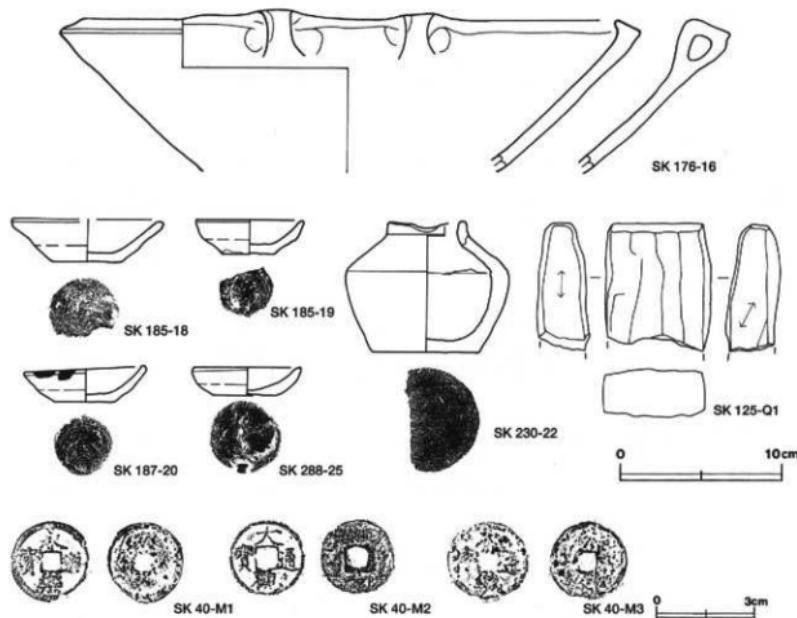
覆土 不明である。

遺物出土状況 土師質土器片 3 点（小皿）が出土しているが、いずれも細片のため図示できなかった。

所見 土師質土器片の特徴などから、時期は16世紀後半から17世紀前半頃と考えられるが、性格は不明である。



第65図 中世・近世土坑出土遺物実測図(1)



第66図 中世・近世土坑出土遺物実測図(2)

第98号土坑出土遺物観察表（第65図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴	出土位置	備 考
8	陶器	丸皿	[10.9]	1.8	6.1	砂粒	灰オリーブ	良好	内・外面全体に灰釉	覆土中	80% PL20

第104号土坑出土遺物観察表（第65図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴	出土位置	備 考
11	土蔵質土器	小皿	6.8	1.9	4.0	長石・石英	にぶい黄澄	普通	底部回転系切り、体部内・外面 糊ナデ	覆土中	100% PL20

第151号土坑出土遺物観察表（第65図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴	出土位置	備 考
14	土蔵質土器	小皿	10.0	3.1	5.0	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転系切り、体部内・外面 糊クロナデ	覆土中層	100% PL20

第176号土坑出土遺物観察表（第65・66図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴	出土位置	備 考
15	土蔵質土器	内耳皿	33.6	14.3	[18.8]	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	にぶい褐	普通	内耳3。内面から口縁部外面 糊ナデ。体部外面糊付有	覆土中層	80% PL24
16	土蔵質土器	内耳皿	33.0 (10.2)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	内耳3。内面から口縁部外面 糊ナデ。体部外面糊付有	覆土下層	75% PL24	

第181号土坑出土遺物観察表（第65図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3	土師器	小皿	[6.1]	1.6	3.2	長石・石英・雲母・ 金星粒子	にぶい赤褐色	普通	高品質びり山・外面調整不明 上部輪廻付	覆土中	40%

第185号土坑出土遺物観察表（第65・66図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
18	土師器	小皿	[9.9]	2.6	4.7	長石・石英・雲母・ 金星粒子	にぶい赤褐色	普通	底部輪廻系切り・体部内・外面 調整不明	覆土中	25%
19	土師器	小皿	6.6	2.1	3.4	長石・石英・赤色 粒子	褐灰	普通	底部輪廻系切り・体部内・外面 調整付	覆土中	65%

第187号土坑出土遺物観察表（第66図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
20	土師器	小皿	7.1	2.2	3.7	長石・赤色粒子・ 針状物	にぶい赤褐色	普通	底部輪廻系切り・体部内・外面 調整付	覆土中	100% PL20

第230号土坑出土遺物観察表（第66図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
22	瓦質土器	短縦壺	4.8	8.1	6.6	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部輪廻系切り・体部内・外面 調整付	覆土中下部	50% PL23

第288号土坑出土遺物観察表（第66図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
25	土師器	小皿	6.4	1.7	4.0	長石・石英・雲母・ 金星粒子	にぶい赤褐色	普通	底部輪廻系切り・体部内・ 外面調整付	覆土中	95% PL20

第40号土坑出土遺物観察表（第66図）

番号	鉢名	幅	孔	幅	重量	初 鋤 年	材質	出土位置	備考
M1	水築通宝	2.5	0.6	2.2	1408年（永樂6年）		銅	覆土中	PL25
M2	大觀通宝	2.3	0.6	1.9	1107年（大觀元年）		銅	覆土中	PL25
M3	水築通宝	2.5	0.6	2.5	1408年（永樂6年）		銅	覆土中	PL25

第125号土坑出土遺物観察表（第66図）

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	等	級	出土位置	備考
Q1	磁石	(7.9)	32	6.6	230.8	褐灰岩	表面2面		覆土中	

表8 中世・近世土坑一覧表

番号	位置	長辺方向	平面形	裏模 (m) (長径×短径)	深さ (cm)	横面	底面	複土	出土遺物	備考
4	B3 b3	N-28°-W	楕円形	1.25×1.05	53	鍔斜	段状	人馬	土師質土器	新旧関係(IJ→新)
5	B3 b2	—	不定形	0.96×0.89	33	外傾	四凸	人馬	土師質土器	
7	B3 g2	N-41°-E	楕円形	1.036×0.97	22	鍔斜	皿状	人馬	上部質土器	本跡→SK 8
8	B3 g2	N-41°-E	不整楕円形	0.66×0.55	17	外傾	平坦	人馬		SE 5・SK 7→本跡
11	B3 b3	--	不整円形	1.10×1.05	68	外傾	皿状	人馬	土師器	
20	B3 e2	N-87°-E	不整楕円形	0.78×0.50	30	外傾	平坦	人馬	土師質土器、陶器	SE 3・SK115→本跡
22	B3 f3	N-58°-W	楕円形	1.06×0.69	43	外傾	皿状	人馬	土師質土器	

番号	位置	探査方向	平面形	規模 (m) (長辺×短辺)	深さ (cm)	腹面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係 (旧→新)
23	B3f2	N-53°-E	[橢円形]	[0.63×0.48]	14	縦斜	平坦	小明	土師質土器	
25	B3g2	N-40°-E	不整橢円形	1.00×0.83	60	縦斜	亜状	人為	土師質土器	
26	B3g2	N-48°-E	椭円形	0.81×0.58	58	外傾	亜状	人為	土師質土器	
30	B3g3	N-42°-E	不整橢円形	0.61×0.39	31	縦斜	凸内	人為	土師質土器	
31	B3g3	-	円形	1.00	59	外傾	平坦	人為	土師質土器	
33	B3g3	N-36°-W	橢円形	0.78×0.66	20	縦斜	平坦	人為		
36	B3c4	N-27°-E	不定形	0.63×0.38	16	縦斜	凹凸	人為	土師質土器	
37	B3e4	N-19°-E	小整橢円形	0.35×0.23	13	外傾	亜状	人為	土師質土器	
38	B3e4	N-13°-W	不整橢円形	[0.31]×0.26	23	外傾	U字状	人為	土師質土器	
40	B3i5	N-70°-W	橢円形	0.72×0.63	64	外傾	平坦	人為	土師質土器, 古錢	
42	B3i7	N-18°-W	不定形	1.00×0.65	32	外傾	平坦	人為	土師質土器	
56	B3e5	N-70°-W	橢円形	1.03×0.66	50	外傾	平坦	人為	土師質土器	
58	B3g5	N-37°-E	橢円形	0.45×0.36	37	外傾	平坦	人為	土師質土器	
62	B3i6	N-35°-W	橢円形	0.44×0.39	24	縦斜	平坦	人為	土師質土器	
78	B3f4	N-44°-E	橢円形	0.95×0.70	42	縦斜	平凹	人為		SE 2, SK27→本跡
86	B3g3	N-49°-W	[橢円形]	[0.33×[0.25]]	27	外傾	底状	不明	土師質土器, 陶器	本跡→SK85
92	B3e4	N-45°-E	橢円形	1.16×0.82	45	外傾	平坦	人為	土師質土器	SK106→本跡
98	B3d2	N-83°-E	[方 形]	[0.72]	36	外傾	底状	小明	陶器, 砥石	SK115→本跡→SB1SK105
99	B3c3	N-41°-W	橢円形	0.93×0.69	16	外傾	平坦	不明	土師質土器	SE 3 → 本跡
101	B3e3	N-26°-W	橢円形	0.56×0.39	25	外傾	U字状	人為		SE 3 → 本跡
104	B3h6	N-43°-W	不整橢円形	0.97×0.58	55	外傾	縦斜	不明	土師質土器	
105	B3g3	N-45°-E	橢円形	0.47×0.34	28	外傾	平坦	人為		SK98→本跡
110	B3f4	N-50°-W	[橢円形]	[1.00]×0.60	54	外傾	底状	人為		SE 2 → 本跡
115	B3e3	N-88°-W	不整橢円形	1.15×[0.82]	33	縦斜	縦斜	人為		SE 3 → 本跡→SB1SK20・98
125	B3g5	N-45°-W	不整橢円形	1.40×0.70	38	縦斜	平凹	人為	土師質土器, 砥石	
129	B3h6	N-56°-W	橢円形	0.90×0.45	22	縦斜	平坦	人為	土師質土器	
134	B3h2	N-52°-W	橢円形	0.74×0.62	24	外傾	U字状	不明		方形窓穴 1 → 本跡
137	B3g2	N-24°-E	[橢円形]	[0.85]×1.20	31	外傾	平坦	不明	土師質土器, 陶器	本跡→SE 5
150	B3h2	N-87°-W	不定形	0.64×0.59	35	外傾	底状	人為		SK149→本跡
151	B3i5	N-31°-E	不整橢円形	1.20×0.75	54	外傾	底状	自然	土師質土器	
176	B3c3	N-70°-W	橢円形	3.35×1.80	127	外傾	平坦	不明	土師質土器, 砥石	
178	B4c2	N-15°-W	橢円形	0.75×0.53	35	外傾	凹凸	不明	土師質土器, 鉄滓	
181	B3d3	N-60°-W	橢円形	0.84×0.53	37	縦斜	底状	不明	土師質土器	
185	B4d3	N-88°-E	橢円形	2.30×1.20	82	横面	平坦	人為	土師質土器	SK186・187→本跡
186	B4d3	N-88°-E	[橢円形]	[1.23]×0.95	110	底直	平坦	人為	土師質土器	SK187→本跡→SK185
187	B4c3	N-9°-E	[橢円形]	0.95×[0.60]	54	縦斜	U字状	不明	土師質土器	本跡→SK185
197	B4d2	N-23°-E	橢円形	0.74×0.54	69	外傾	凹凸	不明	土師質土器	SK193→本跡
223	B4e3	-	円形	0.47	43	外傾	平坦	不明	土師質土器	
230	B4e1	N-40°-E	橢円形	0.45×0.33	20	外傾	平坦	不明	瓦質土器	
253	B3h5	N-3°-E	橢円形	1.08×0.65	42	縦斜	平坦	不明	土師質土器	
262	B3g2	N-41°-W	橢円形	0.71×0.60	35	縦斜	底状	不明	土師質土器	
264	B3g5	N-44°-E	不定形	0.90×0.54	32	縦斜	門凸	不明	土師質土器	
265	B3g5	N-57°-E	橢円形	0.63×0.41	60	外傾	平坦	不明	土師質土器	
266	B3g5	N-45°-E	橢円形	0.94×0.60	63	縦斜	凹凸	不明	土師質土器	本跡→SK334
267	B3i5	N-11°-E	橢円形	0.91×0.75	52	外傾	底状	不明	土師質土器	
268	B3i6	N-14°-E	橢円形	0.41×0.35	50	外傾	底状	不明	陶器	
269	B3i5	N-50°-W	橢円形	0.30×0.25	20	外傾	平坦	不明	土師質土器	
273	B3g3	N-33°-E	不定形	0.91×0.34	43	外傾	凹凸	小明	土師質土器	
288	B3e3	N-29°-W	橢円形	1.32×0.89	55	縦斜	底状	不明	土師質土器	
296	B3h3	N-52°-E	橢円形	0.40×0.34	47	外傾	U字状	不明	土師質土器	

2 その他の遺構と遺物

今回の調査で、時期を明確に判断することが難しい溝2条、方形堅穴遺構1基、土坑162基、ピット群2か所が検出されている。以下、これらの遺構について記載する。

(1) 溝跡

調査区西部で時期及び性格不明の溝が2条検出された。以下、実測図及び土層解説を記述し、平面図については全体図に記載する。

第3号溝跡（第67図・付図）

位置 調査区西側のB 2e7～B 2g7区に位置している。

規模と形状 本跡（N-10°-E）の北側は調査区域外へ延び、南側は現代の排水溝により掘り込まれているために全体を把握することはできなかったが、長さ9.52mほどが確認された。上幅0.55m～0.87m、下幅0.22m～0.45m、深さ0.27～0.36mほどで、壁は緩やかに外傾して立ち上がっており、断面形はU字状を呈している。

覆土 2層からなる。層厚は一定であるが、ロームブロックや粘土ブロックを若干含む人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色 粘土小ブロック少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック微量
-------------------------------------	------------------------------------

遺物出土状況 出土していない。

所見 時期及び性格は不明である。

第4号溝跡（第67図・付図）

位置 調査区西側のB 2f8～B 2i0区に位置している。

規模と形状 本跡（N-20°-W）の南側は調査区域外へ延びており、全体を把握することはできなかったが、長さ12.8mほどが確認された。上幅0.76m～1.20m、下幅0.36m～0.60m、深さ0.28～0.34mほどで、壁は外傾して立ち上がっており、断面形はU字状を呈している。

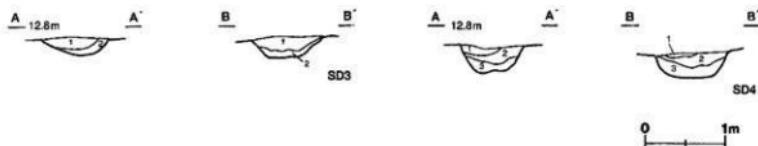
覆土 3層からなる。層厚はほぼ一定であるが、ロームブロックや粘土ブロックを含む人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少數、焼土粒子・炭化粒子微量	3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・粘土ブロック少數
2 黒褐色 ロームブロック少數、焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック微量	

遺物出土状況 出土していない。

所見 時期及び性格は不明である。



第67図 第3・4号溝跡実測図

表9 その他の溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規格			断面形	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	時代	備考
				長さ	上幅	下幅							
3	B 2 e7	N-10°-E	直線	(9.52)	0.53-0.87	0.22-0.45	27-36	U字状	外傾	平坦	人骨		不明
4	B 2 68	N-20°-W	直線	(25.6)	0.76-1.20	0.36-0.60	28-34	逆台形	躍鉢	平出	人骨		不明

(2) 方形堅穴遺構

第2号方形堅穴遺構(第68図)

位置 調査区中央部南側のB 3 h6区に位置している。

重複関係 南西部で第259号土坑に取り込まれている。

規模と形状 長軸3.83m、短軸2.35mほどの長方形で、確認面からの深さは74cmほどである。長軸方向はN-57°-Wで、壁は外傾して立ち上がっており、底面は平坦である。

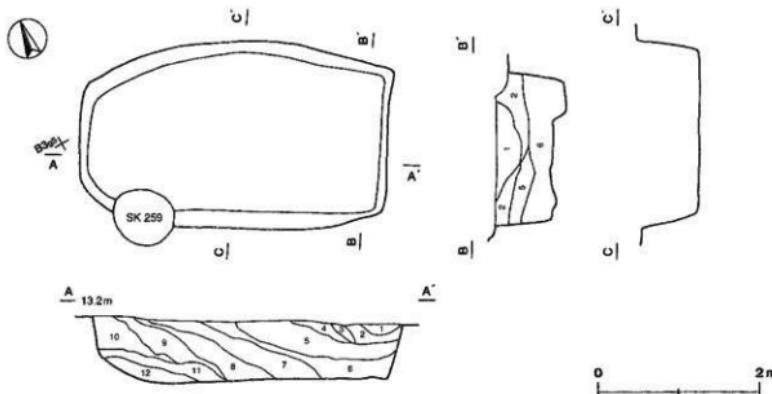
覆土 12層からなる。ロームブロックや粘土ブロックを含む人骨堆積である。

土層解説

1	黒	褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量	7	黒	褐色	粘土ブロック多量、ロームブロック少量、焼土粒子微量
2	黒	褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量、焼土 ブロック・炭化物微量	8	黒	褐色	ロームブロック中量、灰化物・粘土粒子少足、焼土粒子微量
3	黒	褐色	ロームブロック・粘土粒子中量、燒土粒子・炭化粒子微量	9	黒	褐色	ロームブロック・粘土ブロック多量、燒土粒子・炭化物微量
4	黒	褐色	ローム粒子・粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化物微量	10	黒	褐色	ロームブロック・粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化物微量
5	黒	褐色	粘土ブロック多量、ロームブロック中量、炭化物少量	11	黒	褐色	粘土ブロック多量、ロームブロック少量、炭化物微量
6	黒	褐色	粘土ブロック多量、ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物微量	12	黒	褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック少量、燒土 粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 出土していない。

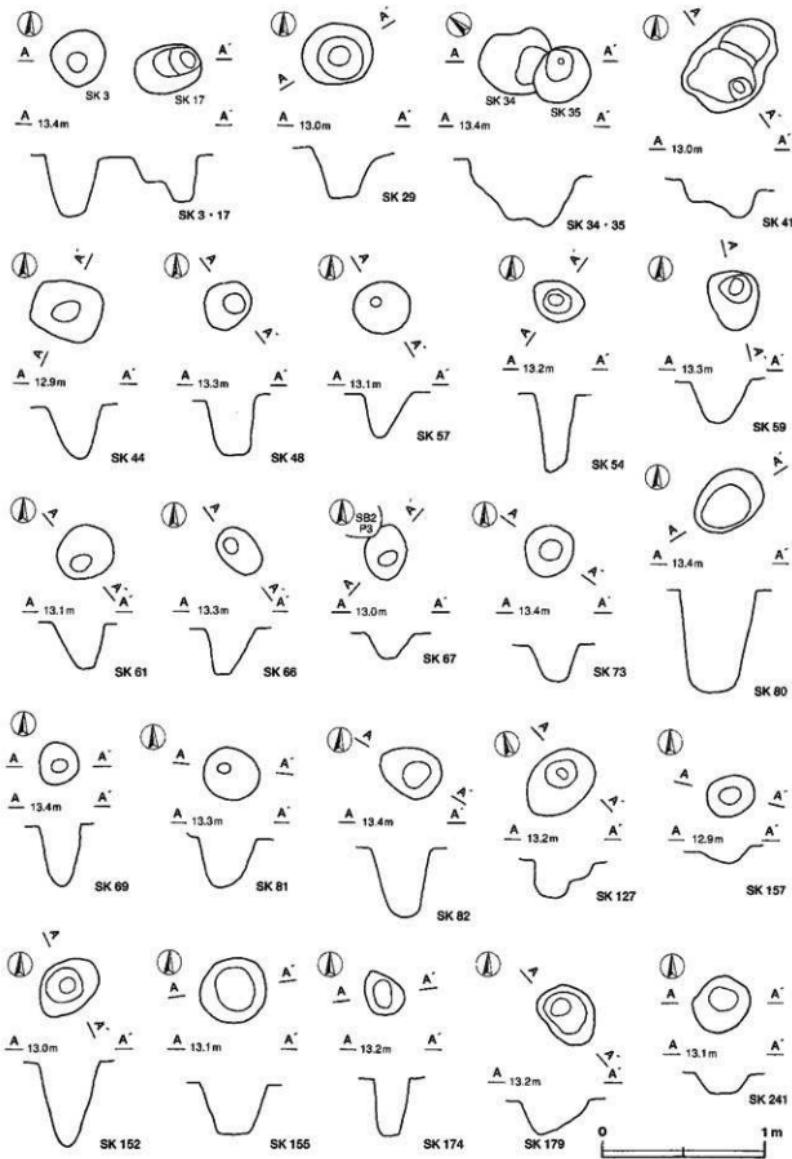
所見 時期は不明である。



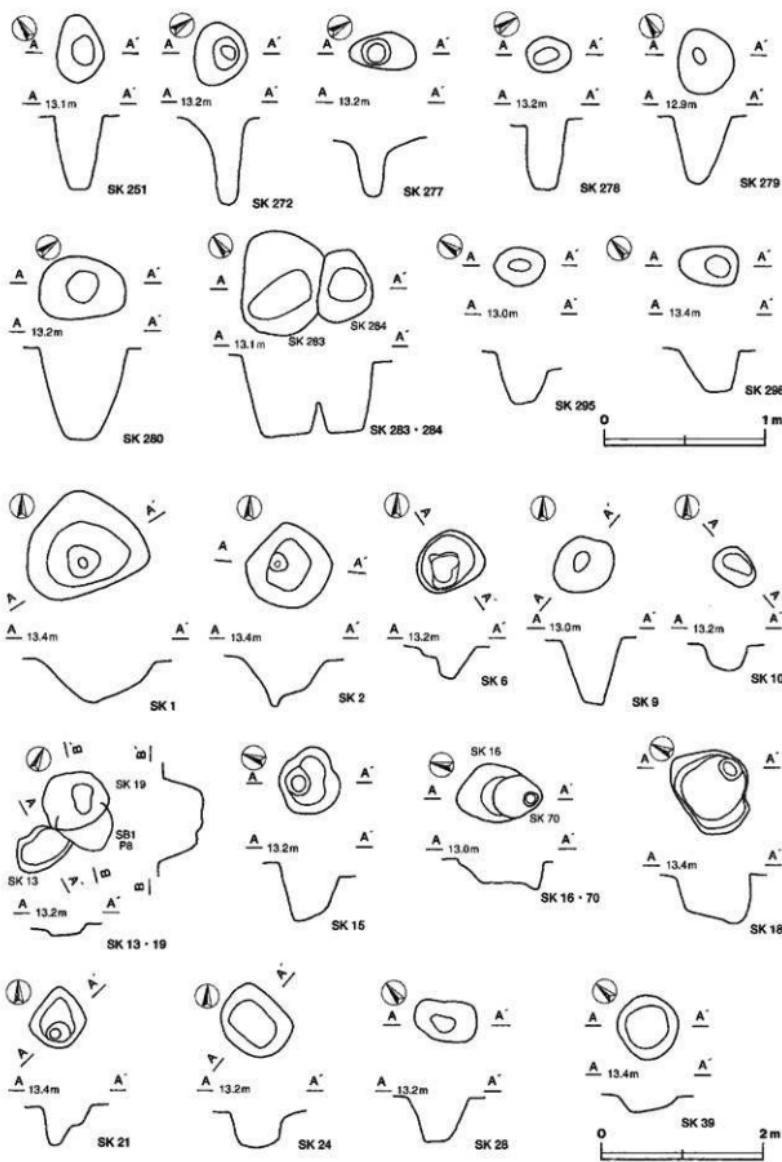
第68図 第2号方形堅穴遺構実測図

(3) 土坑(第69~75図)

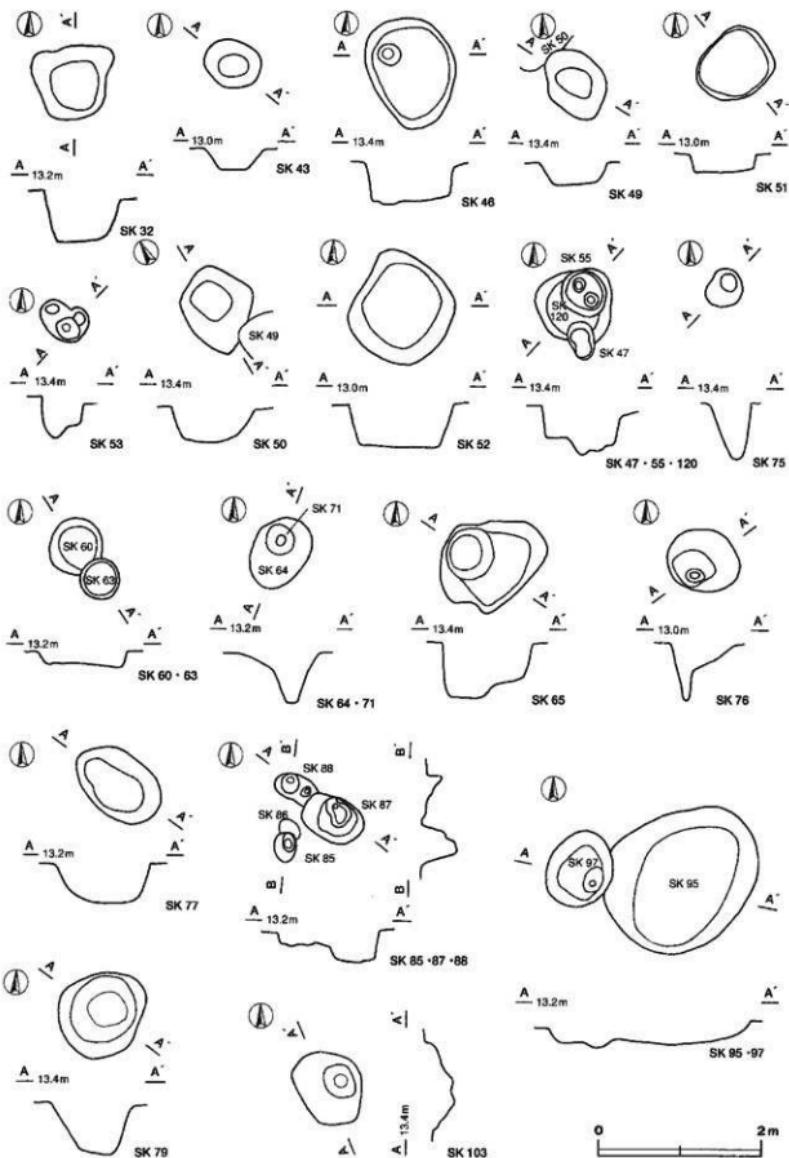
時期及び性格不明の土坑162基のほとんどが調査区中央部で検出された。以下、主な土坑の実測図を記載し、合わせて一覧表を記載する。



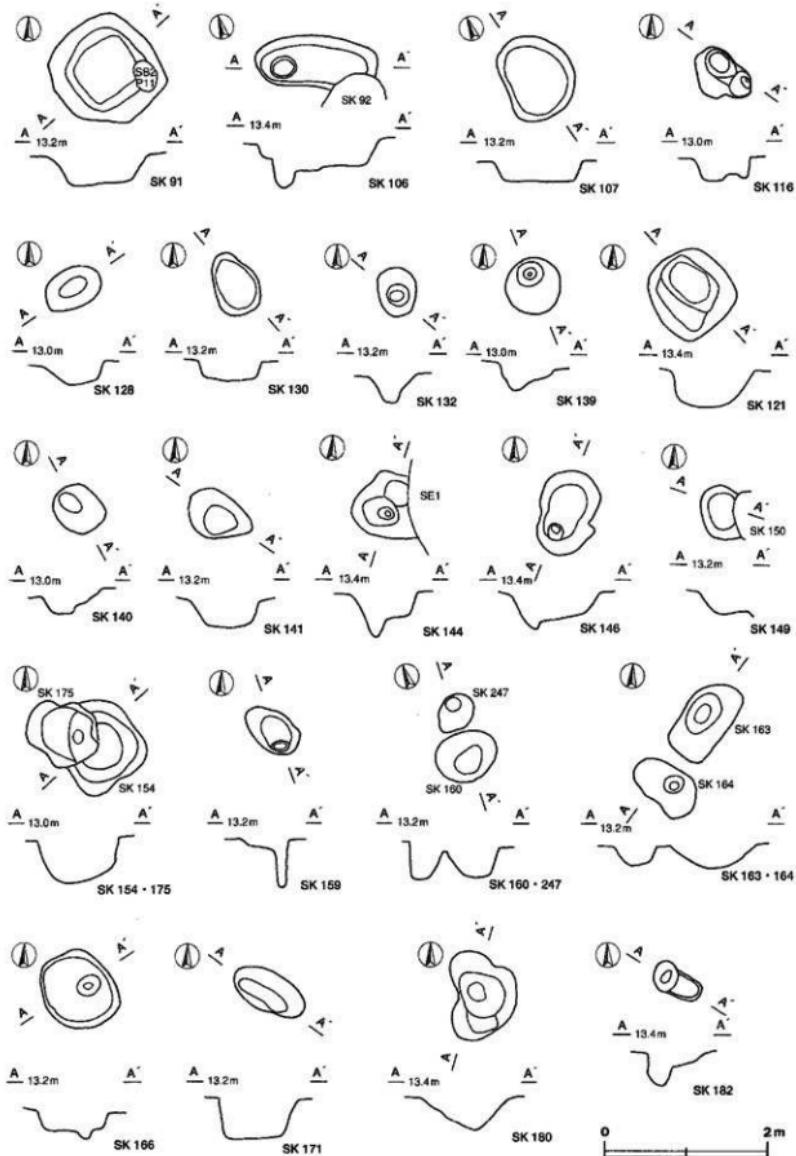
第69図 その他の土坑実測図(1)



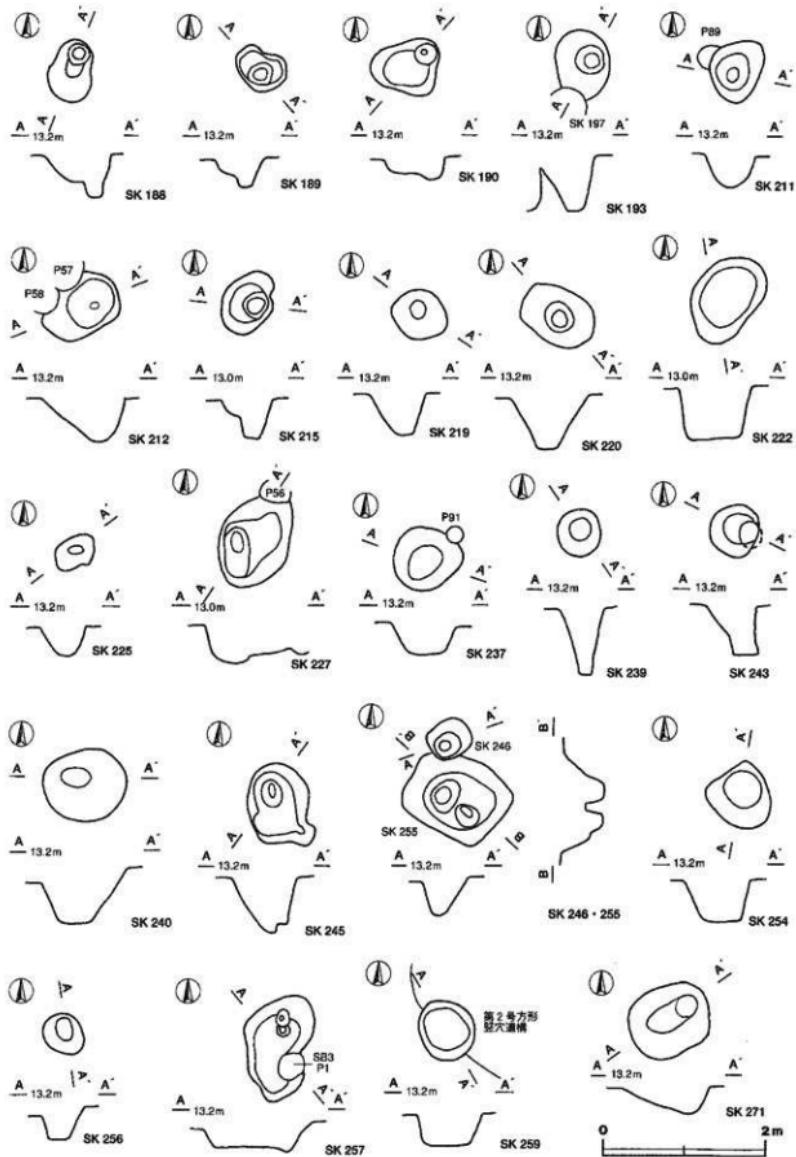
第70図 その他の土坑実測図(2)



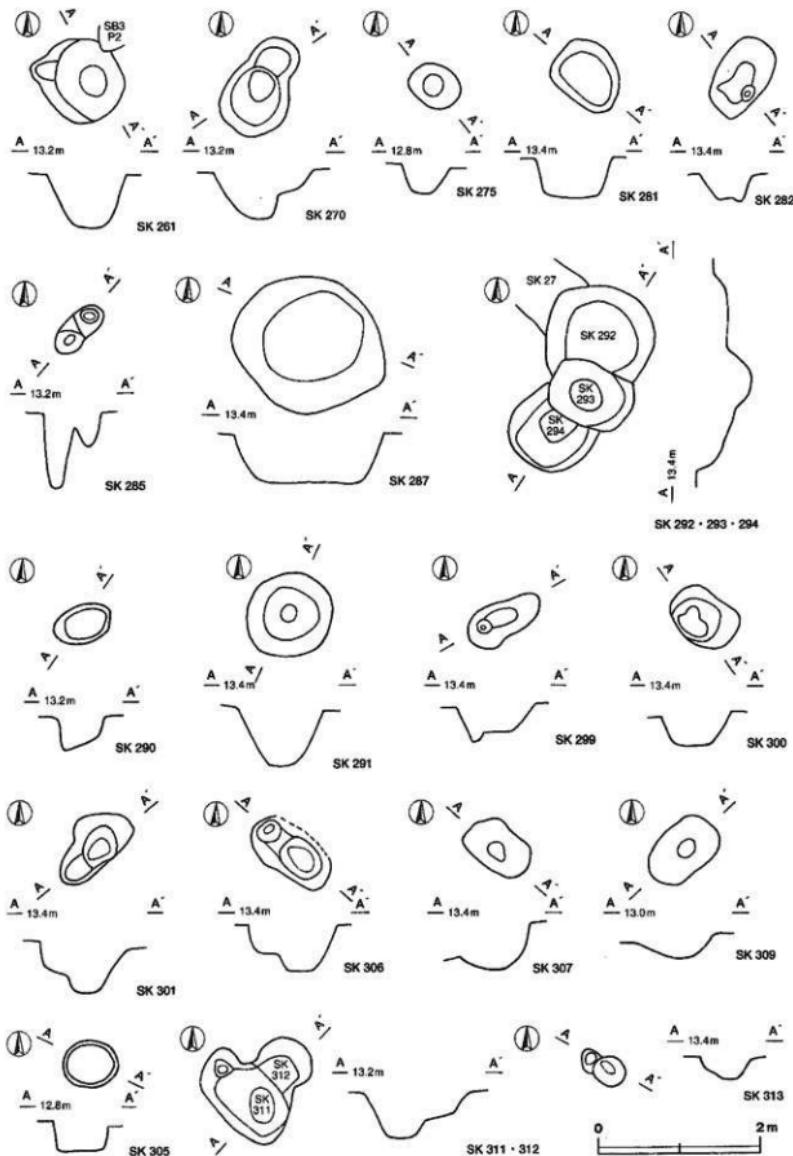
第71図 その他の土坑実測図(2)



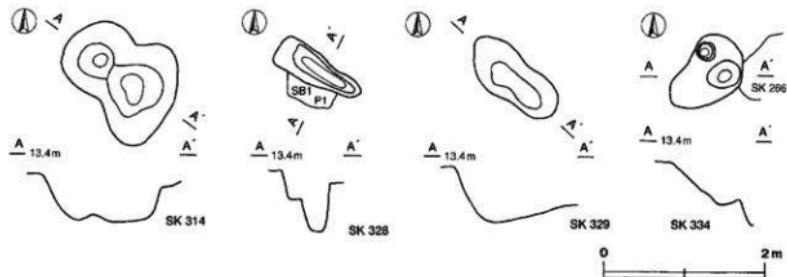
第72図 その他の上坑実測図(4)



第73図 その他の土坑実測図(5)



第74図 その他の土坑実測図(6)



第75図 その他の土坑実測図(7)

表10 その他の土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模 (m) (長径×短径)	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係 (旧→新)
1	B 3e3	N-48°-E	不整円形	1.30×1.22	55	緩斜	皿状	人為		
2	B 3g4		不整円形	1.02	58	緩斜	凹凸	人為		
3	B 3c5	—	円形	0.33	38	外傾	平坦	不明	土器	
6	B 3f2	N-48°-E	椭円形	0.81×0.72	43	段状	平坦	人為		
9	B 3h3	—	円形	0.80	81	外傾	皿状	人為		
10	B 3g2	N-46°-W	楕円形	0.56×0.39	33	外傾	皿状	人為	土器	
13	B 3f1	N-27°-E	椭円形	[0.65]×0.49	12	緩斜	平坦	不明		SK19→本跡→SB1
14	B 3j3	N-49°-W	不定形	0.82×0.76	55	外傾	皿状	人為		
15	B 3j5	—	円形	0.78	64	外傾	緩斜	人為		
16	B 3h2	N-12°-W	[楕円形]	[0.85]×0.72	20	緩斜	平坦	不明		本跡→SK70
17	B 3e5	N-83°-W	椭円形	0.42×0.30	29	外傾	平坦	不明	上部器	
18	B 3d3	N-39°-E	不定形	1.13×0.94	53	垂直	傾斜	人為	土器	
19	B 3f1	N-65°-E	椭円形	0.83×0.68	49	外傾	凹凸	人為	傾斜器	本跡→SB1, SK13
21	B 3e3	—	方形	0.62	27	外傾	平坦	人為		
24	B 3b7	N-44°-W	長方形	0.90×0.74	38	外傾	皿狀	人為		
27	B 3f4	N-37°-E	[円形]	[0.80]	55	外傾	皿状	人為		本跡→SK78-202
28	B 3i2	N-41°-E	長方形	0.77×0.50	56	外傾	平坦	人為		
29	B 3h7	N-82°-E	楕円形	0.45×0.39	30	外傾	平坦	人為		
32	B 3h4	N-2°-W	不整円形	0.90	56	外傾	皿状	人為		
34	B 3g4	N-39°-W	不整椭円形	[0.46]×0.35	29	緩斜	平坦	人為		本跡→SK35
35	B 3g4	N-46°-E	椭円形	0.38×0.31	32	緩斜	平坦	人為		SK34→本跡
39	B 3h4	—	円形	0.75	19	緩斜	緩斜	不明		
41	B 3j4	N-42°-E	不整椭円形	0.61×0.47	15	外傾	段状	小明	上部器	
43	B 3h7	N-73°-W	椭円形	0.70×0.58	26	緩斜	平坦	人為		
44	B 3j6	N-70°-W	長方形	0.43×0.35	32	外傾	V字状	人為		
46	B 3f3	N-26°-W	楕円形	1.39×1.06	49	外傾	平坦	人為		
47	B 3g3	N-20°-W	椭円形	0.48×0.30	不明	不明	不明	不明		SK120→本跡
48	B 3f5	—	円形	0.32	35	垂直	平坦	不明		
49	B 3f2	N-58°-W	不整椭円形	0.84×0.60	32	緩斜	平坦	人為		SK50→本跡
50	B 3f2	N-27°-W	椭円形	1.11×0.92	40	緩斜	平坦	人為		本跡→SK49
51	B 3i3	N-45°-E	椭円形	0.96×0.81	21	外傾	平坦	不明	土器	

番号	位置	長径方向	平面形	規模(m) (長径×短径)	深さ (cm)	縁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(III→I)
52	B3j4		方形	1.40	58	外傾	平坦	人為		
53	B3f4	N-40°-W	不定形	0.63×0.49	51	外傾	平坦	不明		
54	B3g6	N-56°-W	楕円形	0.32×0.25	49	垂直	傾斜	人為		
55	B3g3	—	円形	0.56	51	垂直	直状	人為	SK120→本跡	
57	B3g6	—	円形	0.35	26	外傾	V字状	人為		
59	B3g5	N-19°-W	楕円形	0.47×0.31	27	傾斜	直状	人為		
60	B3c3	—	[円形]	[0.67]	14	外傾	平坦	不明		本跡→SK63
61	B3g7	—	円形	0.35	30	外傾	平坦	人為		
63	B3e3	—	円形	0.50×0.47	21	外傾	平坦	人為	SK60→本跡	
64	B3h6	N-28°-E	楕円形	0.98×0.68	48	傾斜	V字状	人為	本跡→SK71	
65	B3e5	N-56°-E	不定形	1.41×1.12	69	外傾	平坦	人為		
66	B3h4	N-37°-W	楕円形	0.31×0.23	29	外傾	平坦	人為	土師器、須恵器	
67	B3h7	N-9°	楕円形	0.34×0.26	15	傾斜	平坦	不明		本跡→SB2
69	B3d4	—	円形	0.24	37	垂直	V字状	人為		
70	B3h2	N-12°-W	楕円形	0.60×0.39	30	傾斜	V字状	人為	SK16→小跡	
71	B3h6	—	円形	0.37	27	傾斜	平坦	人為	SK64→本跡	
73	B3e4	—	円形	0.30	26	外傾	平坦	人為		
75	B3e5	N-47°-E	楕円形	0.52×0.42	68	外傾	平坦	人為		
76	B3h7	N-53°-W	楕円形	0.91×0.79	71	傾斜	平坦	人為		
77	B3h4	N-32°-W	楕円形	1.17×0.76	33	傾斜	平坦	不明	土師器、須恵器	
79	B3g4	N-51°-E	楕円形	1.14×1.04	62	外傾	平坦	人為		
80	B3e4	N-55°-E	楕円形	0.46×0.35	59	垂直	平坦	人為		
81	B3e4	N-65°-W	楕円形	0.36×0.32	28	外傾	平坦	人為		
82	B3e1	N-59°-W	楕円形	0.38×0.30	41	外傾	平坦	人為		
85	B3h3	N-10°-E	[楕円形]	[0.36]×0.25	44	外傾	U字状	人為	土師器	SK86→本跡
87	B3h3	N-55°-W	不整楕円形	0.73×0.52	42	外傾	平坦	人為		SK88→本跡
88	B3g3	N-35°-W	不整楕円形	[0.44]×0.32	19	傾斜	段状	人為		本跡→SK87
91	B3g6	—	不整楕円形	1.30	37	傾斜	平坦	人為		本跡→SB2
95	B3f2	N-45°-E	楕円形	2.01×1.60	25	傾斜	圓状	人為		本跡→SK97
97	B3f2	N-10°-E	楕円形	0.94×0.84	20	傾斜	平坦	不明		SK95→本跡
103	B3g4	N-29°-W	楕円形	0.99×0.78	28	傾斜	凹凸	人為		
106	B3e4	N-67°-W	不定形	1.50×0.62	35	傾斜	平坦	人為		本跡→SK92
107	B3g7	N-27°-E	不整楕円形	1.07×0.88	26	外傾	平坦	人為		
116	B3h2	N-45°-W	不定形	0.77×0.56	29	外傾	平坦	人為		
120	B3g3	N-9°-E	不整凹形	1.00×0.96	40	垂直	平坦	人為		本跡→SK47・35
121	B3g3	—	方形	1.06×1.06	35	傾斜	匯狀	人為		
127	B3g5	N-52°-E	楕円形	0.47×0.36	24	外傾	平坦	人為		
128	B3h2	N-62°-E	椭円形	0.72×0.50	19	傾斜	平坦	人為		
130	B3g3	N-25°-W	楕円形	0.80×0.55	25	外傾	平坦	人為		
132	B3i5	N-8°-W	楕円形	0.60×0.50	35	傾斜	平坦	不明		
139	B3g2	—	円形	0.68	30	傾斜	V字状	人為		
140	B3h2	N-32°-W	楕円形	0.65×0.54	24	傾斜	平坦	人為		
141	B3h3	N-66°-W	不整楕円形	0.85×0.59	35	傾斜	平坦	人為		
144	B3e4	N-22°-E	[方形]	[0.80]	31	外傾	平坦	人為		本跡→SE1
146	B3f4	N-20°-E	不整楕円形	1.06×0.69	34	傾斜	傾斜	小明		
149	B3h2	N-16°-W	[楕円形]	[0.69]×[0.42]	30	外傾	平坦	不明		本跡→SK150

番号	位置	長径方向	平面形	規格 (m) (長径×短径)	深さ (cm)	断面 底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係 (旧→新)
152	B 3 g2	N - 47° - E	楕円形	0.44 × 0.31	37	垂直	U字状	人骨	
153	B 3 i 3	N - 37° - W	不定形	1.06 × 0.96	56	外傾	圓状	人骨	本跡→SK175
155	B 3 i 7	—	円形	0.42	30	外傾	平坦	不明	
157	B 3 i 3	N - 80° - E	楕円形	0.31 × 0.24	10	緩斜	圓状	不明	
159	B 3 g2	N - 47° - W	不整椭円形	0.74 × 0.47	17	緩斜	平坦	不明	
160	B 3 g3	N - 72° - E	楕円形	0.76 × 0.61	34	緩斜	平坦	不明	
163	B 3 d2	N - 36° - E	楕円形	1.03 × 0.60	30	緩斜	圓状	人骨	
164	B 3 d2	N - 43° - W	不整椭円形	0.86 × 0.51	21	外傾	凹凸	人骨	
166	B 3 h7	N - 40° - W	不整椭円形	1.00 × 0.87	25	垂直	平坦	人骨 土器	
171	B 4 h2	N - 60° - W	椭円形	0.96 × 0.49	51	外傾	平坦	不明	
174	B 3 i 3	N - 33° - W	椭円形	0.30 × 0.20	38	垂直	平坦	人骨	
175	B 3 i 3	N - 36° - W	不定形	0.93 × 0.73	32	緩斜	平坦	人骨	SK154→本跡
177	B 3 h3	N - 43° - W	椭円形	0.45 × 0.28	不明	不明	不明	不明	
178	B 3 g3	N - 40° - W	椭円形	0.41 × 0.33	24	外傾	傾斜	人骨	
180	B 3 e2	N - 27° - W	不定形	1.06 × 0.67	39	緩斜	圓状	人骨	
182	B 3 f3	N - 58° - W	不定形	0.70 × 0.38	17	外傾	平坦	不明	
188	B 4 d2	N - 18° - E	椭円形	0.71 × 0.57	53	緩斜	凹凸	不明	
189	B 4 d2	N - 30° - W	不定形	0.63 × 0.49	37	外傾	平坦	不明	
190	B 4 d2	N - 16° - E	不定形	0.81 × 0.68	20	外傾	平坦	不明	
193	B 4 d2	N - 15° - W	[椭円形]	[0.70] × 0.63	71	緩斜	平坦	不明	本跡→SK197
211	B 4 d2	N - 30° - E	不定形	0.82 × 0.63	40	緩斜	平坦	不明	P 89→本跡
212	B 4 d2	N - 49° - E	[椭円形]	[0.90] × [0.65]	53	緩斜	圓状	不明	本跡→P 37・58
215	B 4 e2	N - 35° - E	不整椭円形	0.83 × 0.62	46	外傾	平坦	不明	
219	B 4 e3	N - 66° - W	椭円形	0.72 × 0.58	51	緩斜	平坦	不明	
220	B 4 e3	N - 55° - W	椭円形	0.94 × 0.69	61	緩斜	平坦	不明	
222	B 4 e2	N - 47° - E	椭円形	1.13 × 0.75	65	外傾	平坦	不明	
225	B 4 d2	N - 53° - E	不整椭円形	0.54 × 0.39	37	緩斜	平坦	不明	
227	B 4 d2	N - 30° - E	[不整椭円形]	[1.24] × 0.90	48	緩斜	平坦	不明	本跡→P 56
237	B 4 d2	N - 37° - E	不定形	0.79 × 0.74	35	緩斜	平坦	不明	本跡→P 91
239	B 4 i 2	—	円形	0.55	82	外傾	平坦	不明	
240	B 4 e2	N - 77° - E	椭円形	1.03 × 0.91	60	緩斜	平坦	不明	
241	B 3 i 5	—	円形	0.35	13	緩斜	平坦	不明	
243	B 3 h5	—	円形	0.64	62	外傾	平坦	不明	
245	B 3 h1	N - 36° - E	不定形	1.00 × 0.75	67	外傾	平坦	不明	
246	B 3 g4	N - 57° - E	椭円形	0.55 × 0.45	47	緩斜	平坦	不明	SK255→本跡
247	B 3 g3	N - 55° - E	椭円形	0.50 × 0.41	39	緩斜	平坦	不明	
249	B 3 j 5	N - 78° - E	椭円形	0.82 × 0.64	44	外傾	圓状	不明	
251	B 3 i 5	N - 24° - E	椭円形	0.40 × 0.30	45	外傾	平坦	不明	
252	B 3 h5	N - 52° - E	椭円形	0.42 × 0.38	32	外傾	平坦	不明	
254	B 3 h5	N - 38° - W	不整椭円形	0.80 × 0.73	45	外傾	平坦	不明	
255	B 3 h4	N - 53° - W	椭円形	1.20 × 1.02	32	外傾	平坦	不明	本跡→SK246
256	B 3 h4	N - 16° - W	椭円形	0.52 × 0.46	37	緩斜	平坦	不明	
257	B 3 h5	N - 22° - E	不定形	1.35 × 0.85	28	緩斜	平坦	不明	本跡→SB 3
259	B 3 h6	N - 32° - W	椭円形	0.81 × 0.68	35	外傾	平坦	不明	方形整穴 2 → 本跡
261	B 3 h6	N - 41° - W	不整椭円形	1.05 × 0.95	64	緩斜	平坦	不明	本跡→SB 3
270	B 3 i 3	N - 34° - E	不定形	1.26 × 0.82	58	緩斜	平坦	不明	鉄製器

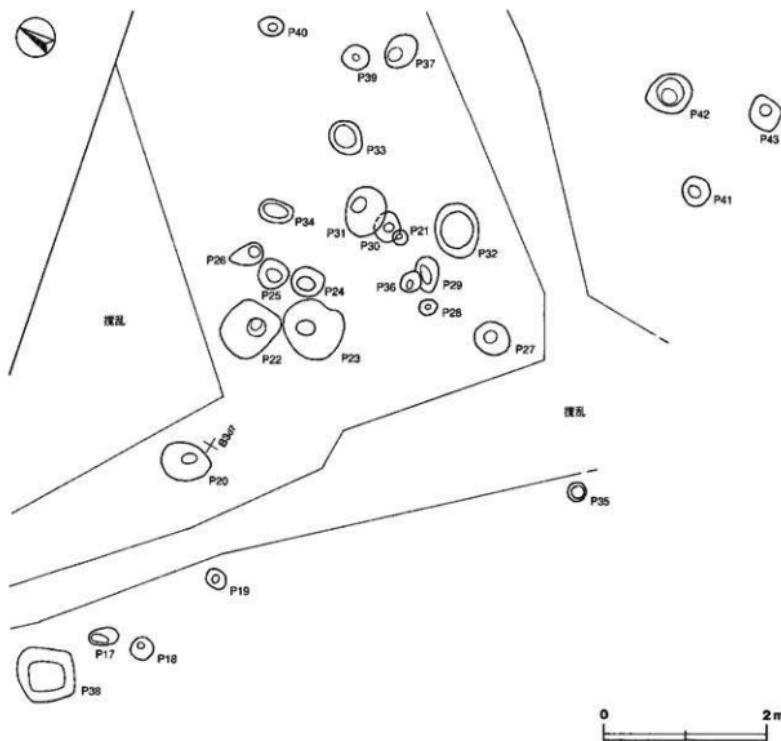
番号	位置	長径方向	平面形	規模 (m) (長径×短径)	深さ (cm)	裏面	底面	覆土	出土遺物	備考 新田関係 (II→新)
271	B 3 b4	N - 53° - E	楕円形	1.03 × 0.85	35	縦斜	平坦	不明		
272	B 3 g4	—	円形	0.36	52	垂直	平坦	不明		
275	B 3 h5	N - 61° - W	楕円形	0.64 × 0.51	35	縦斜	平坦	不明		
277	B 3 g7	N - 19° - E	楕円形	0.42 × 0.23	34	外傾	V字状	不明		
278	B 3 g4	N - 25° - E	楕円形	0.25 × 0.21	41	垂直	平坦	不明		
279	B 3 g4	—	円形	0.35	41	外傾	皿状	不明		
280	B 3 g4	N - 35° - E	楕円形	0.53 × 0.37	56	外傾	平坦	不明		
281	B 3 c3	N - 44° - W	不整椭円形	0.91 × 0.68	50	外傾	平坦	不明		
282	B 3 f5	N - 40° - E	楕円形	1.01 × 0.65	41	縦斜	平坦	不明		
283	B 3 g7	—	【不整内形】	[0.62]	48	外傾	平坦	不明	本跡→SK284	
284	B 3 g7	N - 38° - E	不整椭円形	0.45 × 0.32	47	垂直	平坦	不明	SK283→本跡	
285	B 3 g7	N - 41° - E	不定形	0.73 × 0.33	92	外傾	平坦	不明		
287	B 3 f5	N - 86° - E	不定形	1.98 × 1.70	62	縦斜	平坦	不明		
290	B 3 b4	N - 66° - E	不定形	0.75 × 0.48	41	外傾	縦斜	不明		
291	B 3 g5	—	円形	1.10	70	縦斜	平坦	不明		
292	B 3 f5	N - 62° - W	【楕円形】	1.32 × [0.94]	19	縦斜	平坦	不明	SK27→本跡→SK293	
293	B 3 g4	N - 53° - W	楕円形	1.04 × 0.74	54	縦斜	凹凸	不明	SK292→294→本跡	
294	B 3 g4	N - 44° - W	【楕円形】	1.01 × [0.73]	48	外傾	V字状	不明	本跡→SK293	
295	B 3 i4	N - 36° - W	楕円形	0.31 × 0.23	28	外傾	平坦	不明		
296	B 3 g6	N - 50° - W	不整椭円形	0.36 × 0.25	25	外傾	平坦	不明		
299	B 3 g5	N - 63° - E	楕円形	0.99 × 0.45	36	外傾	平坦	不明		
300	B 3 g5	N - 52° - W	楕円形	0.89 × 0.62	36	縦斜	平坦	不明		
301	B 3 h5	N - 44° - E	不定形	1.09 × 0.62	58	縦斜	平坦	不明		
304	B 3 i6	—	円形	0.38	41	縦斜	平坦	不明		
305	B 3 i6	N - 58° - W	椭円形	0.64 × 0.57	35	垂直	平坦	不明		
306	B 3 e4	N - 53° - W	【椭円形】	1.12 × [0.56]	56	縦斜	平坦	不明		
307	B 3 d4	N - 51° - W	椭円形	0.90 × 0.55	57	外傾	平坦	不明		
308	B 3 f3	N - 23° - E	椭円形	0.36 × 0.25	46	外傾	V字状	不明		
309	B 3 i2	N - 45° - E	椭円形	0.95 × 0.61	26	縦斜	平坦	不明	上部器、須恵器	
311	B 3 b4	N - 44° - W	【不定形】	1.31 × [0.75]	70	外傾	平坦	不明	SK312→本跡	
312	B 3 h4	N - 45° - E	【不定形】	0.65 × [0.57]	32	縦斜	平坦	不明	本跡→SK311	
313	B 3 e2	N - 44° - W	不定形	0.61 × 0.34	27	縦斜	皿状	不明		
314	B 3 d2	N - 44° - W	不定形	1.51 × 0.93	66	縦斜	皿状	不明		
328	B 3 e4	N - 44° - W	不定形	1.15 × 0.61	74	垂直	皿状	不明	SB 1 → 本跡	
329	B 3 d5	N - 52° - W	椭円形	1.28 × 0.60	70	外傾	縦斜	不明		
330	B 3 f3	N - 34° - W	椭円形	0.50 × 0.42	不明	不明	不明	不明		
334	B 3 g6	N - 45° - E	椭円形	0.41 × 0.30	57	縦斜	V字状	不明	SK266→本跡	
335	B 3 f3	N - 35° - E	椭円形	0.38 × 0.32	12	縦斜	平坦	不明		
336	B 3 f3	N - 82° - E	椭円形	0.48 × 0.34	11	縦斜	平坦	不明		

(4) ピット群

当遺跡の調査区東側では二つのピット群が検出された。以下、実測図と一覧表を記載する。また、検出されたピット群からはいずれも遺物が出土していないため時期は不明であり、掘立柱建物跡などの規則性を見つけることができないためピット群として扱った。

第1号ピット群（第76図）

調査区東側のB 3 c 6区～B 3 e 8区から27基のピットが検出された。平面形は径20～90cmほどの円形または楕円形で、深さは8～63cmである。ピット群の中央部に調査区域外から南東方向と南北方向に延びる溝状の擾乱があり、ピット全体の様相を確認することができなかった。



第76図 第1号ピット群実測図

第2号ピット群（第77図）

調査区東側で、第1号ピット群よりさらに東側のB 4 b1区～B 4 e2区の範囲で46基のピットが検出された。平面形は径15～66cmほどの円形または楕円形で、深さは6～71cmほどである。ピット群の中央部に調査区域外から東西方向に延びる水道管理設による擾乱がある。第51・58号ピットからは土師質土器の細片が、第89号ピットからは瓦質土器の細片が出土している以外は、検出されたピット群からはいずれも遺物が出土していないため時期は不明である。



第77図 第2号ピット群実測図

表11 第1号ピット群ピット一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模 (m) (長径×短径)	深さ (cm)	断面形	出土遺物	備考
17	B 3 d6	N - 45° - W	楕円形	0.37 × 0.23	27	U字状		
18	B 3 d6	—	円 形	0.28	18	V状		
19	B 3 d6	N - 25° - E	楕円形	0.28 × 0.23	20	U字状		
20	B 3 c6	N - 24° - E	楕円形	0.60 × 0.47	28	V状		
21	B 3 d7	—	円 形	0.20	14	V字状		
22	B 3 c7	—	不整円形	0.90	23	U字状		
23	B 3 d7	—	不整円形	0.80	46	U字状		
24	B 3 c7	—	円 形	0.39	15	V状		

番号	位置	長径方向	平面形	規模 (m) (長径×短径)	深さ (cm)	断面形	出土遺物	備考
25	B 3 c7	—	円形	0.41	63	U字状		
26	B 3 c7	N - 43° - W	楕円形	0.43 × 0.25	32	U字状		
27	B 3 d7	N - 76° - E	楕円形	0.45 × 0.39	14	皿状		
28	B 3 d7	—	円形	0.21	16	皿状		
29	B 3 d7	N - 58° - E	【楕円形】	0.42 × [0.31]	29	U字状		
30	B 3 d7	N - 7° - E	【楕円形】	0.38 × [0.30]	32	U字状		
31	B 3 d7	N - 64° - E	楕円形	0.62 × 0.50	22	皿状		
32	B 3 d7	N - 61° - E	楕円形	0.68 × 0.56	13	皿状		
33	B 3 d7	N - 34° - E	楕円形	0.47 × 0.39	39	U字状		
34	B 3 c7	N - 22° - W	楕円形	0.42 × 0.27	8	皿状		
35	B 3 e7	—	円形	0.24	51	円筒状		
36	B 3 d7	—	円形	0.26	21	皿状		
37	B 3 c8	N - 78° - W	楕円形	0.46 × 0.32	23	U字状		
38	B 3 c8	—	不整圓形	0.83	19	U字状		
39	B 3 c8	—	円形	0.32	25	U字状		
40	B 3 c8	N - 12° - W	楕円形	0.32 × 0.24	16	皿状		
41	B 3 d8	—	円形	0.36	15	皿状		
42	B 3 d8	N - 38° - W	楕円形	0.58 × 0.48	12	皿状		
43	B 3 d8	—	不整圓形	0.47	19	U字状		

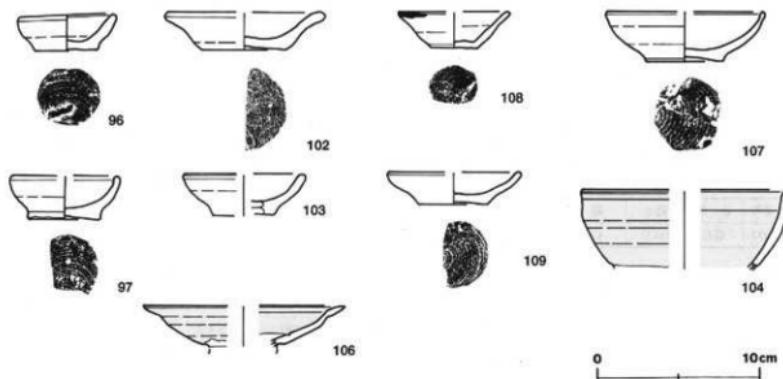
表12 第2号ピット群ピット一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模 (m) (長径×短径)	深さ (cm)	断面	出土遺物	備考
44	B 4 b2	N - 29° - W	小整圓形	0.41 × 0.32	34	U字状		
45	B 4 b2	—	円形	0.28	30	U字状		
46	B 4 b2	N - 23° - E	不整圓形	0.66 × 0.32	46	U字状		
47	B 4 c2	N - 78° - E	楕円形	0.55 × 0.40	30	U字状		
48	B 4 c2	—	円形	0.24	17	U字状		
49	B 4 c2	N - 28° - E	楕円形	0.32 × 0.23	35	円筒状		
50	B 4 c2	N - 40° - W	楕円形	0.35 × 0.29	36	円筒状		
51	B 4 c3	—	【円形】	[0.22]	18	皿状	上部質土器、炭	
52	B 4 c2	N - 80° - E	【楕円形】	0.39 × [0.20]	21	U字状		
53	B 4 c2	N - 75° - E	楕円形	0.43 × 0.35	22	U字状		
54	B 4 c2	—	円形	0.30	31	U字状		
55	B 4 d2	N - 18° - E	楕円形	0.27 × 0.19	37	円筒状		
56	B 4 d2	N - 75° - W	楕円形	0.35 × 0.29	36	U字状		
57	B 4 d2	N - 25° - E	楕円形	0.55 × 0.33	62	円筒状		
58	B 4 d2	N - 55° - E	楕円形	0.41 × 0.34	33	円筒状	上部質土器	
60	B 4 d2	N - 42° - W	楕円形	0.23 × 0.16	6	皿状		
61	B 4 d2	N - 59° - W	楕円形	0.49 × 0.40	49	U字状		
62	B 4 d1	—	円形	0.24	14	皿状		
63	B 4 d2	N - 19° - E	楕円形	0.21 × 0.16	7	皿状		
64	B 4 d2	—	円形	0.17	9	皿状		
65	B 4 d2	N - 10° - E	楕円形	0.25 × 0.20	15	皿状		
66	B 4 d2	N - 21° - E	楕円形	0.38 × 0.27	37	U字状		
67	B 4 d1	—	円形	0.03	31	U字状		

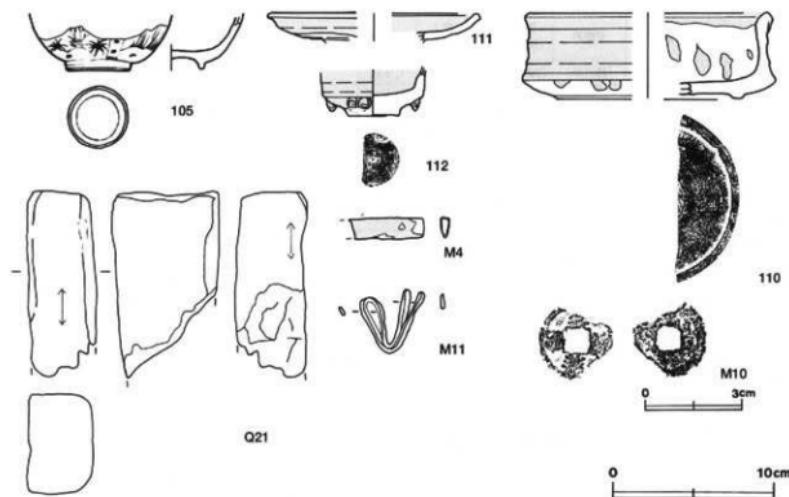
番号	位置	長径方向	平面形	規模 (m) (長径×短径)	深さ (cm)	壁面	出土遺物	備考
68	B 4 d1	N - 69° - E	〔橢円形〕	[0.28] × 0.21	41	U字状		
69	B 4 d1	N - 80° - E	橢円形	0.23 × 0.19	22	U字状		
70	B 4 d1	—	円 形	0.21	26	U字状		
71	B 4 d2	N - 42° - W	橢円形	0.45 × 0.26	71	円筒状		
72	B 4 d2	—	円 形	0.22	20	U字状		
73	B 4 e2	—	円 形	0.23	8	皿状		
74	B 4 e2	—	円 形	0.33	56	U字状		
75	B 4 d2	—	円 形	0.20	不明	不明		
76	B 4 e2	N - 46° - W	〔円 形〕	[0.30]	29	U字状		
77	B 4 e2	N - 46° - W	橢円形	0.31 × 0.24	29	U字状		
78	B 4 d1	—	円 形	0.15	16	U字状		
79	B 4 e1	N - 62° - E	橢円形	0.22 × 0.18	28	U字状		
80	B 4 e1	—	円 形	0.19	15	U字状		
81	B 4 e1	N - 33° - E	〔橢円形〕	[0.21 × 0.17]	15	皿状		
82	B 4 e1	N - 0°	橢円形	0.38 × 0.27	15	皿状		
83	B 4 e1	N - 49° - W	橢円形	0.24 × 0.20	13	U字状		
85	B 4 e1	—	円 形	0.17	16	U字状		
86	B 4 e1	—	円 形	0.23	25	U字状		
87	B 4 e1	N - 29° - W	橢円形	0.29 × 0.23	31	U字状		
88	B 4 e1	N - 34° - W	橢円形	0.21 × 0.17	19	U字状		
89	B 4 d2	—	〔円 形〕	[0.30]	9	皿状 瓦質土器		
90	B 4 d2	—	円 形	0.22	39	円筒状		
91	B 4 d2	—	円 形	0.21	16	U字状		

(5) 遺構外出土遺物 (第78・79図)

当遺跡での試掘、表土除去、遺構確認の段階で、遺構に伴わない遺物が出土している。以下、主な遺物について実測図及び出土遺物観察表を記載する。



第78図 遺構外出土遺物実測図(1)



第79図 遺構外出土遺物実測図(2)

遺構外出土遺物観察表 (第78・79図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手法の特徴	出土位置	備 考	
96	土師質土器	小皿	5.7	2.2	4.4	長石・雲母・赤色	にぶい粒	普通	底部回転糸切り、体部内・外面	B3区確認面	100% PL21	
97	土師質土器	小皿	[6.4]	2.7	4.3	長石・雲母・赤色	にぶい粒	普通	底部回転糸切り、体部内・外面	B3区確認面	45%	
102	土師質土器	小皿	[9.4]	2.3	5.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい粒	普通	底部回転糸切り、体部内・外面	B3区確認面	45%	
103	土師質土器	小皿	[7.2]	2.5	[3.8]	長石・雲母・赤色	にぶい粒	普通	底部回転糸切り、体部内・外面	B3区確認面	30%	
107	土師質土器	小皿	[9.6]	3.1	4.8	長石・雲母・赤色	にぶい粒	普通	底部回転糸切り、体部内・外面	B4区確認面	60%	
108	土師質土器	小皿	[6.8]	2.2	3.0	雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り、体部内・外面	B4区確認面	40%	
109	土師質土器	小皿	[8.0]	2.0	4.4	長石・雲母・赤色	にぶい粒	普通	底部回転糸切り、体部内・外面	B4区確認面	35%	
104	陶器	天目繩	[12.8]	(4.8)	-	赤色粒子・砂粒	黒褐	にぬき	良好	口唇部削り、外反、鉄輪	B3区確認面	10% 施口・美濃系
105	磁器	碗	-	(3.5)	3.8	砂粒	灰白	良好	底部外周部丸抜、發付砂付着、発付、透明感	B3区確認面	35% 発付前系	
106	磁器	小皿	[12.6]	(2.6)	-	砂粒	明礬灰・灰白	良好	見込み輪壳	B3区確認面	10% 肥前系	
110	磁器	香炉	[14.8]	5.3	[11.6]	砂粒	褐	良好	割り出し高台、口唇部から体部	B4区確認面	40% PL25 施口・美濃系	
111	陶器	小皿	[13.0]	(1.8)	-	長石・砂粒	オリーブ黄	良好	内面・口辺部外面灰釉	B4区確認面	施口・美濃系	
112	磁器	香炉	-	(2.9)	3.2	砂粒	明礬灰・灰白	良好	面引出・高台、唇口に砂粒、体部下端の空洞部に-反筋文、青磁器	B4区確認面	25% PL25 施口・美濃系	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重 量	材 質	特 徴	出 土 位 置	備 考
Q21	砾石	(11.5)	4.3	6.7	(507.6)	凝灰岩	底面 2 面	B2区確認面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重 量	材 質	特 徴	出 土 位 置	備 考
M4	小柄(鞘)	(4.6)	1.3	0.5	(8.0)	銅	銅に漆塗り	B2区確認面	PL25
M11	不明鑄製品	4.0	3.9	0.2	12.1	銅	中心部より端部が幅広い、毛抜きカ	B3区確認面	PL25

番号	銭名	径	孔 幅	重 量	初 誇 年	材 質	出 土 位 置	備 考
M10	不明	[2.5]	0.8	(1.7)	不明	銅	B3区確認面	

第4節 まとめ

前畠遺跡は、乙戸川とその支流の合流地左岸の標高23~24mの台地から標高14m前後の低位段丘上に位置している。今回の調査は、遺跡全体から見て南側一部分の低位段丘上の調査であり、北部に広がる未調査区に遺跡の中心が存在している可能性が高い。

今回の調査では、中世・近世の掘立柱建物跡3棟、井戸跡5基、溝跡2条、方形堅穴遺構1基、土坑57基の他に、時期不明の溝跡2条、方形堅穴遺構1基、土坑162基、ピット群2か所が検出された。ここでは、概略を述べてまとめとしたい。

1 遺構について

(1) 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡は、調査区中央部の北側に位置している東西棟である。柱筋は通っているが、柱穴の掘方は円形や楕円形で、深さは一定ではない。また、柱間も擁わないことから、礎石の存在が想定され、構造なども検討しなければならない。本跡の柱穴（P3・P4・P6・P8・P9・P11）の底面には硬化面が確認されているが、掘方の規模や硬化面の大きさなどから堅牢な上屋構造は考えにくく、軽量なもののが保管庫的な役割を果たしていたものと考えられる。調査区中央部北側で、掘立柱建物跡として復元できたのは1棟であるが、本跡の周囲には似たような掘方をもつ土坑が確認されており、その中には底面に硬化面をもつものも認められたが、掘立柱建物跡としての規則性を見いだすには至らなかった。しかし、本跡の時期を前後して何期にもわたって掘立柱建物が建てられてきたことを窺わせる資料である。

第2号掘立柱建物跡と第3号掘立柱建物跡は南北棟であり、調査区中央部南側で隣接するように確認された。第2号掘立柱建物跡は西へ24度、第3号掘立柱建物跡は西へ33度掘れており、10度ほど軸はずれしているが、桁行3間、梁間2間という構造などから時期が近いものと判断できる。この2棟付近でも、掘方が類似し底面に硬化面をもつ土坑が確認されているが、掘立柱建物跡としての規則性を見いだすことはできなかった。

(2) 井戸跡

井戸跡5基はいずれも調査区中央部北側に位置している。第1号井戸跡は円筒状に掘り込まれており、小皿の細片が出土している。第3号井戸跡は65cmほど漏斗状に掘り込んでから円筒状に掘り込んでいる。この井戸跡からは土器質土器8点（小皿）、木材1点（枕）が出土している。第4号井戸跡も円筒状に掘り込まれており、第5号井戸跡は90cmほど漏斗状に掘り込んでから円筒状に掘り込んでおり、小皿の細片が出土している。いずれの井戸跡も明確に時期決定するだけの出土遺物がなく、概ね中世以降と判断するに留まった。また、井戸に伴う構築材の出土が無く、埋め戻しの段階で構築物が取り外された可能性も高く、素掘りの状態で使用された可能性も否定できない。

当遺跡で確認された井戸跡の中で、最も重要なと思われるが第2号井戸跡である。ほぼ垂直に掘り込まれており、井戸枠が出土している。出土した井戸枠は8枚の板材と4本の支柱、支柱を支える4本の横木で構成されており、枠材の裏込めには木材が腐食したと思われる黒色土が認められ、当遺跡のなかでも重要な井戸として使用されたことが窺える。しかし、木材以外の遺物は出土していないため時期などについては不明である。

(3) 溝跡

時期の判断できた溝跡が2条確認されている。第1号溝跡は調査区東部の北側に位置しており13.6mほどが確認された。出土遺物は土器質土器片や陶器片の他に石製品（宝鏡印塔、砥石）も出土している。

第2号溝跡は、調査区中央部の西寄りを南北に走っており、双端部は調査区域外に伸びているが320mほどが確認された。溝内からは土師質土器片1008点をはじめ、瓦質土器46点、陶器76点、磁器34点、石製品112点、金属製品6点、木製品82点などが出土している。

第1号・2号溝跡は、いずれも南北を主軸とする溝であり、断面形も同様な逆台形であることから、区画溝の可能性も認められるが、共に全体像を明らかにすることができなかつたため性格については不明である。

(4) 土坑

出土遺物などから中・近世と判断できた土坑は57基である。長径は0.30m～3.35m、短径は0.25m～180mで、形状も円形、梢円形、不整梢円形、不定形とさまざま、出土遺物が少ないとことなどから性格はいずれも不明である。しかし、土師質土器で内耳土器類が出土している土坑の中には、埋葬の際に日常用器具を頭部に被せた例もある¹⁾ことから墓壙の可能性も考慮できるが、確認は得られなかつた。また、底面に硬化面が確認された土坑もあり、柱穴とも考えられるが、これらの土坑の周囲には掘立柱建物跡としての規則性を見つけることができなかつた。

2 出土遺物について

第1号溝跡からは、土師質土器片や陶器片の他に宝鏡印塔などの石製品が出土している。宝鏡印塔は鎌倉時代中期ごろから造塔信仰と結びついた密教系の人々によって樹立されたと考えられるが、今回の調査では、これらに結びつくような遺物や関連構造は確認はできなかつた。

第2号溝跡からは、土師質土器片1008点をはじめ、瓦質土器、陶器、磁器などが出土しているが、出土状況からいずれも投棄されたものと考えられる。出土遺物の大半を占めるのは土師質土器で、中でも16世紀後半から17世紀後半の在地産である土鍋類（内耳鍋・焙烙力）の出土数が多く、体部内面に機描文様を有するもの²⁾や内耳を貼り付けている口縁部平坦面に「×」状の刻み印のある特徴的なものも出土している³⁾。また、陶磁器類で産地特定が可能であったものは、図示できなかつたものも含めて73点であり、内訳は、瀬戸・美濃系が51点で全体の69.8%を占め、次いで肥前系が20点で27.3%、残りは信楽系と思われる。出土遺物の多くは日常の什器類であり、時期的には16世紀代から17世紀後半で、この溝の周辺に生活の場があつたことを裏付ける資料といえる。

第1号掘立柱建物跡からの出土遺物の時期と第2号溝跡から出土した小皿や土鍋類（内耳鍋・焙烙力）、陶磁器類の時期がほぼ同時期であり、各遺構は少なくとも数期の間存続したものと考えられるが、今回の調査ではそれを裏付けるだけの明確な資料を確認することはできなかつた。しかし、一般的な農村集落のようなものではないと遺構や遺物からも判断できるが、断定できるものではない。

註

1) 桜井二郎・渡辺和子「竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書2 外八代遺跡」「茨城県教育財團文化調査財報告」第2集 茨城県教育財團 1980年3月

2) 注1) に同じ。第1号不明遺構で、同じような機描き文様のある土師質土器（焙烙）が報告されている。

3) 白田正子「(仮称) 萱丸地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書II 三度山遺跡・古窯敷遺跡」「茨城県教育財團埋蔵文化財調査報告」第132集 茨城県教育財團 1998年3月 なお、白田氏は、古窯敷遺跡の第14号土坑出土の「×」状の刻み印について、「三つの耳のバランスを取るための痕跡か、バランスを取る方法として「×」の耳に印をつけ、残りの二つの耳の位置を決定したもののか、いずれにしても耳の位置を決める際の印ではないかと思われる。」と述べている。(白田正子「茨城県における中世末期から近世にかけての土師質内耳上器について—つくば市古窯敷遺跡の出土例を中心として—」『研究ノート』7号 茨城県教育財團 1998年6月)

写 真 図 版

ヲサル下遺跡



遺構確認状況

PL1



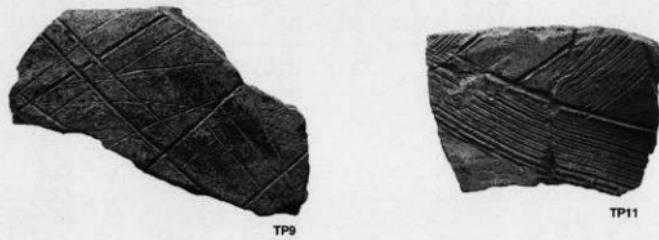
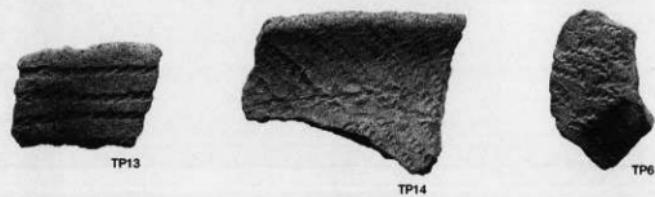
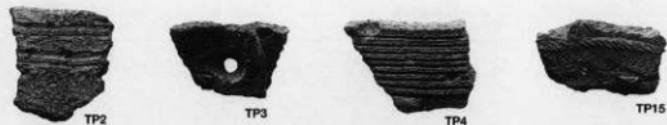
調査前遺跡遠景



グリッドA-7区
遺物出土状況



第1号道路跡
土層断面



遺物包含層出土繩文土器

写 真 図 版

反 子 遺 跡



調査終了状況



第1号住居跡
完掘状況



第1号住居跡
完掘状況



第1号住居跡
遺物出土状況

PL4



第2号住居跡
完掘状況



第3号住居跡
完掘状況



第3号住居跡
完掘状況



第4号住居跡
完掘状況



第4号住居跡
遺物出土状況



第4号住居跡
遺物出土状況

PL6



第5号住居跡
完掘状況



第5号住居跡
完掘状況



第5号住居跡
遺物出土状況



第5号住居跡
遺物出土状況



第5号住居跡
遺物出土状況



第6号住居跡
完掘状況

PL8



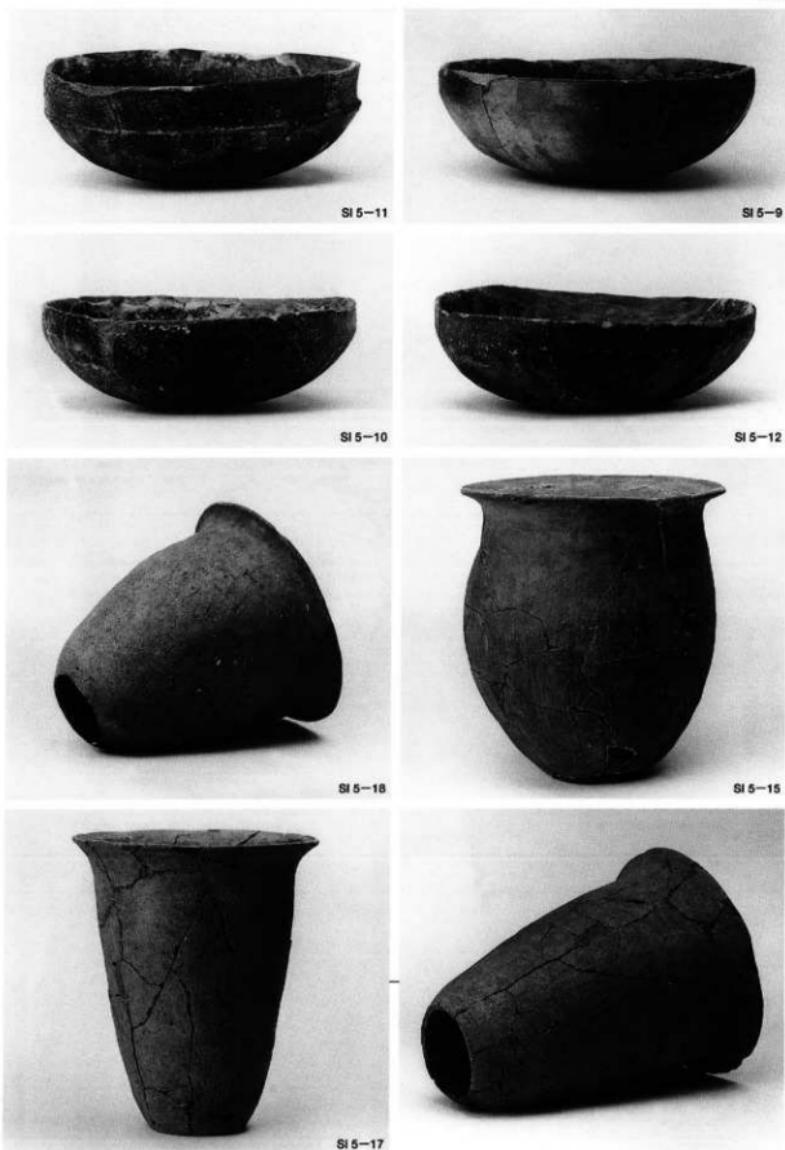
第 1 号 土 坑
遺 物 出 土 状 況



第 3 号 土 坑
遺 物 出 土 状 況



第 1 号 溝 跡
遺 物 出 土 状 況



第5住居跡出土遺物

PL10



SI 6-19



SI 4-26



SI 6-20



SD 1-38



SI 4-25



SI 4-27



SI 4-29



SI 6-24

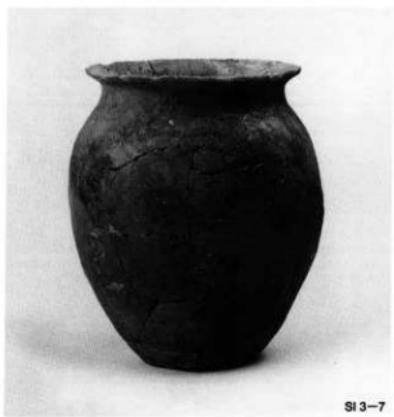




SK 1-33



SI 6-21



SI 3-7



SI 6-22

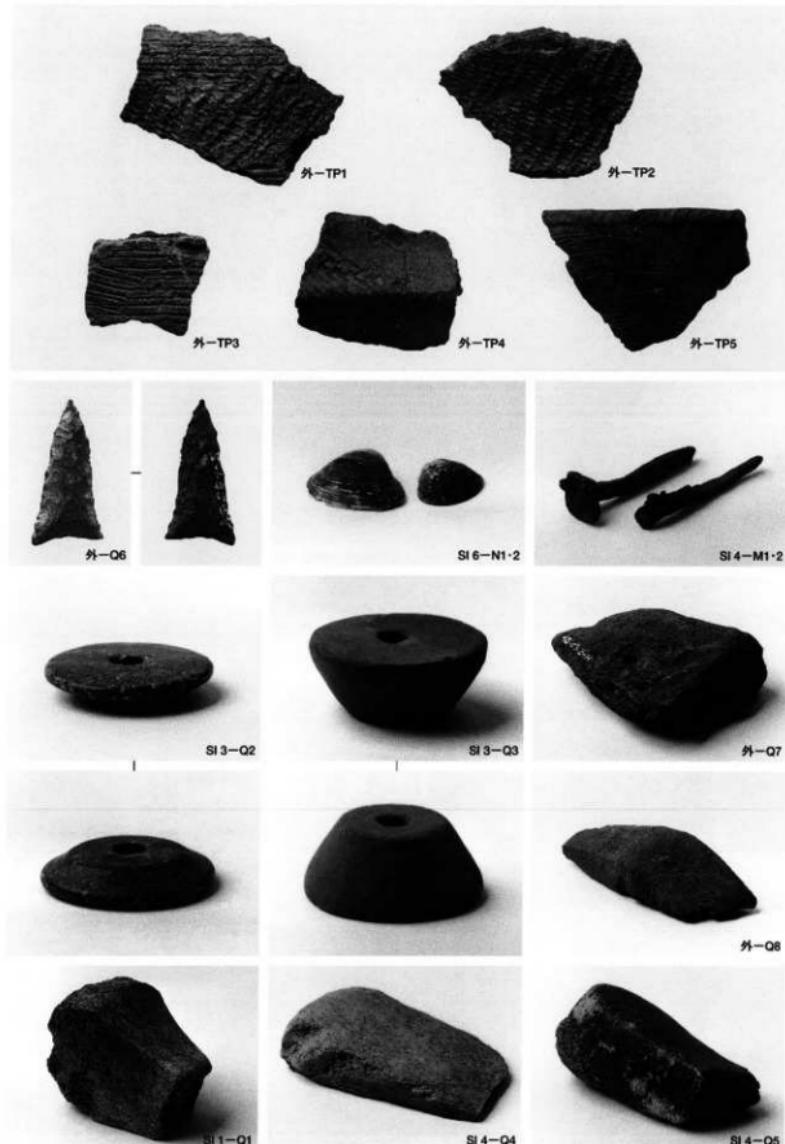


SI 5-14



SI 1-2

第1·3·5·6住居跡，第1号土坑出土遺物



第1・3・4・6住居跡、造構跡外出土遺物

写 真 図 版

大 高 田 遺 跡



第 2 号 溝 跡 完 堀 状 況



調査区中央部
遺構確認状況



第1号溝跡
完掘状況



第1号溝跡
土層断面A

PL14



第 1 号 溝 跡
土 層 断 面 B



第 1 号 溝 跡
土 層 断 面 C



第 2 号 溝 跡
土 層 断 面

写 真 図 版

前 烟 遗 跡



第 2 号 沟 跡 遗 物 出 土 状 況



遺跡遠景（南東から）



遺跡全景

PL16



調査区中央部
遺構確認状況



調査終了状況



第1号掘立柱建物跡
P12遺物出土状況



第 2 号 溝 跡
完 堀 状 況



第 2 号 溝 跡
遺 物 出 土 状 況



第 2 号 溝 跡
遺 物 出 土 状 況

PL18



第1号井戸跡
完掘状況



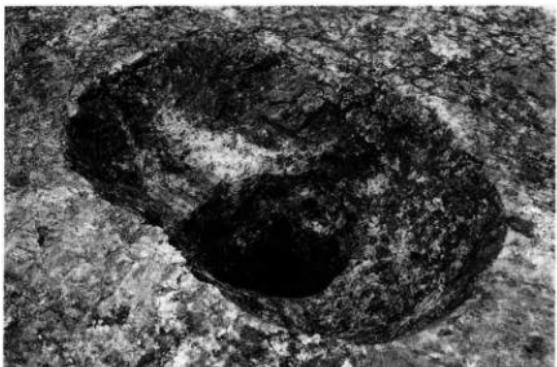
第2号井戸跡
遺物出土状況



第3号井戸跡
完掘状況



第3号井戸跡
遺物出土状況



第230号土坑
完掘状況



第230号土坑
遺物出土状況



SK 104—11



SK 151—14



SK 187—20



SK 288—25



SD 1—98



SD 2—30



SD 2—31



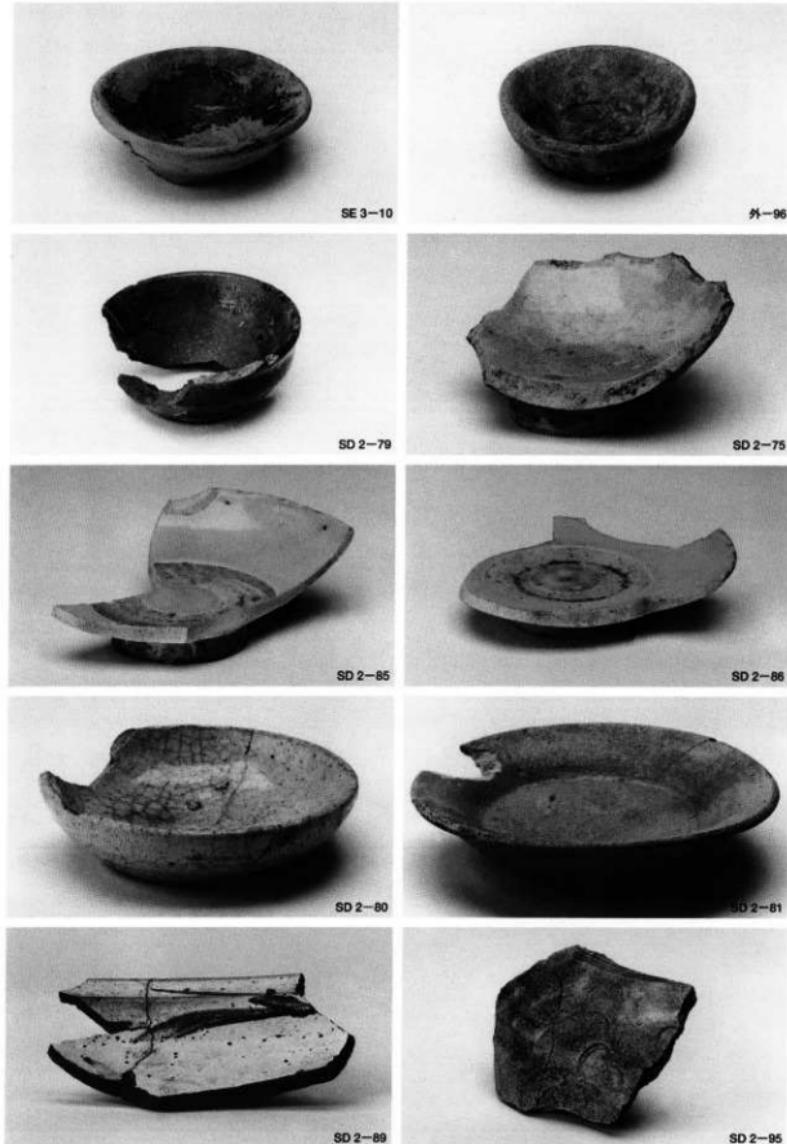
SD 2—32



SD 2—42

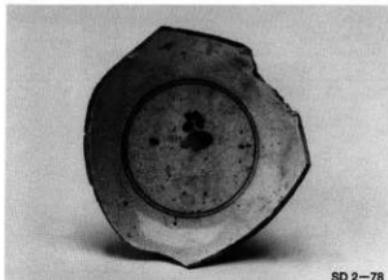


SD 2—43

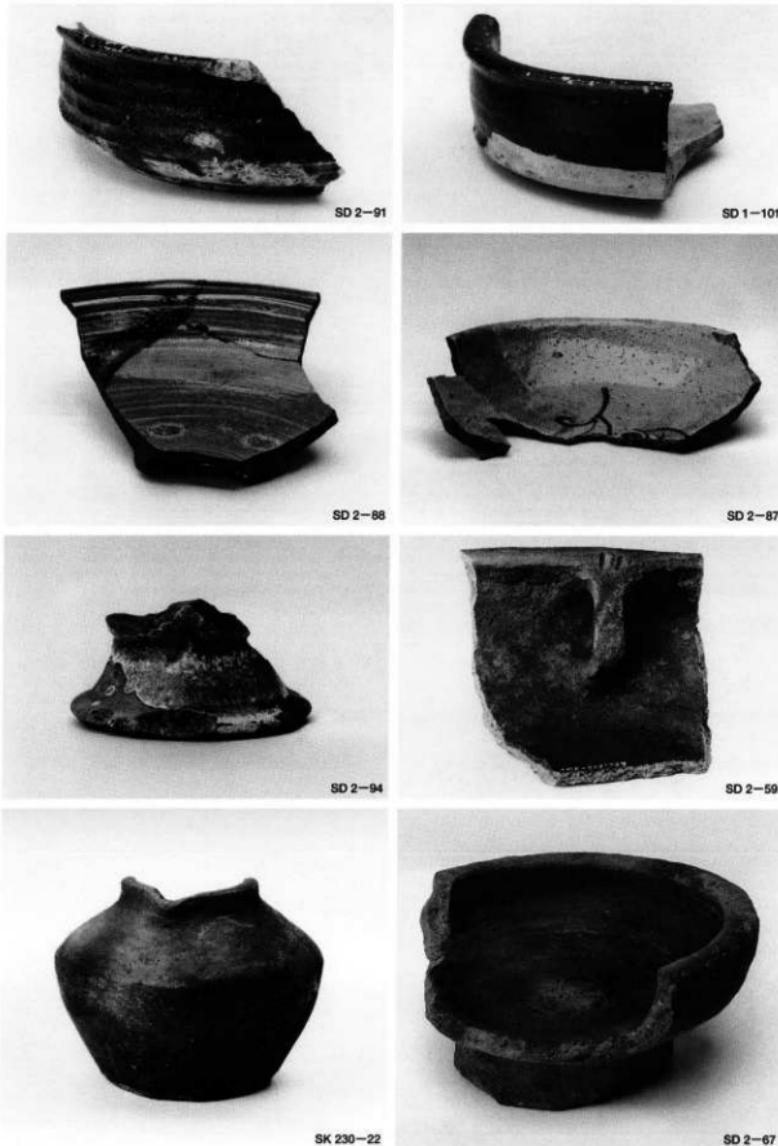


第2号溝跡、第3号井戸跡、遺構外出土遺物

PL22



第2号溝跡出土遺物



第230号土坑，第1·2号溝跡出土遺物

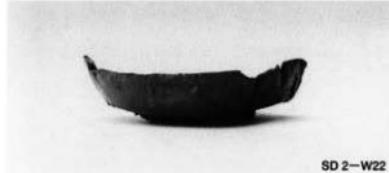
PL24



SD 2-W21



SD 2-62



SD 2-W22



SD 2-63



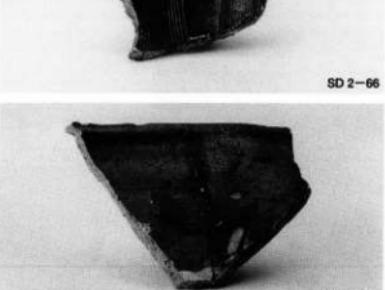
SD 2-W19



SD 2-66



SD 2-50



SD 2-65



SK 176-15



SK 176-16

第176号土坑，第2号溝跡出土遺物



SD 2-64A



外-112



SD 2-64B



外-110



SD 2-M8



SD 2-M9



外-M4



SD 2-M5



SD 2-M6



SD 2-M7



外-M11



SK 40-M1

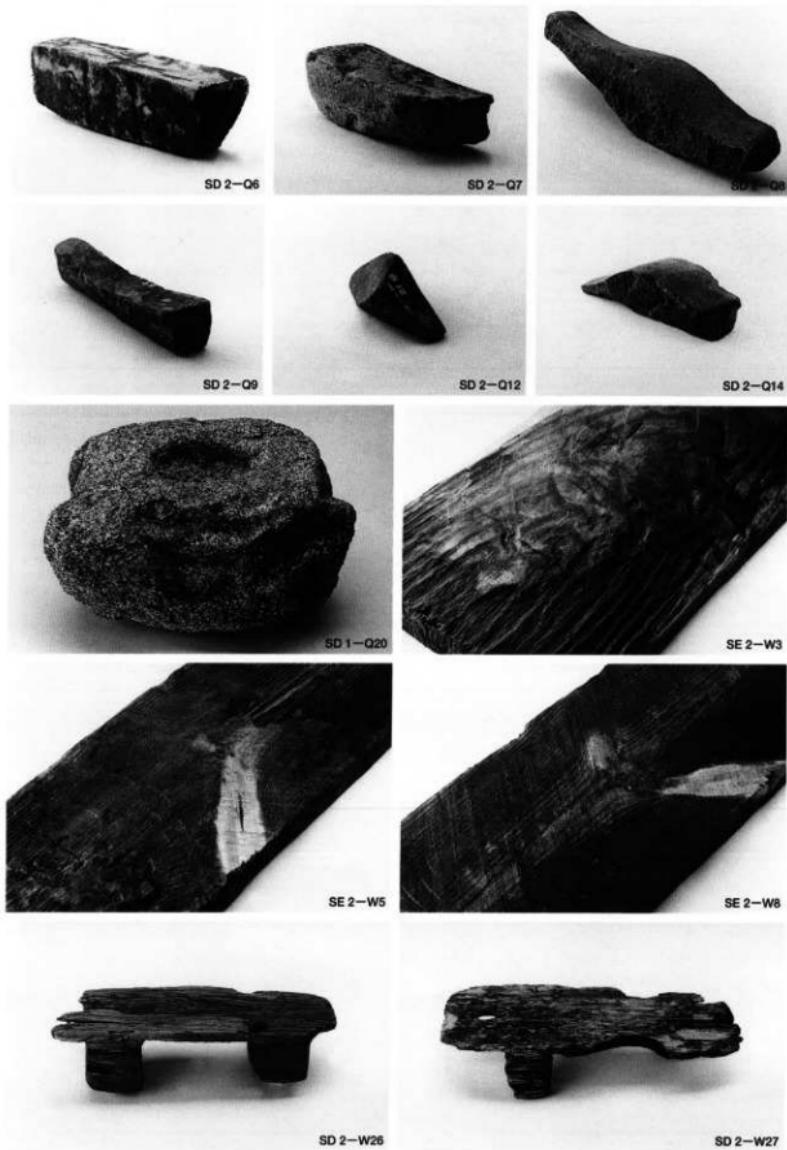


SK 40-M2



SK 40-M3

PL26



第1・2号溝跡、第2号井戸跡出土遺物

茨城県教育財団文化財調査報告第211集

ヲサル遺跡
反子遺跡
大高田遺跡
前畠遺跡

平成16(2004)年3月24日 印刷
平成16(2004)年3月26日 発行

発行 財團法人 茨城県教育財团
〒310-0011 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587

印刷 株式会社 あけぼの印刷社
〒310-0804 水戸市白壁1丁目2番11号
TEL 029-227-5505

付 図

茨城県教育財団文化財調査報告第211集

前畠遺跡遺構全体図

反子・大高田遺跡遺構全体図



+
B2

-10-

-



**付図 茨城県教育財団文化財調査報告第211集
前 番 遺 跡 遺 構 全 体 図**



付図 茨城県教育財團文化財調査報告第211集 反子・大高田遺跡遺構全体図

